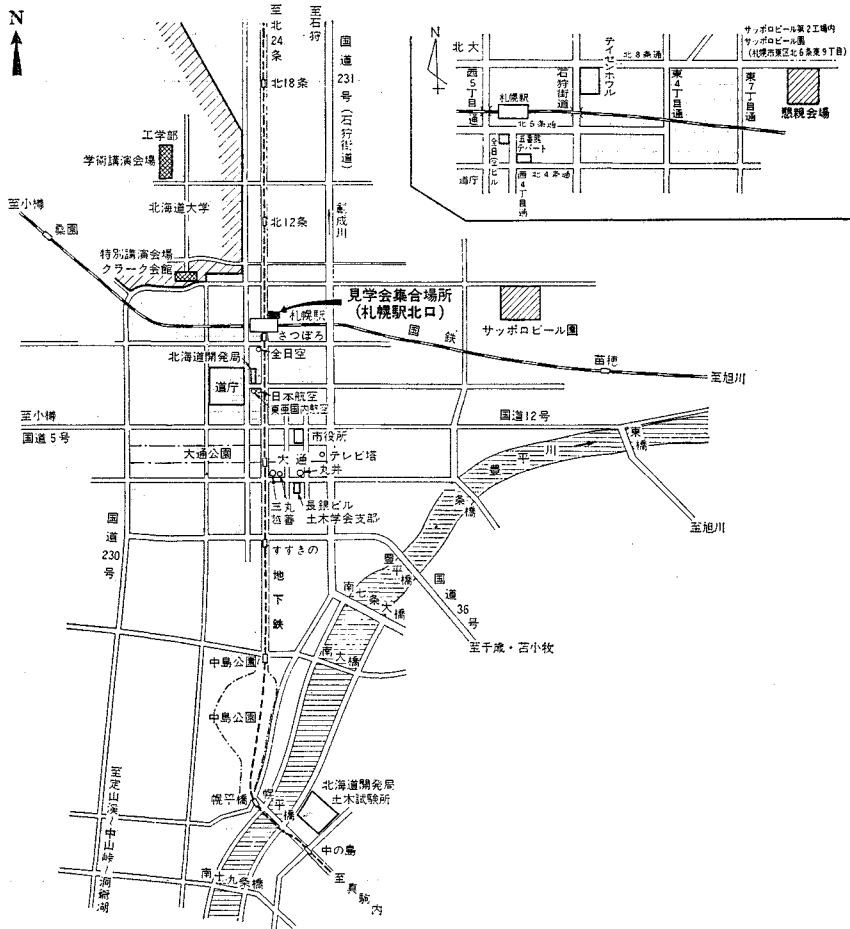


⊕ 土木学会昭和48年度全国大会 ⊕

行事・会場案内

行 事	日 時	会 場	会 場 経 路
特別講演会	10月1日(月) 9.00~12.00	北海道大学 クラーク会館	◎北海道大学クラーク会館 電話(011)711-2111
第28回年次 学術講演会	10月1日(月) 13.00~16.00	北海道大学工学部	札幌市北区北8条西8丁目 国鉄 札幌駅北口下車 徒歩10分 地下鉄 北12条下車 徒歩10分
	10月2日(火) 9.00~16.00		
	10月3日(水) 9.00~17.00		
研究討論会	10月1日(月) 16.00~17.30	北海道大学工学部	◎北海道大学工学部 電話(011)711-2111 札幌市北区北13条西8丁目 地下鉄 北12条下車 徒歩7分
	10月2日(火) 16.00~17.30		
映 画 会	10月1日(月) 13.00~16.00	サッポロビール園	◎サッポロビール園 電話(011)742-1531 札幌市東区北6条東9丁目 北大工学部前より研究討論会終了後(17.30) 貸切バスを運行します 市営バス, 大通バスセンターから3番苗穂線 北7条東8丁目下車
	10月2日(火) 9.00~16.00		
	10月3日(水) 9.00~16.00		
懇 親 会	10月1日(月) 18.00~19.30	サッポロビール園	
見 学 会	10月4日(木) 9.00~16.30	札幌市内コース 千歳回りコース 函館回りコース	◎集合場所・時刻 札幌駅北口 8時45分
	10月4日(木) 9.00~		
	10月5日(金) 16.20		
	10月4日(木) 9.00~		
	10月5日(金) 16.30		



1 特別講演会 (3題)

会場：北海道大学クラーク会館

月 日	時 刻	講 演 題 目	講 演 者
10月1日(月)	9.00~10.00	建設産業の海外進出	土木学会会長 飯田 房太郎
	10.00~11.00	北海道開発の現状と今後の方向	北海道知事 堂垣内尚弘
	11.00~12.00	生命の凍結	北海道大学低温科学研究所長 朝日奈英三

2 第28回 年次学術講演会

研究発表 (1029題)

会場：北海道大学工学部

月 日	時 刻	部 門 別 講 演 数				
10月1日(月)	13.00~16.00	第I部門	第II部門	第III部門	第IV部門	第V部門
10月2日(火)	9.00~16.00	255 題	271 題	186 題	161 題	156 題
10月3日(水)	9.00~17.00					

3 研究討論会

本年度は、各部門から 1~2 テーマを選定し、座長および話題提供者を中心に、一般会員に自由に参加していただき討議を行ないます。

会場：北海道大学工学部

月日・時刻	会 場	研究討論会 題目(世話人)	座長及び話題提供者
10月1日(月) 16.00~17.30	工 学 部 講 義 室 B 21	第5回世界地震工学会議のトピックス (第I部門, 耐震工学委員会)	座長：林 聡(運輸省) 話題提供者： 後藤 尚男(京都大学) 田村重四郎(東京大学) 桜井 彰雄(電力中央研究所) 栗林 栄一(建設省)
主旨：第5回世界地震工学会議で発表された興味ある論文について紹介する。			
10月2日(火) 16.00~17.30	工 学 部 講 義 室 B 32	寒冷地における溶接構造用鋼材 (第I部門, 鋼構造委員会)	座長：渡辺 昇(北海道大学) 話題提供者： 阿部 英彦(国鉄) 堀川 浩甫(東京都立大学) 進藤 弓弦(日本製鋼所) 大島 久(北海道開発局)
主旨：わが国では幸い寒冷地溶接鋼橋で脆性破壊をおこし、大事故に及んだ事例を聞かないが、諸外国や他の溶接構造ではいくつか例がみられる。そこでわが国の寒冷地用溶接構造物の設計や製作についてどのように考慮を払い、また示方書類は、それらについてどのように定めているかが論ぜられる。			
10月2日(火) 16.00~17.30	工 学 部 講 義 室 B 31	人 間 と 川 (第II部門, 水理委員会)	座長：摩 力(北海道大学) 話題提供者： 岩佐 義朗(京都大学) 高橋 裕(東京大学)
主旨：工業と人口の集積が急速に進む巨大都市の出現は、人間と川とのかかわり合いに、多くの新しい問題をもたらした。この討論会では、人間活動が河川に及ぼす影響の評価方法、激変する流域環境の下での河川計画のあり方を考えたい。			

10月1日(月) 16.00~17.30	工 学 部 室 講 義 室 B 32	軟弱地盤における土工の調査、設計、施工について—主に泥炭地を中心として— (第Ⅲ部門、北海道支部)	座長：宮川 勇(秋田大学) 話題提供者： 大平 至徳(防衛大学校) 渡辺 進(国鉄) 中沢 裕(道路公団) 河野 文弘(北海道開発局)
		主旨：軟弱地盤とくに泥炭性軟弱地盤における土工の調査、設計および施工に関する問題について、各方面の情報交換を行なうとともに、問題の整理と今後の方向の集約を行ない、その成果を、この種業務の実施に反映させようとするものである。	
10月1日(月) 16.00~17.30	工 学 部 室 講 義 室 B 12	膨張性をもった地盤中のトンネル施工について (第Ⅳ部門、トンネル工学委員会)	座長：足立 貞彦(鉄道建設公団) 話題提供者： 星野 憲(北海道開発局) 斉藤 教蔵(国鉄) 小林 一夫(道路公団) 石山 嘉雄(大成建設)
		主旨：地盤の膨張現象については、原因や予知方法も確立されていない現状であるが、膨張性をもった地盤中のトンネル施工対策については、いままでの経験から解っているいくつかの原則があり、これらを最近の諸例から検討し再確認する。	
10月2日(火) 16.00~17.30	工 学 部 室 講 義 室 B 21	土地利用と開発計画 (第Ⅳ部門、土木計画学研究委員会)	座長：小川 博三(北海道大学) 話題提供者： 八十島義之助(東京大学) 堀 武男(新日本製鉄) 市瀬 勲(北海道開発局)
		主旨：国土の開発と保全是車の両輪であるが、その施行は土木技術者であり、その対象は土地利用であり、その計画は開発計画である。ここには立場の異なる3氏に話題の提供を求め、世の関心を集めているこの問題を討議したい。	
10月1日(月) 16.00~17.30	工 学 部 室 講 義 室 B 31	コンクリート構造におけるプレキャスト部材の活用 (第Ⅴ部門、コンクリート委員会)	座長：横道 英雄(北海道大学) 話題提供者： 岡田 清(京都大学) 野口 功(国鉄) 松本 嘉司(東京大学) 三浦 一郎(日本コンクリート工業) 伊藤 義則(道路公団)
		主旨：陸上、河川、海洋のすべての構造物にRCおよびPCのプレキャスト部材を活用する場合の完成前後のいっさいの問題、すなわち計画、経済、設計、製作、組立て、静・動荷重に対する安全度、耐力、耐久性、材料などを含む。	

4 懇 親 会

会場：札幌ビール園

月 日	時 刻	参 加 費	方 式
10月1日(月)	18.00~19.30	1500円	キングバイキング (ジンギスカン鍋)

参加申込：本号添付の申込書に参加費1500円を添えて8月31日(金)までにお申込み下さい。欠席の場合も参加費は返金いたしません。

貸切バス：当日研究討論会終了後、北大～札幌ビール園間に貸切バスを運行いたします。ご利用下さい。

5 映画会

会場：北海道大学工学部 講義室 B21

月 日	時 刻	上 映 映 画
10月1日(月)	13.00~16.00	北海道への招待・日高をひらく・土石流・蛇紋岩トンネル掘さくの記録・樹海・本州四国連絡橋
10月2日(火)	9.00~16.00	北方領土・新全断面掘削工法・札幌の水道・地すべり・苫小牧港の建設・流水・石狩河口橋・凍結工法・豊平峡ダム・地熱にこだむ
10月3日(水)	9.00~16.00	美しきオホーツク・砂丘に築く・札幌の地下鉄・水はよみがえる・道・青函トンネルにおける水平先進ボーリング・神戸大橋・振動の世界・海底資源と闘う・世界の都市開発(ヨーロッパ編・アメリカ編)・北海道の秋

注：都合により内容の一部に変更があるかもしれません。

6 見学会

(1) 日帰りコース

コース名	期 日	定 員	参加費	見 学 コ ー ス
札幌市内コース	10月4日(木)	80名	1500円	札幌駅北口(9.00)ー札幌新道ー円山, 真駒内冬季オリンピック施設ー藻岩山ー豊平川幹線道路ー時計台ー月寒羊丘公園ー道庁(解散)(16.30)

(2) 1泊2日コース

コース名	期 日	定 員	参加費	見 学 コ ー ス
千歳回りコース	10月4日(木) ~5日(金)	40名	10000円	札幌駅北口(9.00)ー豊平峡ダムー国道230号, 中山峠ー洞爺湖ーオロフレ峠ー登別温泉(泊)ー登別温泉(9.00)ー苫小牧工業港ー支笏湖ー千歳空港(15.00)ー札幌(解散)(16.20)
函館回りコース	10月4日(木) ~5日(金)	40名	11000円	札幌駅北口(9.00)ー支笏湖ー苫小牧工業港ー登別温泉ーオロフレ峠ー洞爺湖(泊)ー洞爺湖(9.00)ー国道5号, 森バイパスー大沼公園ー函館(解散)(16.30)

参加申込：本号添付の申込書に参加費を添えて8月31日(金)までにお申込み下さい。

注：1. 満員になりしだい締切ります。

2. 1コース30名に満たない場合は中止します。

3. 欠席の場合は参加費は返しません。中止の場合は全額返します。

7 宿泊および乗車券

宿泊および乗車券のお世話はいたしません。各自でご手配下さい。

8 第28回年次学術講演概要集

B5版にオフセット印刷した講演概要集を部門別分冊として頒布いたします(9月上旬土木学会本部内全国大会講演概要集係より送本予定)。頒布は原則として予約制です。

部 門	部 門 別 内 容	題 数	頁 数	頒 価
第 I 部	応用力学, 構造力学, 構造工学, 橋梁一般, 鋼橋など	255	約 590	1600円
第 II 部	水理学, 水文学, 河川工学, 海岸工学, 港湾工学, 発電水力, 衛生工学など	271	約 620	1700円
第 III 部	土質力学, 基礎工学, 岩盤力学など	186	約 430	1200円
第 IV 部	道路工学, 鉄道工学, 交通計画, 都市計画および地域計画, 測量など	161	約 380	1000円
第 V 部	土木材料, 土木施工法, コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学など	156	約 370	1000円
合 計		1029題	約2390頁	6500円

購入申込：本号添付の申込書に代金を添えて8月31日(金)までに下記へお申込下さい。期限内申込みに限り送料は学会負担

9 申 込 先

〒060 札幌市中央区南1条西2丁目 長銀ビル

土木学会北海道支部内 全国大会係 電話 札幌 (011) 261-7742

10 第 28 回年次学術講演会プログラム

第 I 部門 (応用力学・構造力学・構造工学・橋梁一般・鋼橋など)

▶工学部講義室 108 10月1日(月)

個人発表(構造解析 1) 13:00~14:15

- (I-1) 任意三次元骨組の有限変位理論
信州大正 ○谷本 勉之助
" " " 夏目 正太郎
- (I-2) 任意平面構造物の初期値を考慮した有限変位の考察
信州大正 谷本 勉之助
" " 学 ○稲 正太郎
" " " 葉 輝
- (I-3) 連続体の有限変形に関する一考察
北大正 横道 英雄
" " " ○佐伯 昇
- (I-4) 吊橋主塔の大変形解析のための一計算法
都立大正 ○三品 徹人
" " 学 ○伊藤 文
- (I-5) セル型矢板構造の側方不安定解析について
北室蘭工大正 能町 純雄
" " 小牧高専 ○沢松 健一
" " " " 岡田 知之
(休憩 10 分)

個人発表(構造解析 2) 14:25~15:55

- (I-6) 多柱基礎の荷重分配性状について
北函館大正 渡辺 昇彦
" " 岩手大 " ○三宮 本裕
- (I-7) 還元法による多層地盤中のくい基礎と上部構造の一体解析
九日本技術開発大正 ○彦坂 照行
" " " " 大 佐竹 正明
" " " " 九 沼 彦彦
- (I-8) 板とパイプとの接合問題について
東埼玉大正 奥村 敏恵
" " " " 浜島 良吉
- (I-9) 曲げと振りの組み合わせ荷重を受ける鋼管の弾塑性解析法(その1)
九宮崎大正 ○太田 俊昭
" " " " 中 沢 隆雄
- (I-10) プレストレスを導入した球面シェルの解析
東工大正 吉田 裕幸
" " 大成建設 " 小原 忠一
" " " " ○加々美 修
- (I-11) 2-箱桁橋の曲げと曲げねじりの考察
日大理工正 遠藤 篤康

▶工学部講義室 108 10月2日(火)

個人発表(構造解析 3) 9:00~10:30

- (I-12) 骨組構造の相似則とその応用
熊本大正 ○三池 亮次
" " " " 大 組 直邦
" " " " 熊 本 高 濱
- (I-13) 不均一な弾性をもつ材料の微分幾何学的考察
東北大正 佐野 正雄
" " " " ○岸 武佑
- (I-14) Transfer matrix 法に関する一考察
(双曲線関数項を含む場合)
大阪市大正 中井 博

- (I-15) 拡張したモンテカルロ法による信頼性オーダーの推定
武蔵工大正 星谷 勝清
" " " " 学 ○石井 隆
- (I-16) 荷重履歴による強度劣化を伴う構造物の信頼性理論
京大正 ○小池 武行
" " " " 学 ○亀田 弘
- (I-17) トラスの信頼性について
金沢大正 小堀 為雄
" " " " 石川高専 ○出村 裕典
(休憩 10 分)

個人発表(構造解析 4) 10:40~11:55

- (I-18) 連続体力学の構成に関する二、三の考察
京大正 小林 昭祥
" " " " 学 ○矢富 一祥
- (I-19) 直方体の応力解析について(その2)
北見工大正 奥村 勇
- (I-20) ひびわれを生ずる不均質3次元体の1数値解法
大阪工大正 ○岡村 宏一
" " " " 東洋技研C " 島田 功
- (I-21) キャステレーテッド・ビームの孔形状について
九大正 後藤 恵之助
- (I-22) 無限体中の円孔に部分分布力が作用するときの3次元応力解析について
室蘭工大正 能町 純雄
" " " " ○松岡 健一
(休憩 5 分)

個人発表(構造解析 5) 13:00~14:15

- (I-23) 任意平面構造解析の汎用プログラム
信州大正 谷本 勉之助
" " " " " " 夏目 正太郎
" " " " " " ○石川 清志
- (I-24) 仮想の巨大なトラス橋の電算解
信州大正 ○夏目 正太郎
" " " " " " 谷本 勉之助
- (I-25) 小型電算機用の格子の影響線載荷汎用プログラム
日本構造橋梁正 野中 樹司
" " " " " " 野 興
" " " " " " ○夏目 正太郎
- (I-26) 格子構造による一般連続体のモデル化について
京大正 丹羽 義次
" " " " " " 小林 昭
" " " " " " ○田村 武
- (I-27) 曲げに抵抗し、せん断力に対して滑る横材を有する格子構造について
北室蘭工大正 能町 純雄
" " " " " " 学 ○古路 健一
(休憩 10 分)

個人発表(構造解析 6) 14:25~15:55

- (I-28) 板・トラス構造の立体解析について
北大正 渡辺 昇修
" " " " " " 学 ○片山 修
- (I-29) 箱型トラスのねじり解析について
本四公団正 ○藤井 郁夫
" " " " " " 新日本技研 " 倉 方 夫

(I-30) 箱型トラス橋の立体的力学特性と強度設計に関する研究
 大 阪 大 正 小 松 定 夫
 " " " 学 ○ 平 山 宣 健 男

(I-31) 骨組構造物のもつ位相幾何学的特性に関する二、三の考察
 京 大 正 小 西 一 郎
 " " " " ○ 白 石 口 成 健 男

(I-32) トラス格点構造部の局部応力
 住 友 金 属 正 ○ 塚 本 雅 敏
 住 友 重 機 械 " " 堀 川 成 浩 幸 甫
 都 立 大 " " 堀 川 成 浩 幸 甫

(I-33) 任意形状部材の平衡および剛性マトリックス
 熊 本 大 正 三 池 亮 次
 熊 本 大 学 ○ 石 崎 田 亮 博 生

▶工学部講義室 108 ————— 10月3日(水)

個人発表(有限要素法 1)
 9:30~10:30

(I-34) 最小二乗変分原理に基づく有限要素法
 川 崎 重 工 正 ○ 坂 井 藤 一
 " " " " ○ 河 合 三 四 郎

(I-35) 三次元アイソパラメトリック要素より作られる板曲げ要素について
 日 本 電 子 計 算 正 菊 池 雅 男
 " " " " 正 菊 池 雅 男

(I-36) 有限要素解析におけるアナロジーについて
 C R C 正 武 田 洋

(I-37) 有限要素法と差分法の等価性
 川 崎 重 工 正 坂 井 藤 一
 (休憩 10 分)

個人発表(有限要素法 2)
 10:40~11:55

(I-38) 分布荷重による有限要素法(第1報)
 信 州 大 正 本 勉 之 助
 " " " " ○ 夏 谷 目 正 太 郎
 " " " " 学 ○ 柄 沢 安 衛

(I-39) 平板の剛性マトリックスに対する一考察
 法 政 大 正 大 地 羊 三

(I-40) 有限要素法における剛性マトリックス組立の有効なプログラム法
 港 湾 技 研 正 岩 崎 峯 夫

(I-41) 非線形パネ支承上梁の有限要素法について
 中 央 大 正 ○ 大 坂 一 人
 " " " " ○ 川 原 陸

(I-42) 有限要素法における非線形連立代数方程式の解法について
 中 央 大 正 ○ 川 原 陸 一 人
 " " " " ○ 大 坂 一 人
 (休憩 65 分)

個人発表(有限要素法 3)
 13:00~14:30

(I-43) 有限要素法による平面弾塑性問題の解析法について
 大 阪 大 正 小 松 定 夫
 " " " " ○ 北 田 俊 行

(I-44) 有限要素法による土中埋設鋼管の応力解析
 電 力 中 研 正 岩 楯 敏 広

(I-45) 水圧下にある薄肉シユールの有限要素法による幾何的非線形解析
 東 工 大 正 吉 田 裕 紀
 " " " " ○ 増 田 陳

(I-46) 有限要素法による構造物に作用する流体力の解析
 秋 田 大 正 ○ 薄 今 三 一
 " " " " ○ 木 野 隆

(I-47) (欠 番)

(I-48) Conjugate projection の構造解析への応用
 用 東 北 大 正 佐 武 正 雄 茂
 " " " " ○ 新 関 隆 茂

▶工学部講義室 C 14 ————— 10月1日(月)

個人発表(応力測定 1)
 13:00~14:15

(I-49) 内部応力解析における傾斜入射法の適用性
 都 立 大 正 山 本 稔 一
 " " " " ○ 山 崎 良 正
 和 歌 山 高 専 " " ○ 尼 田 良 正

(I-50) 円孔を有する角柱材のねじり実験
 都 立 大 正 ○ 山 本 稔 一
 新 日 鉄 大 " " 小 山 林 崎 磨 良
 都 立 大 " " 小 山 林 崎 磨 良

(I-51) 光弾性による基礎構造物の応力測定について
 東 洋 大 正 ○ 高 田 延 孝 生
 " " " " ○ 新 田 延 孝 生

(I-52) 安家川P Cトラスに関する光弾性実験
 明 星 大 正 安 井 将 夫 文
 " " " " ○ 孤 島 将 夫 文

(I-53) 2ヒンジ偏心支持アーチの光弾性実験による応力解析
 明 星 大 正 安 井 将 夫 文
 (休憩 10 分)

個人発表(応力測定 2)
 14:25~15:40

(I-54) 上床開放型式の沈埋涵用鋼殻について
 日 本 鋼 管 正 中 山 義 昭 夫
 " " " " ○ 渡 辺 信 義 昭 夫

(I-55) 東北自動車道利根川橋梁の応力測定について
 道 路 公 団 正 林 崎 直 臣 孝 夫
 東 京 鉄 骨 橋 梁 " " ○ 松 井 村 忠 臣 孝 夫
 桜 田 機 械 " " ○ 松 井 村 忠 臣 孝 夫

(I-56) HT-80 鋼構造部材の圧縮-ねじり挙動について
 大 阪 大 正 小 松 元 夫 郎
 熊 本 大 " " ○ 崎 元 夫 郎

(I-57) 大型試験片による HT-80 溶接部のプレス加工の影響調査
 阪 神 公 団 正 笹 戸 松 二
 都 立 大 " " 堀 川 元 浩 義 甫 久
 阪 神 公 団 " " ○ 水 松 元 浩 義 甫 久

(I-58) 高張力鋼部材の残留応力
 名 建 設 大 省 正 菊 池 洋 一 浩 茂
 名 大 学 ○ 高 神 井 洋 周 一 浩 茂

▶工学部講義室 C 14 ————— 10月2日(火)

個人発表(座屈 1)
 9:30~10:30

(I-59) 変厚補剛板の非弾性圧縮座屈
 関 西 大 学 ○ 堂 垣 正 博 威 博
 " " " " ○ 三 米 上 沢 正 市 博 威 博

(I-60) 残留応力及び異なる剛比をもつリブ単純支持板の座屈について
 大 阪 大 正 前 田 幸 雄 司
 大 阪 府 高 専 " " ○ 日 笠 隆 幸 雄 司

(I-61) 帯板法によるリブ付板の弾塑性座屈解析
 東 大 学 ○ 大 長 孝 彰 敏 二 夫 患
 " " " " ○ 長 谷 川 村 敏 二 夫 患
 " " " " 正 奥 村 敏 二 夫 患

(I-62) 扇形腹板の座屈値について
北 大 正 渡 辺 昇
" " 学 ○川 上 河
(休憩 10 分)

個人発表 (座屈 2)
10:40~11:55

(I-63) 溶接H型鋼柱の座屈強度分布
名 大 正 ○青 木 徹 彦
" " 福 本 本 博 彦
(I-64) 変断面H形鋼柱の強度と変形
金 沢 大 正 ○吉 田 博 彦
" " 西 田 田 進
(I-65) フラット・スラブ構造の柱座屈に関する研究
九 大 正 岡 武 介 雄
" " 高 橋 周 和
長 崎 大 正 ○井 木 福 橋 周 和
(I-66) Tree method による剛節骨組の安定解析
徳 島 大 正 児 嶋 弘 行 潔 人
" " 市 " 尾 木 克 行 潔 人
神 戸 市 " ○青 嶋 尾 木 克 行 潔 人
(I-67) 骨組構造物の動的弾性座屈について
山 口 大 正 学 ○会 田 忠 博 三
" " " 伯 田 忠 博 三
(休憩 65 分)

個人発表 (座屈 3)
13:00~14:15

(I-68) プレートガーダー腹板の曲げ座屈試験
国 鉄 構 設 正 ○阿 部 越 田 英 昭 夫 彦 昭 夫
" " " " 水 奥 田 英 昭 夫
(I-69) ウェブの曲げ座屈強度に関する一考察
東 大 学 ○長 谷 川 野 村 彰 文 敏 夫 雄 恵
" " " " 西 野 村 彰 文 敏 夫 雄 恵
(I-70) プレートガーダーの横倒れ座屈
関 西 大 正 ○武 田 八 郎 威 博
" " " " 三 米 上 沢 八 郎 威 博
(I-71) 伝達マトリックス法によるアーチの面内弾性座屈解析について (第2報)
神 戸 製 鋼 正 波 田 凱 夫 徹 洋
" " " " ○頭 井 田 家 井 夫 徹 洋
(I-72) 正弦波地動を受けるアーチの弾性座屈について
山 口 大 学 ○佐 伯 博 三 義
" " 正 会 田 博 三 義
(休憩 10 分)

個人発表 (耐力力 1)
14:25~15:40

(I-73) はりの曲げ (降伏点を越える) によって生じる支点の水平反力について
岐 阜 大 学 ○佐 藤 幹 雄 肇
" " 正 井 上 藤 幹 雄 肇
(I-74) プレートガーダー腹板のせん断座屈後の状態に関する考察
東 洋 大 正 新 延 泰 生
(I-75) 水平補剛材をもつプレートガーダーの曲げ耐力
名 大 正 ○福 本 啓 士 弘
" 城 大 " 久 保 全 士 弘
(I-76) プレートガーダーのフランジ剛度が耐力力に及ぼす影響に関する実験的研究
神 戸 製 鋼 正 森 脇 良 一 之 郎
" " " " ○藤 野 本 良 一 之 郎
" " " " 滝 本 良 一 之 郎

(I-77) プレートガーダーの耐力力に関する研究
一幾何学的モデルによる曲げ耐力力
神 戸 製 鋼 正 森 脇 良 一 之 郎
" " " " ○滝 本 良 一 之 郎
" " " " 滝 本 良 一 之 郎

▶工学部講義室 C 14 10月3日(水)

個人発表 (耐力力 2)
9:30~10:30

(I-78) 全塑性モーメントとせん断力の関係に関する研究
石 川 高 専 正 ○中 村 田 昭 英 博 敏
" 金 沢 大 " " 吉 野 内 田 昭 英 博 敏
(I-79) リフ付き鋼板の弾塑性曲げ座屈
大 阪 工 大 正 岡 村 宏 一 意
" 東 洋 技 研 C " " 吉 野 内 田 昭 英 博 敏
(I-80) 剛節トラスの耐力力について
名 大 正 学 菊 水 洋 一 之 夫
" " " " ○三 野 田 和 洋 一 之 夫
(I-81) 立体剛節骨組の自動弾塑性解析
徳 島 大 正 学 児 嶋 尾 野 弘 行 潔 人
" " " " ○平 野 照 行 潔 人
(休憩 10 分)

個人発表 (耐力力 3)
10:40~11:55

(I-82) 強制変位を受ける柱ハリの耐力力について
東 北 大 正 学 ○倉 西 本 茂 郎 夫
" 鹿 島 建 設 大 学 " 橋 雨 二 良 夫
(I-83) セグメントリングの耐荷機構について
早 大 正 学 ○村 上 博 智 淳
" " " " 小 上 博 智 淳
(I-84) 三層複合版系組立浄化槽の構造と耐力
中 央 機 構 正 ○西 沢 紀 昭 勉
" 開 発 機 構 " " 安 田 沢 紀 昭 勉
(I-85) コンクリート充てん鋼格子床版の耐力力について
神 戸 製 鋼 正 波 田 凱 夫 徹 洋
" " " " ○守 家 夫 徹 洋
(I-86) 孔を有するH形はりの極限解析について
広 島 大 正 学 ○大 村 裕 実 一
" " " " ○上 野 谷 真 一 裕 実 一

▶工学部講義室 C 17 10月1日(月)

個人発表 (桁橋 1)
13:00~14:15

(I-87) 弾性支承上のPC連結桁のクリープ二次モーメントの解析
九 大 正 学 彦 坂 照 明
" " " " ○小 八 重 憲 照 明
(I-88) 多層サンドイッチ梁の2,3の性質について
愛 媛 大 正 学 見 重 光 美 徹
" 呉 媛 大 学 " 永 松 繁 恒 光 美 徹
(I-89) 2-主桁橋の桁間隔と床版応力分布との相関に関する実験的研究
日 大 理 工 正 若 下 藤 紀
(I-90) 曲げ応力の生ずるT形梁における有効幅に関する一考察
日 大 生 産 工 正 木 田 哲 量 貞 忠
" 佐 清 工 業 " " 阿 藤 部 量 貞 忠
" 日 大 生 産 工 " " ○阿 藤 部 量 貞 忠
(I-91) 直交格子フランジを有する桁の有効面積比に関する研究
神 戸 製 鋼 正 新 中 家 村 徹 市 一
" " " " ○中 村 河 徹 市 一
" " " " 河 徹 市 一
(休憩 10 分)

個人発表(桁橋 2)
14:25~15:40

- (I-92)◎ 合成構造におけるコンクリートのクリープ、収縮の影響の算定法—プレフレックスばりの場合—
大阪工大 正 赤尾 親 助
〇栗平 田城 章 光
〇学 〇彦 〇弘
- (I-93)◎ 多主桁合成斜橋の力学的特性について
九大 正 彦 坂谷 照
〇内長 尾 保
〇学 〇内長 孝 俊
- (I-94)◎ 支点部に補剛構を有する連続合成桁について
大阪工大 正 赤尾 親 助
〇栗平 田城 章 光
〇学 〇彦 〇弘
- (I-95)◎ 幾何学的非線形性を考慮した曲線桁橋の静的解析について
大阪市大 正 〇事 口 寿 男
〇中 井 博
- (I-96) 曲線桁橋のねじれ数比 K 値について
大阪市大 正 中 井 博
〇神岡 田 井 好
〇日立造船 〇今 井 功

▶工学部講義室 C 17 10月2日(火)

個人発表(最適設計 1)
9:30~10:30

- (I-97)◎ トラス橋の最適設計法に関する2,3の研究
法政大 正 大地 羊 三
〇野村 川田工業 〇野村 俊
- (I-98) 信頼性にもとづく不静定トラスの最適設計
愛媛大 正 大久保 禎 二
〇畠田 隆 司
- (I-99)◎ 骨組構造物の最適設計(その4)
一補剛アーチ桁の最適設計と構造特性—
北大 正 渡 辺 昇
〇杉本 博 之
- (I-100) 製作費を考慮したI型梁のSUMT法による最適設計について
長崎大 正 小西 保 則

(休憩 10分)

個人発表(最適設計 2)
10:40~11:55

- (I-101) 複合鋼部材の信頼性について
神戸大 正 西村 昭
〇土居 憲 司
- (I-102)◎ 設計条件に幅がある場合の最適設計法
信州大 正 長 尚
- (I-103) 非線形計画法による最適設計に関する一考察
中央大 正 岡内 功
清水建設 〇田蔵 隆
大成建設 〇田蔵 野 和 夫
- (I-104)◎ RCラーメンの最適塑性設計
防衛大 正 石川 信 隆
- (I-105) 2線2柱式鉄道標準高架橋の経済設計(その1)
近畿大 正 〇宮脇 秀
富士通フコム 〇木村 年
〇斎藤 昌 和

(休憩 65分)

個人発表(合成桁)
13:00~14:15

- (I-106)◎ スタッドジョイントを用いたデッキプレート合成床版の実験報告
アルス製作所 正 坂本 孝

- (I-107) 合成桁端部床版のせん断補強に関する実験的研究
神戸大 正 西村 昭
〇山本 文
阪神公団 正 〇山口 浩 二
- (I-108) 合成桁としての方杖橋について
日大工 正 〇浪越 勇
〇五郎丸 英 博
- (I-109)◎ 鉄筋コンクリート床版の剛度および横桁、横構の多主桁合成におよぼす影響について
東大 正 〇奥村 敏
〇佐藤 政 恵
- (I-110)◎ 2径間連続曲線合成桁の実験的研究(第2報)
大阪大 正 前田 幸 雄
高田機工 〇井 汲 久

(休憩 10分)

個人発表(施工)
14:25~15:40

- (I-111)◎ 道路橋の補強と防振について
金沢大 正 〇小堀 為
〇〇〇 堀川 康
〇〇〇 城 戸 隆 男
- (I-112) PCTラス橋(太田名部橋りょう)の設計施工について
鉄道公団 正 斎藤 俊 彦
〇〇〇 草間 真 男
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
- (I-113) RC逆ランガーアーチ橋(大沢橋りょう)の設計施工について
鉄道公団 正 滝沢 正 道
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 弘
- (I-114)◎ 鋼管矢板井筒の水中切断法について
阪神公団 正 松本 忠
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 心
清水・前田JV 〇〇〇 前 田 宗 司
- (I-115) 仮締切を兼用した鋼管矢板井筒基礎の施工時の挙動について
阪神公団 正 〇石岡 康
清水建設 〇〇〇 菟 原 弘
前田建設 〇〇〇 〇〇〇 健 一

▶工学部講義室 C 17 10月3日(水)

個人発表(設計法 1)
9:30~10:30

- (I-116) 道路橋基本設計手法に関する一考察(その2)
日大生産工 正 木田 哲 量
- (I-117) 材料安全率と荷重係数の相関性に関する一考察
神戸大 正 西村 昭
長大橋設計 〇朴 村 栄 秀
- (I-118)◎ 荷重係数設計法に関する一考察
立命館大 正 〇伊藤 満
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 士
- (I-119)◎ 実働自動車荷重による活荷重合成鋼桁橋の衝撃係数
北開土試 正 大島 久
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 夫
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 利 彰

(休憩 10分)

個人発表(設計法 2)
10:40~11:55

- (I-120)◎ 移動荷重を受ける変断面梁の塑性設計に関する基礎的研究
日立造船 正 竹下 治 之
- (I-121)◎ 骨組構造物の分割設計法に関する研究
京大 正 小西 一
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 成 郎
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 人 均
- (I-122) 湯屋谷橋(立体 π ラーメン橋)の設計について
道路公団 正 斎藤 三
日本鋼管 〇〇〇 菅 原 昌
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 友 久

(I-123)◎ アーチの面外許容応力に関する基礎的考察
 東 北 大 正 倉 西 茂
 " " " " 矢 吹 散
 " " " " 学 北 坂 久

(I-124)◎ 琴浦橋(仮称)工事報告(曲線路面を持ったアーチ橋の一設計試案)
 東 京 都 正 新 井 国 宏
 滝 上 工 業 " " 〇 滝 浦 章 男
 " " " " " " 杉 茂 浩

(休憩 65 分)

個人発表(接合 1)
 13:00~14:00

(I-125)◎ 高張力鋼を用いた穴孔き材の伸び特性
 都 立 大 正 学 堀 川 浩 甫
 " " " " " " 〇 渡 辺 望

(I-126)◎ 支管に軸圧縮荷重をうけるT型パイプ継手の応力状態に及ぼす開孔の影響
 埼 玉 大 正 学 〇 秋 山 成 興
 東 " 大 " " 古 沢 正 男
 " " " " " " 〇 古 沢 正 廣 道

(I-127)◎ 大型シーバース用チューブラ・ジョイントの構造実験
 鹿 島 技 研 正 〇 中 山 三 生
 " " " " " " 野 三 村 陽 二 郎
 " " " " " " 〇 野 三 村 長 二 郎

(I-128)◎ 大型スチール・セグメント継手部の挙動(第2報)千鳥組セグメントにおける継手部の曲げモーメント分担率
 住 友 金 属 正 士 堅 秀
 " " " " " " 〇 山 井 上 純 雄
 " " " " " " " " 上 純 肇

(休憩 10 分)

個人発表(接合 2)
 14:10~15:10

(I-129)◎ 支圧接合の許容応力度について
 神 戸 大 正 学 西 村 昭
 廣 島 工 大 " " 〇 皆 田 理

(I-130)◎ 高力ボルト摩擦継手の表面処理方法とすべり係数の関係について
 日 立 造 船 正 牛 尾 正 之
 " " " " " " 〇 南 小 村 武 洋 男

(I-131)◎ 溶接継手をもつ鋼管杭の曲げ圧縮挙動に関する研究
 川 崎 製 鉄 正 〇 金 子 忠 男
 " " " " " " " " 〇 高 橋 千 代 丸
 " " " " " " " " " " 〇 高 橋 千 代 丸
 " " " " " " " " " " 〇 高 橋 千 代 丸

(I-132)◎ 鋼管杭自動溶接継手部の強度に関する研究
 川 崎 製 鉄 正 〇 高 橋 千 代 丸
 " " " " " " " " 〇 高 橋 千 代 丸
 " " " " " " " " 〇 高 橋 千 代 丸

▶工学部講義室 151 10月1日(月)

個人発表(疲労 1)
 13:00~14:15

(I-133)◎ 疲れ強さからみた有孔板の純断面積評価
 東 工 大 正 学 西 村 俊 夫
 環 境 庁 " " 〇 三 横 木 千 和 寿 伸

(I-134)◎ 切欠を有する板の疲労性状について
 東 工 大 正 学 西 村 俊 夫
 日 本 鋼 管 " " 〇 福 沢 千 小 太 郎

(I-135)◎ 変動応力をうける軟鋼材の疲れ強さ
 東 工 大 正 学 西 村 俊 夫
 韓 国 漢 陽 大 " " 〇 張 東 一 夫
 東 工 大 " " " " 〇 三 木 千 寿

(I-136)◎ 繰り返し荷重を受ける切欠部材の応力ひずみ挙動(第二報)
 東 " 大 正 〇 奥 村 敏 惠
 " " " " " " 〇 奥 村 敏 淳 志

(I-137)◎ 鋼材の疲労破壊確率に関する基礎的研究
 大 阪 大 正 小 松 夫
 " " " " " " 〇 中 山 定 隆 弘

(休憩 10 分)

個人発表(疲労 2)
 14:25~15:40

(I-138)◎ 腐食鋼材の疲労強度
 国 鉄 構 設 正 〇 阿 部 英 彦
 国 鉄 盛 工 " " 〇 稲 橋 葉 紀
 国 鉄 研 究 " " " " 〇 稲 橋 葉 紀 保

(I-139)◎ 薄肉ハイブリッド・ガーダーの曲げ疲労試験(第2報)
 大 阪 大 正 前 田 幸 雄
 大 川 崎 製 鉄 " " 〇 川 井 幸 豊
 大 阪 大 学 " " 〇 中 西 延 仁

(I-140)◎ 繰り返し荷重を受けるI断面鋼桁の曲げ疲労破壊に関する基礎的研究
 室 蘭 工 大 正 〇 中 志 村 作 太 郎
 " " " " " " " " 〇 中 志 村 政 雄

(I-141)◎ ずれ止めとして異形スタッドを用いた合成げたの疲労試験
 大 阪 大 正 〇 前 田 幸 雄
 " " " " " " 〇 梶 川 幸 靖 治

(I-142)◎ 過大な繰り返し荷重を受けるプレートガーダーの挙動ならびに耐荷力
 東 大 正 〇 奥 村 敏 惠
 国 鉄 " " " " 〇 佐 原 淳 志
 " " " " " " " " 〇 佐 原 淳 志 樹

▶工学部講義室 151 10月2日(火)

個人発表(板 1)
 9:30~10:30

(I-143)◎ 部分荷重を受ける厚板の応力と変形について
 大 阪 市 大 正 倉 田 宗 章
 " " " " " " 〇 堀 川 都 志 雄

(I-144)◎ 鉄筋コンクリート床板の変形特性と極限強度について
 大 阪 市 大 正 倉 田 宗 章
 " " " " " " 〇 大 内 恵 一 郎

(I-145)◎ 十字形平板の曲げ解析法について(続報)
 大 阪 市 大 正 倉 田 宗 章
 " " " " " " 〇 谷 平 勉 勉

(I-146)◎ 粘弾性バネ基礎上の平板の数値解析
 大 阪 市 大 正 倉 田 宗 章
 大 明 石 高 専 " " 〇 高 橋 端 宏
 大 阪 市 大 " " " " 〇 高 橋 端 宏 直 勉

(休憩 10 分)

個人発表(板 2)
 10:40~11:55

(I-147)◎ Hermite 階差法による平板の解析(2)
 岐 阜 大 正 井 上 肇

(I-148)◎ 膜力をもたぬスキンプレートの版厚の計算方法について
 電 電 公 社 正 〇 田 中 邦 男
 " " " " " " " " 〇 田 中 本 邦 博

(I-149)◎ 薄板および厚板理論の適性について
 大 阪 工 大 正 岡 村 宏 一
 東 洋 技 研 C " " 〇 島 田 功

(I-150)◎ 鉄筋コンクリート床版に関する2, 3の考察(その3)
 大 阪 大 正 前 田 幸 雄
 " " " " " " 〇 松 井 幸 繁 之

(I-151)◎ Cross Diagonal を有する Truss によって補強された平板の曲げについて
 北 大 正 能 町 純 雄
 室 蘭 工 大 " " 〇 松 岡 健 一
 " " " " " " " " 〇 松 岡 健 一 樹

(休憩 65 分)

個人発表(板 3)
13:00~14:15

- (I-152)◎ 全周辺弾性支持扇形平板の曲げについて
九 大 学 大 塚 久 哲 司
" " 正 ○安 藤
- (I-153) 部分分布荷重を担う扇形平板の曲げについて
北 大 正 能 町 純 雄 司
北海学園大 " ○芳 村 仁
" " 本 多 祐 也
- (I-154)◎ フィレンデール型プレートの解析
北 大 正 能 町 純 雄 之
北見工大 " ○大 島 俊
- (I-155)◎ 複数の任意形状孔を有する異方性板内の応力分布
山 梨 大 正 平 島 健 一 久
東 北 大 学 ○鈴 木 信
- (I-156) 特別な直交異方性薄板の面外曲げ
名 工 大 正 長 谷 部 宣 男
(休憩 10 分)

個人発表(板 4)
14:25~15:40

- (I-157)◎ スラブの三次元的解析について
名 " 大 学 ○梶 田 建 夫 明
" " 清 水 保
- (I-158)◎ リブ付床版の直交異方性板への換算
東 大 正 西 野 文 雄 樹 惠
" " 正 学 ○秋 山 村 敏
- (I-159)◎ サンドイッチ鋼床版(KOSWECK)の実験的研究(第1報)
神 戸 製 鋼 正 吉 田 弘 一 剛
" " " ○境 河 敏
- (I-160)◎ フーリエ定和分変換による連続直交異方性版の解析
北海道開発局 正 ○吉 田 紘 純 一 雄
北 大 " 能 町
- (I-161)◎ 鋼床版の耐荷性の研究
北 大 正 渡 辺 昇 一 郎
" " 学 ○林 佐 藤 川 浩 俊

▶工学部講義室 151 10月3日(木)

個人発表(薄肉構造 1)
9:15~10:30

- (I-162) 薄肉構造部材の曲げねじりの解析
早 大 正 平 嶋 政 治 吉
首 都 公 団 " ○憲 谷 舞
- (I-163) 断面変形を考慮した薄肉開断面部材のねじり
早 大 正 平 嶋 政 治 宇
本 四 公 団 " ○田 中 美
- (I-164)◎ リブ付薄板構造の立体解析
北 大 正 渡 辺 昇 裕 洵
岩 手 大 学 ○宮 川 本 上
- (I-165) 断面変形を考慮した薄肉開断面部材の安定問題
早 大 正 学 ○依 田 政 照 彦
- (I-166)◎ トラスにより補剛された桁のねじれ
東 大 正 村 敏 惠 一 朗
コルバック大 " ○松 田 英 悦
東 大 学 ○名 取
- (休憩 10 分)

個人発表(薄肉構造 2)
10:40~11:55

- (I-167)◎ コンクリート橋の折板理論による展開(第2報)
首 都 公 団 正 ○小 村 敏 具 世
住 友 建 設 " " 則 本 武 間 邦 秀
" " " 本

- (I-168)◎ セルラー構造の力学的性状について
川 崎 製 鉄 正 ○三 好 弘 高 茂 彦
" " " 大 原 方 道
" " " 大 原 方 道
- (I-169)◎ 折板によるマルチセル大口径鋼管杭の応力解析について
北 大 正 能 町 純 雄 司
" " " ○堺 孝
- (I-170)◎ 箱型梁の性状研究
住友重機械 正 北 原 俊 男
- (I-171)◎ せん断場を用いた箱型トラス梁の有限変位解析
東 大 正 奥 村 敏 惠 文 雄 夫
" " 学 ○倉 西 野 方 野 方 野 方
- (休憩 65 分)

個人発表(曲線桁)
13:00~14:30

- (I-172)◎ 薄肉断面曲線ばりの基礎方程式
東 大 正 ○西 野 文 雄
A I T S.L. Lee
- (I-173)◎ 薄肉曲線材の曲げねじれ問題の一解析法
山 梨 大 正 深 沢 泰 晴 一
石 播 重 工 " ○内 田 精
- (I-174)◎ 曲線けた橋の横構の強度計算について
大 阪 大 正 小 松 定 夫 俊
" " 学 ○栗 村 村
- (I-175) (欠 番)
- (I-176)◎ 曲線箱桁橋に関する Benscoter 並びに Heilig 型式の曲げ捩り理論について
鳥 取 大 正 ○神 部 俊 一 三
" " " 田 中 久
- (I-177)◎ 折板理論による曲線桁構造の解析について(第3報)
北 大 正 ○芳 村 仁 吉
" " " 隼 沢 憲

▶工学部講義室 C 19 10月1日(月)

個人発表(吊橋 1)
13:00~14:00

- (I-178)◎ 空中分岐点をもつ小吊橋のバックステーケーブルについて
滝上工業 正 熊 沢 周 明 吉 清
" " " ○安 藤 田 浩
滝上建設興業 遠
- (I-179) (欠 番)
- (I-180) 有限変形法の吊橋解析への応用
本 四 公 団 正 林 有一郎
- (I-181) 吊橋の振動解析
本 四 公 団 正 林 有一郎 彦
" " " ○深 田 雅
- (休憩 10 分)

個人発表(吊橋 2)
14:10~15:25

- (I-182)◎ 長大吊橋の共用ケーブルアンカーの実験
日本鋼管 正 中 山 義 昭 夫 大
" " " ○嶋 田 正 正
" " " 田 正
- (I-183)◎ タワー弾塑性挙動に関する基礎的研究
名 大 正 福 本 嘯 士 実
" " " ○大 福 森 和
- (I-184)◎ 吊橋一補剛トラスの強度設計上の問題点について
大 阪 大 正 小 松 定 夫 男
" " " ○西 村 宣
- (I-185)◎ 吊橋における過渡現象についての一考察
長 大 橋 設 計 正 青 柳 史 郎 哲
" " " ○大 橋 月

〈I-186)Ⓢ 走行荷重によるダンパーを有する連続吊橋の振動特性について
 東北大 正 倉西 茂
 東北大 学 ○越 橋 夫
 " " " " 後 滋

▶工学部講義室 C 19 10月2日(火)

個人発表(耐風 1)
 9:30~10:30

- 〈I-187)Ⓢ 励振中の円柱背後の流れについて
 京大 正 白石 成 人
 鹿島技研 " ○真 田 早 敏
- 〈I-188)Ⓢ 高レイノルズ数範囲における円柱のうず励振
 九大応力研 正 ○岡 島 厚
 " " " " 中 村 泰 治
- 〈I-189)Ⓢ 角柱の非定常空気力と後流の速度変動について
 九大応力研 正 ○溝 田 武 人
 " " " " 中 村 泰 治
- 〈I-190)Ⓢ 乱流境界層中における平板三次元模型の応答
 京大 正 白石 石 人
 " " " " 学 ○北 本 木 勝
 " " " " 学 ○北 本 木 貴 一
- (休憩 10分)

個人発表(耐風 2)
 10:40~11:55

- 〈I-191)Ⓢ 長径間キャットウォークの性状について
 神戸製鋼 正 波中 田 凱 夫
 " " " " ○岡 田 西 宏 勝
- 〈I-192)Ⓢ 斜張橋の風琴振動抑止策について
 建土研 正 成 田 信 一
 " " " " ○横 山 功 助
- 〈I-193)Ⓢ 非線形空気力と振動応答
 東大 正 伊藤 藤 学
 " " " " ○森 田 利 雄
 鹿島建設 " ○森 田 利 康 夫
- 〈I-194)Ⓢ 箱形断面橋梁に作用する自然風空気力とその応答について
 大立 阪大 正 小松 定 夫
 大命館 大 学 ○小 林 林 士
 大 阪 大 学 ○中 村 村 平
- 〈I-195) H型断面橋梁部材の風による振動の観測と風洞実験
 九熊 大 正 吉 村 虎 蔵
 九 本 大 " ○水 田 田 司
 九 大 " 吉 村 健
- (休憩 65分)

個人発表(耐風 3)
 13:00~14:15

- 〈I-196)Ⓢ 小鳴門橋の対風応答について
 京大 正 小西 一 郎
 " " " " ○宇 白 石 人
 徳島大 " ○宇 白 石 成
 " " " " 都 宮 英 彦
- 〈I-197) ジャイロによる吊橋の耐風制振効果(第2報)
 東川田工業大 正 藤 吉 学
 東 大 学 ○三 品 田 穂 彦
 " " " " 西 田 穂 積
- 〈I-198)Ⓢ 長大吊橋補剛桁の風に対する動的応答の数値計算例
 京大 正 小西 一 郎
 " " " " 学 ○白 石 成
 " " " " 学 ○久 谷 栄 一
- 〈I-199)Ⓢ 吊橋トラス補剛桁の非定常空気力と応答
 東大 正 宮小 田 利 雄
 " " " " 学 ○小 栗 栗 英
 " " " " 学 ○久 栗 栗 喜 延
- 〈I-200)Ⓢ 変動風速による吊橋模型の不規則振動応答
 東大 正 伊藤 藤 学
 " " " " ○宮 田 利 敏
 " " " " 島 崎 敏 一
- (休憩 10分)

個人発表(耐風 4)
 14:25~15:40

- 〈I-201)Ⓢ 橋梁吊材の耐風安定性について
 九大応力研 正 中 吉 村 泰 治
 " " " " " ○吉 村 泰 治
- 〈I-202)Ⓢ 吊橋断面の2自由度フラッタについて
 九大応力研 正 ○中 吉 村 泰 治
 " " " " " ○吉 村 泰 治
- 〈I-203)Ⓢ つり橋主塔のカルマン渦発生を観測実験(仕切板ネットの制振効果について)
 日本鋼管 正 高 久 達 将
 " " " " 正 高 久 達 将
- 〈I-204)Ⓢ 吊橋タワー部の耐風性に関する実験的研究
 京大 正 小西 西 郎
 " " " " 大 正 石 一
 " " " " 学 ○大 石 門 成 孝
- 〈I-205) 吊橋主塔の耐風安定性に関する風洞実験
 日本鋼管 正 辻 松 雄
 " " " " " ○高 久 達 大 三
 " " " " " ○高 久 達 大 三

▶工学部講義室 C 19 10月3日(水)

個人発表(振動 1)
 9:30~10:30

- 〈I-206)Ⓢ 多柱基礎の振動特性について
 九佐賀 大 正 小 坪 清 真
 九 大 大 学 ○弘 荒 牧 軍 治
 九 大 大 学 ○弘 荒 牧 軍 治
- 〈I-207)Ⓢ 多柱基礎の動的特性に関する実験的研究
 東洋大 正 高 孝 信
 " " " " ○高 田 田 清 美
- 〈I-208)Ⓢ 基礎に大きな減衰を有する主塔橋脚の振動実験
 京大 正 山 藤 善 一
 大林組 " ○後 藤 洋 一
 大林組 " ○後 藤 洋 一
- 〈I-209)Ⓢ アーチ型水管橋の振動性状と防振対策
 住金鋼管 正 土 士 秀
 住友金属 " ○飯 山 山 純 雄
 " " " " ○飯 山 山 純 雄
- (休憩 10分)

個人発表(振動 2)
 10:40~11:55

- 〈I-210)Ⓢ 歩道橋の振動感覚と二、三のパラメーターとの関係について
 武蔵工大 正 西 脇 威 夫
 道路公団 " ○高 坂 牧 勉
 長大橋設計 " ○高 坂 牧 樹 典
- 〈I-211) 吸振器を取り付けた歩道橋の振動性状について
 東大 正 松 本 嘉 司
 " " " " 学 ○西 松 岡 隆
 " " " " 学 ○松 岡 隆 一
- 〈I-212)Ⓢ 道路橋の振動とその振動感覚について(その2)
 金沢大 正 小 堀 雄 男
 " " " " 学 ○梶 川 為 康
- 〈I-213) 補剛アーチ橋の面外振動および面外座屈の一解析法
 佐世保重工 正 ○五反田 進
 九 大 " 吉 村 虎 蔵
 佐世保重工 " ○吉 村 虎 蔵
- 〈I-214)Ⓢ 大径間斜張橋の走行荷重に対する動的特性
 大阪大 正 前 林 幸 雄
 " " " " 学 ○前 林 幸 雄
 " " " " 学 ○前 林 幸 雄
- (休憩 65分)

個人発表(振動 3)
 13:00~14:45

- 〈I-215)Ⓢ 桁構造の振動減衰に関する実験的研究
 桜井鉄工所 正 ○中 園 多
 東 大 " 伊 藤 藤 彦 学

- (I-216) (欠 番)
 (I-217) 階段状変断面ばりの振動について
 長崎大正崎山 毅
 (I-218) 薄肉はりの一振動解析法について
 電力中研正 ○中村 秀治
 " " " " 塩尻 弘雄
 (I-219) 衝撃荷重を受けるはりの非線形振動
 長崎大正 ○高橋 和雄
 九 大 " " 樽木 武
 (I-220) 桁の曲げねじり振動について
 名工大正中村 卓次
 (I-221) 薄肉ばりの曲げねじれ振動波の伝播について
 山梨大正深沢 泰晴

▶工学部講義室 B 32 10月1日(月)

個人発表(振動・波動 1)
 13:00~14:15

- (I-222) Feed-back 理論による地盤および地盤-剛
 体系の振動解析
 九工大正 ○小坪 清照 真彦
 九 工 大 " " ○高 崎 西
 (I-223) 道路交通による沿道の地盤の振動について
 建土研正 ○栗林 栄一
 " " " " 福 田 富三
 (I-224) (欠 番)
 (I-225) 規則波による海中浮体構造物の振動
 鹿島建設 庄子 幹雄
 鹿島技研 正 ○今井 貴爾
 (I-226) 海洋構造物の動特性に関する基礎的研究
 東大正 ○奥村 敏 恵隆
 " " " " 西 岡

(休憩 10分)

個人発表(振動・波動 2)
 14:25~15:40

- (I-227) ブラウン運動をする振動子の確率論的性質
 について
 川崎製鉄 正 石田 昌弘
 (I-228) ランダム固有値問題のシミュレーションに
 による検討
 武蔵工大正 ○星谷 勝利 晃
 " " " " ○千 葉 利
 (I-229) 発振源の移動による地盤内の波動伝播状況
 についての実験的研究
 東大生研 正 田村 重四郎
 " " " " ○森 重 暉
 (I-230) 粘弾性体中を伝播する不連続面の性質
 京大防災研 正 土岐 憲三
 " " " " 学 ○佐藤 忠 信
 (I-231) 差分法による粘弾性波伝播解析について
 広島大正 ○佐藤 誠己
 " " " " 学 ○細 谷 芳

▶工学部講義室 B 32 10月2日(火)

個人発表(耐震 1)
 9:30~10:30

- (I-232) 単純系の非線形応答特性について
 都立大正 国井 隆弘
 (I-233) 地震動スペクトルの時間的変化が非線形構
 造物の応答に及ぼす影響
 京大正 ○北浦 勝
 神 戸 市 " " 新 谷 瑞 穂

- (I-234) 硬化型履歴復元力を有する振動系の非定常
 振動 京大正 ○吉原 進男
 " " " " 後藤 尚
 (I-235) 非比例減衰系の不規則振動に関する研究
 京大正 ○山田 善一
 " " " " 竹 宮 宏 和

(休憩 10分)

個人発表(耐震 2)
 10:40~11:55

- (I-236) 土-構造物系の動的相互作用に関する基礎
 的研究
 防衛大正 竹田 仁一
 " " " " ○藤本 一通
 " " " " 学 鈴 木
 (I-237) 地中に埋設された管状構造物の地震応答解
 析 京大防災研 正 土岐 憲三
 " " " " ○高 岐 田 三郎
 (I-238) 沈埋函の耐震設計について
 北大正 金子 孝吉
 (I-239) 地震時に発生する沈埋トンネルのひずみに
 について(地震観測)
 東大生研 正 ○岡村 重四郎
 埼 玉 大 " 岡 崎 三行
 東大生研 " 加藤 勝
 (I-240) 沈埋トンネルの耐震性に関する実験的研究
 川崎重工 正 村山 隆之

(休憩 65分)

個人発表(耐震 3)
 13:00~14:15

- (I-241) 橋脚と地盤での地震観測結果について(首
 都高速における)
 首都公団 正 矢作 枢
 " " " " 西 山 村 啓正
 応用地質調査 " ○吉 村 義
 (I-242) 高橋脚道路橋の地震応答解析
 建土研 正 栗林 栄一
 建 建 研 " 岩 崎 正 男
 日本技術開発 " ○佐 竹 正 行
 (I-243) サンフェルナンド地震で被害を受けた高架
 橋についての研究(その4)一構造解析の
 まとめ一
 首都公団 正 玉野 治 光敏
 " " " " 小 野 村 正
 オリエンタルC " ○忍 足 正
 (I-244) (欠 番)
 (I-245) 歩道橋の振動性状と耐震性
 東大生研 正 久保 慶三郎
 " " " " ○片山 恒雄
 " " " " 佐 藤 暢 彦

(休憩 10分)

個人発表(耐震 4)
 14:25~15:40

- (I-246) 常時微動による構造物の振動性状解析につ
 いて 九 大正 小坪 清
 " " " " 学 ○鳥野 真
 " " " " " 柿 川 英 清
 (I-247) 9階RC構造物のサンフェルナンド地震に
 による履歴応答解析
 京大 学 ○家村 浩和
 California 工大 P.C. Jennings
 (I-248) ロックフィルダムの地震時破壊に関する研
 究(第2報)
 東大生研 正 田村 重四郎
 " " " " 学 ○大 村 達夫
 (I-249) 有限要素法によるアーチダムの耐震解析
 鹿島建設 庄子 幹 雄
 鹿島技研 正 ○松本 喬

(I-250)◎ 有限要素法による水中構造物の振動解析
 熊本大正学 ○秋滝吉川 卓清義
 " " " " " " 和

▶工学部講義室 B 32 ————— 10月3日(水)

個人発表(耐震 5)
 9:30~10:30

(I-251) (欠番)
 (I-252) 地震動強さを表わすパラメーターの検討
 武蔵工大 正学 星谷 勝幹
 " " " " " " 直

(I-253)◎ 擬似地震動の作成と検討
 名大正学 島田 静雄二
 " " " " " " 健

(I-254)◎ 並列2次系地盤モデルに従う擬似地震動の性質
 名大正学 島田 静雄英
 大成建設 " " " " " " 俊
 (休憩 10分)

個人発表(耐震 6)
 10:40~11:55

(I-255) (欠番)
 (I-256)◎ 地盤と構造物の相互作用について
 九佐賀大正学 小荒坪 清重 真治男
 九 " " " " " " 純

(I-257) 平面ひずみ状態の地盤における剛体の地下
 逸散減衰について
 電力中研 正花田 和史

(I-258)◎ 地盤構造物系のモデル化について
 九佐賀大正学 小荒坪 清重 真治男
 九州工大 " " " " " " 西 照彦

(I-259)◎ 構造物基礎の復元力特性のモデル化に関する一つの試み
 東工大正学 吉田 裕修
 " " " " " " 田
 (休憩 65分)

個人発表(耐震 7)
 13:00~14:00

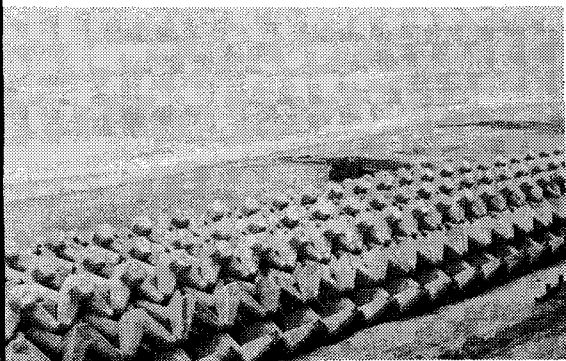
(I-260)◎ 地震の加速度記録から速度変位を計算する
 一手法
 東工大正学 吉田 裕生
 " " " " " " 山 和

(I-261)◎ 八丈島地震時の東京における地中加速度の
 観測結果
 建建研正 ○岩崎 敏男 慧進
 建東地建 建土研 建市若 崎川林 田政 則
 建 " " " " " " 田昇 士朗
 " " " " " " 森 隆三郎

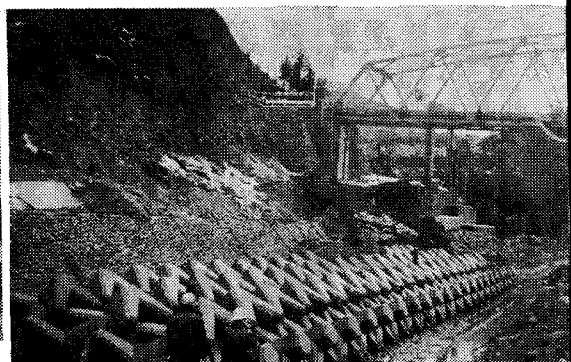
(I-262)◎ 層厚が変化する沖積地盤における地震観測
 大成建設 正学 濱田 政則
 " " " " " " 米田 昇三郎
 " " " " " " 森 隆三郎

(I-263)◎ 35 000 kL 液化ガスタンクの地震観測
 東大生研 正学 久保 慶三郎
 " " " " " " 佐藤 暢彦

消波根固 W.V (ダブル・ブイ) ブロック



愛知県豊橋海岸



富山県黒部川

特長

1. 重心が低く、安定性がよい。前脚部が土砂、地盤に入ると安定性及び支持力が更に増大する。
2. 多脚突出型のため捨込工法に最適である。
3. 水流、波力のエネルギーの減勢効果が絶大である。
4. 工事的に応じ空隙率を加減できる。
5. 型枠構造が相似型で簡単のため打設費用が軽減される。
6. 据付が容易である。

協成工業株式会社

本社 東京都港区芝西久保桜川町1番地
 五洋建設ビル別館 TEL 580-8941 (代)
 名古屋営業所 名古屋市中村区泥江町2-1
 名駅前東海ビル TEL 551-7146
 新潟営業所 新潟市花園2-3-8
 五洋建設(株)新潟営業所内 TEL 47-0911

第 II 部門 (水理学・水文学・河川工学・港湾工学・海岸工学・発電水力・衛生工学など)

▶工学部講義室 C 15 10月1日(月)

総括報告(波動 1)
13:00~13:45

- (II-1) 波の上の乱れに関する一実験
東大正学 ○西村 信行
- (II-2) Stream Function Theory の水粒子速度場への適用性
京大正 酒井 哲郎
千葉大正 ○山田 雄三
- (II-3) 重複波の波動下における浮遊粒子の沈降速度の変化について
京大正学 ○岩垣 雄一夫

総括報告(波動 2)
13:45~14:45

- (II-4) 風波の数値シミュレーション法に関する一考察
京大正学 ○岩垣 雄一夫
 - (II-5) 造波水路における発生初期波について
北大正学 ○浜中 建一郎
枋木県 ○高瀬 晴久
 - (II-6) 振動流乱流境界層の数値計算モデル
東大正学 ○堀川 清司
 - (II-7) kdV 方程式による波の変形について
京大防災研 正学 ○土屋 義人志
- (休憩 10分)

総括報告(波動 3)
14:55~15:55

- (II-8) 大潟海岸における波浪の変形の観測(2)
愛媛大正学 ○柿沼 忠敏
立命館大 正学 ○二ツ谷 川合
- (II-9) 浅海波の変形に関する研究
一二次波峰と Soliton について一
名工大正学 ○石田 和昭
清水建設 正学 ○石田 和昭
- (II-10) 碎波後の波高変化について
大阪大正学 ○榎木 好一朗
正学 ○岩松 本
- (II-11) Wave Set up に関する研究
北大正学 ○佐伯 幹夫

▶工学部講義室 C 15 10月2日(火)

個人発表(波動 4)
9:00~9:30

- (II-12)⑤ 数値モデルによる有限振幅波の研究
電力中研 正学 和田 明
- (II-13) 防波堤による湾水振動の減衰特性について
徳島大正学 村上 仁士

個人発表(波動 1)
9:30~9:45

- (II-14)⑤ 円筒形浮体の動揺と係留
日本鋼管 正学 植松 幹夫

総括報告(波動 2)
9:45~10:45

- (II-15) 波力に対する構造物の動的応答
東大正学 ○堀川 清幸
東大電 正学 ○宮本 幸始
- (II-16) 円筒型浮体の波による運動
東洋大正学 ○本間 仁宏
正学 ○荻比 原国三
- (II-17) 浅海波による円筒形浮体の運動
東大正学 ○堀川 清司
正学 ○山田 辺田 恭
- (II-18) 球形浮子をもつ海洋構造物の運動についての研究
東洋大正学 ○本間 仁宏
正学 ○江森 国坦

(休憩 10分)

総括報告(波動 3)
10:55~11:55

- (II-19) 矩形構造物に作用する波力に関する実験的研究
日立造船 正学 ○巻幡 敏秋
正学 ○新井 口正
- (II-20) 複数パイルに働く潮流力に関する一実験
日立造船 正学 ○巻幡 敏秋
正学 ○新井 口正
- (II-21) 円柱構造物に及ぼす規則波による局部波力
の特性について
大阪大正学 ○榎木 孝幸
- (II-22) 円柱に作用する波力に及ぼす口径の効果に
ついて
京大防災研 正学 ○土屋 義人志
正学 ○山口 正陸

(休憩 65分)

個人発表(波動 4)
13:00~13:30

- (II-23) 波による円柱まわりの層流境界層について
京大正学 ○岩垣 雄一
正学 ○石田 啓
- (II-24)⑤ 津波段波の波圧
京大防災研 正学 中村 重久

総括報告(消波工 1)
13:30~14:30

- (II-25) 浮防波堤に関する一考察
日大理工 正学 ○久宝 雅三
正学 ○竹中 川英
- (II-26)⑤ 透過性浮消波堤の構造と消波効果
中央大正学 ○西沢 紀昭
開発機構 正学 ○服部 昌太郎
- (II-27) 消波パイプ防波堤に関する実験的考察
日大理工 正学 久宝 雅史
- (II-28)⑤ 透過性構造物による波の反射率透過率の実
験結果について
日大生産工 正学 ○三浦 晃勝
正学 ○遠藤 茂

(休憩 10分)

▶工学部講義室 C 16 ——— 10月2日(火)

総括報告(流出機構 1)
9:00~10:15

- (II-64)◎ 山腹斜面からの流出に関する一考察
 広島大 正 金丸 昭 治
 " " " " 三 島 隆 明
- (II-65) 直接流出の通減機構について
 京大防災研 正 石原 安 雄
 " " " " 下 島 栄 一
- (II-66) 山地小流域における出水特性の研究(3)
 九 大 正 篠原 謹 爾
 " " " " 小 川 川 滋
- (II-67) 河川上流域における流出特性
 一流域の地質と低水流出
 東 大 正 〇由 明 功 臣
 北海道開発局 " " 坂 坂 口 雄 三
 東 大 " " 高 橋 裕 裕
- (II-68) 水田の流出機構のモデル化について
 建 土 研 正 前 山 利 雄
 (休憩 10 分)

総括報告(流出機構 2)
10:25~11:25

- (II-69) 降雨シミュレーターを用いた流出の基礎
 的実験(第3報)
 神 戸 大 正 神 田 徹 仁
 大阪大学 〇佐 橋 義 義
- (II-70) 貯留関数法の定数推定の合理化について
 建 土 研 正 橋 本 健
- (II-71) 流出機構から見た流域の貯留特性と等価抵
 抗係数
 徳 島 大 正 端 野 道 夫
- (II-72) 流域地形と出水特性
 京 大 正 高 棹 琢 馬
 京 都 大 市 " " 和 田 仁 晴
 京 大 学 〇椎 葉 充 充

総括報告(融雪流出)
11:25~11:55

- (II-73) 融雪流出予知法について
 北 海 土 試 正 山 口 甲
 " " " " 〇長 谷 川 茂
- (II-74)◎ 融雪流出の実験的研究(その2)
 北 大 正 藤 田 陸 博
 " " 学 〇山 崎 誠
 (休憩 65 分)

総括報告(浸透・地下水)
13:00~14:00

- (II-75) 流域水の挙動に関する変分原理の物理的意
 義
 名 大 正 高 木 不 折
- (II-76) 荒川試験地における雨水の浸透について
 京大防災研 正 石原 安 雄
 " " " " 〇小 葉 竹 重 機
- (II-77)◎ 裸地斜面域における雨水の浸入と地下水
 流出(2) 京大防災研 正 〇岡 太 郎
 " " " " 角 屋 陸 陸
- (II-78)◎ 降雨と破砕帯内地下水との関連性
 神 戸 大 正 田 中 村 茂 孝
 " " " " 〇沖 村 孝

総括報告(都市流出)
14:00~14:45

- (II-79) 都市化による流出の変化について
 建 土 研 正 吉 野 文 雄
 " " 学 〇米 田 耕 蔵
- (II-80) 都市域の流域モデルに関する考察
 一松山市宮前川流域について
 愛 媛 大 正 〇豊 国 永 次
 " " 学 〇中 地 映 次

- (II-81) 都市域における洪水処理に関する研究(そ
 の3)一都市域内貯留特性に関する2,3
 検討一 建 土 研 正 〇山 口 高 志
 " " " " 松 原 山 重 昭
 " " " " 杉 山 勉 勉
 (休憩 10 分)

総括報告(計画・災害特性)
14:55~15:55

- (II-82) 河川計画と地域計画
 一浜松市新川治水計画を例にとり一
 東 大 正 〇宮 村 忠
 " " " " 学 〇阿 部 明 臣
 " " " " 功 玲 一
- (II-83) 天明浅間山大噴火の利根川への影響
 一利根川治水理念の考察(その4)一
 東 大 学 〇大 高 孝 裕
 " " " " 正 高 橋 裕
- (II-84) 中小河川水害の特質
 一西三河, 西丹沢災害について一
 東 大 正 〇宮 村 忠
 " " " " 高 橋 裕 裕
- (II-85) 荒川治水の展開
 一利根川治水理念の考察(その5)一
 奈 良 県 正 〇松 茂 樹
 東 大 " " 高 橋 裕 裕
 " " " " 宮 村 忠 忠

▶工学部講義室 C 16 ——— 10月3日(水)

個人発表(計画 1)
9:00~9:45

- (II-86)◎ ダムと流況調整河川による水資源開発につ
 いて 九州地建 正 大 島 康 夫
 " " " " 〇古 島 隆 隆
- (II-87) 洪水時におけるダムの最適放流について
 防災センター 正 岸 井 徳 雄
- (II-88)◎ 水資源計画における信頼性についての基礎
 的考察
 大 阪 大 大 正 室 田 明
 近 畿 大 大 学 〇江 藤 治
 大 〇吉 岡 剛 道

総括報告(計画 2)
9:45~10:45

- (II-89) 広域利水計画の数理モデルに関する研究
 京 電 公 大 正 池 淵 周
 京 大 学 〇藤 八 木 一
 " " " " 〇藤 岡 繁 樹
- (II-90) ダム群による治水・利水制御に関する研究
 京 大 正 高 棹 琢 馬
 " " " " 〇小 丸 尻 利 治
 " " " " 〇丸 内 昇 昇
- (II-91)◎ DCL 手法による貯水池群の最適操作
 東 工 大 正 竹 内 邦 良
- (II-92) 貯水池による水供給の信頼性(第4報)
 一貯水池の流量調整機能の評価一
 大 阪 大 大 正 室 田 明
 神 戸 大 大 学 〇神 田 明
 大 〇福 田 成 成
 (休憩 10 分)

総括報告(計測・模型実験)
10:55~11:40

- (II-93)◎ 段落ち部における微流速の測定法について
 名 大 正 足 立 昭 平
 " " " " 〇中 村 俊 俊 六
- (II-94) 遊水池模型実験についての一考察
 建 土 研 正 須 賀 亮 三
 " " " " 〇浜 谷 武 治

(II-95) 流出渦の相似則について
 山梨大正 荻砂 原田 能憲 男吾二
 東京都 ○安田 田 来
 (休憩 80分)

総括報告(乱れ)
 13:00~14:15

(II-96)⑤ 開水路におけるレイノルズ応力の分布
 信州大正 余越 正一郎 博
 " " 学 ○中 沢 一

(II-97) 河川における乱れのスケールと水理量の関係
 北大正 岸森 明哲 力巨郎
 " " 学 ○佐々木 哲

(II-98) 開水路流れにおける乱れの時空間相関特性について
 京大正 今本 博富 健夫
 " " 学 ○浅 野 富

(II-99) 波状路床上の流れにおける乱れの特性について(4)
 京大防災研 正 今本 博 健男
 " " " ○上 野 鉄

(II-100) 管路内跳水の乱れ特性に関する研究
 京大正 中川 博家 次久寛
 " " 学 ○称 上 田 寛
 (休憩 10分)

総括報告(移流拡散)
 14:25~15:25

(II-101)⑤ 平行流の混合についての実験研究(2)
 東洋大正 本間 仁宏孝
 " " " ○福 原 吉

(II-102) 河川分合流部における物質拡散の基礎的研究
 大阪大正 村岡 爾志
 " " 学 ○三 浦 健

(II-103) 変動流場における非定常拡散の数値解析
 大阪大正 村岡 浩 爾二
 " " 学 ○中 辻 啓

(II-104)⑤ 小流域の流水における塩分の拡散について
 サンヨーC 正 ○石橋 弘 道穰司
 日大文理 " ○田 堀 清

▶工学部講義室 B 11—— 10月1日(月)

総括報告(橋脚周辺の流れ)
 13:00~14:30

(II-105) 有限要素法による円柱まわりの流れの解析について
 北見工大正 佐渡 公明

(II-106)⑤ 橋脚周辺の馬蹄型渦について
 京大防災研 正 宇民 正

(II-107) 橋脚の周りの洗掘についての検討
 日大理工 正 栗津 清 蔵

(II-108) 橋脚周辺の局所洗掘について
 京大正 鈴木 幸一 幸一郎
 " " 学 ○吉 辻 本 哲

(II-109) 流れの変化による円柱周辺の洗掘について
 神戸大正 筒井 源亮 亮三郎 夫
 " " 学 ○梅 西 田 真 三 郎

(II-110) 橋脚背後の洗掘防止工法
 神奈川大正 ○川添 幸博 春美
 東工大 " ○椎 員 博

(休憩 10分)

総括報告(弯曲流)
 14:40~15:55

(II-111) 弯曲水路における二次流
 東工大正 吉川 秀夫 夫介生
 " " " ○池 川 田 村 幸 幸

(II-112) 複断面わん曲水路の水理特性(その3)
 建土研正 土馬 屋場 昭彦 彦二

(II-113) 弯曲水路の横断河床形について
 岐阜大正 増田 重功 臣一
 立命館大 " ○小 田 重 功

(II-114) 蛇行水路における河床変動に関する実験的研究
 早電大正 鮎川 登瀛 明
 早電大 " ○鮎 川 西 林 和

(II-115) 弯曲水路での拡散について
 東工大正 吉川 秀夫 夫雄
 新潟大 " ○大 川 川 秀 夫

▶工学部講義室 B 11—— 10月2日(火)

総括報告(不定流)
 9:00~10:15

(II-116) 洪水追跡法に関するグラフ理論的考察
 京大正 岩佐 義明 朗昭
 鳥取大 " ○常 松 芳 松

(II-117) 非定常流の数値計算法に関する一考察
 京大正 岩佐 義和文 朗也雄
 岡山県 " ○伊 丹 上 丹

(II-118)⑤ Implicit 差分法による洪水解析における解の安定性についての2,3の考察
 北大正 高畑 征三郎

(II-119) はららん水の拡りに関する野外実験
 東海大正 ○有家 世俊 治二 治
 復興エンヂニア " " 友 近 栄 栄

(II-120)⑤ 内水河川的不定流計算について
 京大防災研 正 ○早瀬 吉太 雄睦郎
 " " " ○角 屋 吉 太

総括報告(振動・サージタンク)
 10:15~11:00

(II-121)⑤ 水槽の振動に伴う水面の動揺防止についての基礎実験
 埼玉大正 嶋村 祐之 昭
 " " " ○中 村 村 正 昭

(II-122) 管内振動流の断面急変部における挙動
 都立大正 安川 浩生 浩生
 中部地建 " ○藤 芳 素 生

(II-123)⑤ 空気制動サージタンクの特性についての一考察
 中電正 大野 定利
 (休憩 10分)

個人発表(定流)
 11:10~12:10

(II-124)⑤ 管路の平均流速に関する一提案
 日大工正 安田 禎輔 禎輔

(II-125) 開水路の限界流について
 日大工正 木村 喜代治 喜代治

(II-126) 跳水内の流速について
 日大理工 正 栗津 清岩 蔵夫 保
 " " 学 ○大 吉 津 田 清 岩 夫

(II-127) 水路側壁の偏向により発生する衝撃波について
 九大工正 上田 年比古 昭
 " " " ○壱 口 口 英 昭

(休憩 50分)

総括報告 (移動床の流れ)
13:00~14:30

- (II-128) Sand Waves の成長過程に関する研究
京大防災研 正 芦 田 和 男
大 阪 府 " ○木 村 昌 弘
- (II-129) 河床波成長過程における波形の変化と抵抗
について
大 阪 大 正 室 田 明 登
" " 学 ○多 平 博 正
" " " 岸 田 博 健
- (II-130) 移動床流れにおける河床形状と流れの相互
依存性 北 " 大 正 " 岸 明 力
" " " " ○森 黒 木 巨 男
" " " " ○三 坂 本 王 雄 寿
- (II-131) 小規模河床波の形成機構と河川における予
測 東 北 大 正 坂 本 王 雄 寿
- (II-132) 河床波形状の統計的性質
北 " 大 正 " 岸 木 幹 力
" " 学 ○黒 今 泉 正 男 次
- (II-133) 混合砂れきからなる水路床の抵抗
京大防災研 正 芦 田 和 男
大 阪 府 高 専 " " ○大 坂 同 本 淳 吉
- (休憩 10 分)

総括報告 (流路形態)
14:40~15:55

- (II-134) 手取川流域の平衡河床に関する研究
金 沢 大 正 高 瀬 信 忠
石 川 高 専 " 布 本 部 英 博
金 沢 大 学 ○広 部 英 博
- (II-135) 河岸の侵食機構について
京大防災研 正 村 本 嘉 雄
" " " " ○藤 田 裕 一郎
- (II-136) 石狩川における蛇行形状と河床変動の關係
北 " 大 正 " ○長 谷 川 和 義
" " " " 山 岡 敷 勲
- (II-137) 河川蛇行論
九 電 正 村 瀬 次 男
- (II-138) 実験流路による河床形態区分の検討につ
て 名 " 大 正 学 ○榊 原 昭 耕 平 太

▶工学部講義室 B 11 10月3日(水)

総括報告 (掃流砂)
9:00~10:30

- (II-139) 急こう配水路における混合砂礫の移動限界
に関する研究
京大防災研 正 芦 田 和 男
" " 学 ○高 水 山 高 久
- (II-140) 土砂集合運搬の運動形態に関する実験
日 大 工 正 木 村 喜 代 治
" " " " ○高 橋 迪 夫
- (II-141) Saltation に基づく流砂の基礎方程式
京大防災研 正 土 屋 義 人
京 大 学 ○河 田 田 昭
- (II-142) 斜面の土砂粒子の移動実験
建 土 研 正 山 本 晃 一
- (II-143) 砂礫始動と関連する二、三の実験
武 蔵 工 大 正 王 方 一
- (II-144) 管路の土砂輸送と抵抗法則
東 工 大 正 学 吉 川 秀 夫
間 " 組 ○河 北 金 沢 慶 貞 介 一
- (休憩 10 分)

総括報告 (浮遊砂)
10:40~11:55

- (II-145) (欠 番)
- (II-146) 開水路における浮遊砂の輸送機構
北 " 大 正 板 倉 忠 興 力
" " 学 ○岸 山 隆 隆
- (II-147) 浮遊砂量に関する二、三の考察
京大防災研 正 道 上 正 規
- (II-148) 粘土・砂混合河床における流砂機構に関する
研究 (II)
京大防災研 正 芦 田 和 男
" " " " ○田 中 健 二
- (II-149) 流砂量算定式に関する検討
建 土 研 正 土 屋 昭 彦
- (休憩 65 分)

総括報告 (山地崩壊)
13:00~14:15

- (II-150) 山岳流域における土砂流出機構に関する一
考察 京大防災研 正 芦 田 和 男
" " " " ○沢 田 豊 明
- (II-151) 天竜川上流域の土砂流出に関する一考察
名 " 大 正 学 ○福 山 口 温 勇 夫 勤 朗
- (II-152) 河川流域内の地形地質および水文因子と土
砂崩壊に関する一考察
金 沢 大 正 高 田 瀬 信 忠
石 川 高 専 " " ○畑 村 德 時 郎 男
- (II-153) 土砂流出の予測からみた河道則に関する研
究 京大防災研 正 芦 田 和 男
" " " " ○奥 村 武 信
- (II-154) (欠 番)

個人発表 (山地崩壊)
14:15~15:15

- (II-155) ガリ浸食に関する研究
岐 阜 大 正 ○河 村 三 郎
岐 東 京 都 " 日 柄 好 武 夫
- (II-156) 溪谷堆積土砂の流動 (第3報)
九 " 大 正 橋 平 野 東 一 郎
" " " " ○内 村 宗 夫 好
- (II-157) 河谷勾配に関する一考察
名 " 大 正 学 ○尾 足 立 昭 平
" " " " 関 関 茂
- (II-158) 表面流によって土砂を多量に含んだ流れが
発生する限界
大 阪 府 高 専 正 大 同 淳 之
- (休憩 10 分)

総括報告 (固定床粗度)
15:25~16:25

- (II-159) 大型粗度上の流れに関する実験的研究
德 島 大 正 ○岡 部 健 士 郎
" " " " 杉 尾 捨 三 郎
- (II-160) 開水路における河床波の抵抗について
中 央 大 正 林 泰 造
干 業 工 大 " " ○滝 和 夫
- (II-161) 開水路の流れにおける底面の粗度の影響に
ついての実験的研究
関 東 学 院 大 正 野 田 文 彦
- (II-162) 内部境界層に関する研究
東 工 大 正 学 吉 川 秀 夫
東 運 輸 大 " " ○鶴 北 谷 川 一 明

総括報告(密度流 1)
9:00~10:15

- (II-163) 成層貯水池における流れについて
電力中研 正 安 芸 周 一
" " " 〇白 砂 孝 夫
- (II-164) ダム貯水池の成層化について
京 大 正 岩 佐 義 朗
" " 学 〇野 早 野 正 和
" " " " 博 和 人
- (II-165) 流れ方向密度勾配が流れに及ぼす影響について
長 崎 大 正 古 本 勝 弘
- (II-166) ⑤ 二層境界面に発生する波動の伝播速度について
北 大 正 吉 田 静 男
- (II-167) ⑤ 選択取水に伴う段落部の影響
電力中研 正 和 田 明
" " " 〇片 野 尚
" " " " 角 湯 正 剛

(休憩 10分)

総括報告(密度流 2)
10:25~12:10

- (II-168) Vertical Diffuser による温水の沓積について
京 大 正 学 岩 佐 義 朗
" " " " 〇八 東 正 司 夫
" " " " 寺 田 賢 二
- (II-169) 鉛直下向噴流による密度成層の混合
北 大 正 〇板 倉 忠 興
" " " " 岸 安 藤 力 裕
" " " " 不 動 建 設 " " 藤 裕
- (II-170) 鉛直重力噴流における連行現象について
九 大 正 学 〇小 東 郎
" " " " 正 木 松 光
" " " " 正 寺 佐 和 記
- (II-171) 一様水平流中における気泡噴流の挙動(第2報)
九 大 正 〇北 谷 陽
" " " " " 野 義 一
" " " " " 中 尾 正 則 和
- (II-172) ⑤ 河口流出機構の考察
北 大 正 柏 村 正 和
- (II-173) 泥水密度流に関する基礎的研究(第2報)
京大防災研 正 芦 田 和 男
" " " " " 高 橋 保 治
" " " " " 江 頭 進
- (II-174) 一様流入する矩形沈殿池における密度流の発生機構(第2報)
九 大 正 学 栗 谷 陽 一
" " " " " 〇金 子 新

(休憩 50分)

総括報告(地下密度流)
13:00~14:30

- (II-175) ⑤ 淡水注入暗きょによる非定常時の淡塩境界面の近似解析
九州産大 大 正 上 田 年 比 古
" " " " " 〇杉 尾 尾 哲
- (II-176) ⑤ 自由地下水の非定常特性について
一有限要素法による検討一
愛 媛 大 正 大 橋 行 三
- (II-177) 異方性透水層の波動現象について
埼 玉 大 正 嶋 祐 之
- (II-178) 非定常浸透流に関する実験
徳 島 大 正 学 〇尾 島 勝
" " " " " 兼 荒 木 方 昭
" " " " " " 一 郎
- (II-179) 分散方程式による地下密度流の数値計算について
九 大 正 学 上 田 年 比 古
" " " " " 〇神 野 健 二

- (II-180) 河口貯水池における海水排除に伴う定常地下密度流解析について
九州産大 正 崎 山 正 常

(休憩 10分)

総括報告(地下水 1)
14:40~15:55

- (II-181) 地下水揚水に伴う影響圏の水理学的検討について
金 沢 大 正 高 瀬 信 忠
" " " " " 〇石 川 高 専 〇布 本 博
- (II-182) (欠 番)
- (II-183) ⑤ 粗粒子層の透水に関する研究(第5報)
-第IV領域について-
日 大 工 正 〇安 田 禎 輔
" " " " " 藤 田 達 之
- (II-184) ⑤ 粗粒子層の透水に関する研究(第6報)
-砂利の代表粒径選定の問題点-
日 大 工 正 学 〇藤 田 竜 啓
" " " " " " 小 坂 島 入 之 治 洋
- (II-185) ⑤ 粗粒子層の透水に関する研究(第7報)
-砂利層透水について-
日 大 工 正 学 安 田 禎 輔
" " " " " 〇鎌 田 繁 仁 徹

総括報告(地下水 2)
15:55~16:55

- (II-186) 賦存地下水の地域調査(その2)
大 阪 大 正 室 田 明
" " " " " 〇大 阪 府 高 専 〇佐 藤 邦 明
- (II-187) ⑤ 木曾川下流部高須輪中における地下水の挙動について
名 東 大 大 正 学 〇高 山 木 田 不 啓 折 一
" " " " " " 〇山 木 不 啓 折 一
- (II-188) 新島の地下水に関する調査結果
東 洋 大 正 〇本 間 原 藤 仁 宏 夫
" " " " " " 〇藤 新 藤 静 国 静
- (II-189) ⑤ 被圧地下水収支シミュレーションとくに石川県七尾平野における水資源分布の地域的特性について
地質コンサル 正 柴 崎 達 雄
" " " " " " 〇東 国 際 航 業 大 〇録 上 田 雅 博 烈

総括報告(沈殿)
13:00~14:15

- (II-190) (欠 番)
- (II-191) ⑤ 界面沈降の機構に関する実験的考察
東 大 学 〇大 垣 真 一 郎
" " " " " 〇正 松 尾 友 矩
- (II-192) ⑤ 粒子の沈降におよぼす乱れの影響
東 大 大 正 〇松 尾 友 矩
" " " " " 〇大 谷 技 短 大 " 〇安 野 田 間 友 正 一 矩 志 夫
- (II-193) ⑤ 沈殿池における流動解析について
京 大 正 〇末 住 石 友 富 太 郎
" " " " " " 〇久 保 田 鉄 工 " 〇横 山 繁 恒 樹
- (II-194) ⑤ 沈殿池の最適操作について
京 大 大 正 高 松 武 一 郎
" " " " " " 〇大 阪 大 " 〇芝 定 孝

(休憩 10分)

個人発表(濁質除去)
14:25~15:55

- (II-195)⑤ 単一フロックの基礎的性質
九 大 正 栗 谷 陽 一
〇 楠 田 哲 也
古 賀 憲 一
- (II-196)⑤ フロック形成時の付着効率について
九 大 正 栗 谷 陽 一
〇 楠 田 哲 一
古 賀 原 茂
- (II-197) 固液系流動層における濁質除去機構(III)
九 大 正 栗 谷 陽 一
〇 楠 田 賀 憲 一
古 賀 原 一
- (II-198)⑤ 濁度変動に対するマイクロフロック法の有効性
効性 東 北 大 正 〇 栗 谷 陽 一
〇 藤 野 敦 仁 久 郎
- (II-199)⑤ 浮上分離における浮遊剤について
日大生産工 正 昌 邦
〇 秋 本 孝 大 彦
三 森 照
- (II-200) ゼーター電位の低下について
日大生産工 正 金 井 昌 邦
〇 岸 大 木 宣 章 治

▶工学部講義室 101 10月2日(火)

個人発表(高度・高次処理1)
8:45~10:00

- (II-201) (欠番)
- (II-202) オゾン処理による2次処理水の質変化
京 大 正 合 田 健
〇 宗 河 原 功 美
〇 山 長
- (II-203) オゾン処理におけるpHの影響について
京 大 正 合 田 健
〇 山 宮 田 春 功 美
- (II-204)⑤ 逆浸透法における膜透過特性について
京 大 正 岩 井 重
〇 菅 北 尾 原 高 正 嶺 孝
- (II-205)⑤ ゼオライトによる脱アンモニア処理に関する実験的研究
京 大 正 岩 井 重
〇 北 尾 賀 高 昭 嶺 憲
岩 尾 磁 器

総括報告(高度・高次処理2)
10:00~11:00

- (II-206)⑤ 都市下水の高度・高次処理に関する研究(1)
北 大 正 〇 亀 井 翼
〇 丹 保 憲 仁
- (II-207)⑤ 都市下水の高度・高次処理に関する研究(2)
北 大 正 〇 西 村 正 翼
〇 丹 井 保 憲 仁
- (II-208)⑤ 物理化学的処理システムによる下水の高度処理パイロットプラント運転実績
平塚市 正 田 哲 夫
住友重機エンパイロ 〇 松 並 山 武 壮 夫
春 山 武
- (II-209)⑤ 三次処理について
日大生産工 正 金 井 昌 邦
都立高専 〇 三 森 照
日大生産工 〇 木 寺 彦 滋

(休憩 10分)

総括報告(酸素移動)
11:10~12:10

- (II-210)⑤ 自由表面からの酸素移動に関する予備的研究
東 北 大 正 松 本 順 一郎
横 濱 大 市 大 〇 油 井 橋 克 彰 夫
東 北 大 〇 高 橋 克 彰 夫
- (II-211) 溶存酸素量に及ぼす波浪の影響について
名 工 大 正 〇 細 井 本 正 久 延
〇 井 本 久 仁 吉
- (II-212)⑤ エアレーションに及ぼす廃水特性の影響
日 大 工 正 〇 深 谷 村 宗 吉
〇 柴 田 宗 健 治
名 古 屋 市 〇 柴 田 宗 健 治
- (II-213)⑤ 低層汚泥中における酸素消費について
九 大 正 栗 谷 陽 一
〇 山 崎 谷 崎 一 義
(休憩 50分)

個人発表(活性汚泥法)
13:00~14:15

- (II-214) 純酸素曝気による活性汚泥法の研究(第4報)
日 大 工 正 〇 西 村 谷 孝 吉
〇 深 谷 宗 吉
- (II-215)⑤ 活性汚泥の基質除去能に関する考察
東 北 大 正 松 本 順 一郎
〇 江 成 敬 次 郎
- (II-216) 活性汚泥に対する固形物の影響
宮 崎 大 正 〇 渡 辺 義 公 雄
〇 神 戸 市 東 康
- (II-217) 活性汚泥の重金属阻害抑制に及ぼすNa₂Sの効果
京 大 正 合 田 健
〇 河 原 功 史
〇 山 村 清
- (II-218)⑤ 熱処理分離液の処理特性について
北 大 正 〇 寺 神 島 重 雄
〇 寺 山 町 桂 和 一 宏

(休憩 10分)

総括報告(接触酸化)
14:25~15:10

- (II-219) 回転接触法における混合特性と酸素移動について
北 大 正 神 山 桂 一
〇 樽 加 藤 善 盛 雄
〇 樽 谷 隆
- (II-220)⑤ 回転床法に関する実験的研究
早 大 正 遠 藤 郁 夫 郎
〇 井 上 芳
- (II-221)⑤ 回転円板法による汚水処理について
宮 崎 大 正 石 黒 政 儀
〇 山 渡 辺 口 義 公 一

個人発表(廃水処理)
15:10~15:55

- (II-222)⑤ 有機性廃水の酸素酸化に関する基礎的研究(II)
京 大 正 岩 井 重 久
〇 寺 北 尾 田 高 嶺 也
〇 寺 田 正
- (II-223)⑤ 嫌気性ラグーンによる糞尿場排水の処理について
東 北 大 正 松 本 順 一郎
〇 野 高 池 達 一 也 彦
仙 台 市 〇 高 梨 哲
- (II-224)⑤ 水中の弗素除去について(ミニプラントによる結果)
日大生産工 正 金 井 昌 邦
都立高専 〇 三 森 照
〇 木 寺 彦 滋

個人発表 (放射能管理 2)
14:00~14:30

- (II-253) Cs および Sr イオンの帯水砂層における吸, 脱着反応について
京大原子炉 正 桂山 幸典
" " " " 福井 正 美
- (II-254) マンガンゼオライトによる放射性物質の吸着特性について
大阪放射線中研 正 松村 隆

(休憩 10 分)

総括報告 (焼却)
14:40~15:40

- (II-255) 高含水スラッジの着火と燃焼に関する研究 (その3)
京大 正 岩井 重久
日立造船学 浦山 辺真 鴻郎
京大 正 岩井 重久
" " " " 高月 村憲 紘正
- (II-256) ポリエチレンおよびポリスチレンの焼却条件に関する研究
京大 正 岩井 重久
" " " " 高月 村憲 紘正
- (II-257) 下水汚泥およびセルロース物質の燃焼速度に関する研究
京大 正 岩井 重久
日立造船学 浦山 辺真 鴻郎
京大 正 岩井 重久
" " " " 高月 村憲 紘正
- (II-258) 汚泥焼却時における重金属の揮散に関する実験的研究
京大 正 岡田 正信 勝生水
" " " " 武田 田 健 生

▶工学部講義室 102 10月2日(火)

個人発表 (埋立)
9:00~10:00

- (II-259) 好気性埋立における細菌叢 (1)
福岡大 正 花吉 嶋田 正千鶴 孝枝司
" " " " 松藤 藤 康 司
- (II-260) 好気性埋立の実験的研究 (1)
福岡大 正 花吉 嶋田 正千鶴 孝枝司
" " " " 松藤 藤 康 司
- (II-261) 廃棄物埋立地盤の排水方式についての考察
三井共同C 正 前田 慶之助 生彦
" " " " 大田 川 宗 正 彦
東海大 正 前田 慶之助 生彦
" " " " 大田 川 宗 正 彦
- (II-262) ある廃棄物埋立地盤の工学的性状に関する考察
三井共同C 正 前田 慶之助 生彦
" " " " 大田 川 宗 正 彦

総括報告 (汚泥処理 1)
10:00~11:00

- (II-263) 下水汚泥の流動特性におよぼす有機物の影響について
大阪工大 正 川島 普
" " " " 高田 田 普 巖
- (II-264) 汚泥の管路輸送に関する摩擦損失水頭について
早大 正 遠藤 郁夫 夫
" " " " 金成 成 英 夫
- (II-265) 放射性汚泥の凍結脱水処理について
京大原子炉 正 筒井 天一 尊邦
" " " " 下浦 浦 邦
- (II-266) 汚泥の熱処理による沈降性・過性に関する研究
京大 正 岡田 正信 勝生明
" " " " 武田 田 高 信 明
" " " " 戸高 高 信 明

(休憩 10 分)

個人発表 (汚泥処理 2)
11:10~12:10

- (II-267) 汚泥の熱処理による溶出に関する研究
京大 正 平村 岡上 正勝
" " " " 富田 田 重 弘 幸
- (II-268) 熱処理分離液と重金属について
北大 正 神山 桂一 一宏夫
" " " " 寺町 町 和 一 夫
- (II-269) スラッジ処理の新方式 (2報 濃縮脱水)
日大生産工 正 金井 昌照 邦彦章
都立高専 " " 三森 照 章
日大生産工 " " 大木 照 章
- (II-270) スラッジ処理の新方式 (2報 汚泥安定化の研究)
日大生産工 正 金井 昌照 邦彦章
都立高専 " " 三森 照 章

(休憩 50 分)

個人発表 (施設計画)
13:00~13:30

- (II-271) 水圧不足時の管網解析
北大 正 高桑 哲男
- (II-272) 都市衛生施設の一元化についての提起
大阪工大 正 木原 敏

総括報告 (下水流出)
13:30~14:15

- (II-273) 合流式下水道における雨天時水質変動について
北大 正 寺島 重三郎 二
" " " " 高山 山 本 正 三 郎
- (II-274) 雨天時合流式下水道からの排出汚濁量の推定について
建土研 正 山松 口原 高重 志昭隆
" " " " 学 山 守 重 隆
" " " " 学 山 守 重 隆
- (II-275) 水質からみた降雨の長期間流出について
京大 正 大市 住友 恒治矢
京大 正 大市 住友 恒治矢
京大 正 大市 住友 恒治矢

(休憩 10 分)

個人発表 (環境計画)
14:25~15:55

- (II-276) 用途別給排水に関する基礎的研究 (2) 一末端需要の評価について一
立命館大 正 山田 淳
- (II-277) 下水道処理区分割と面的整備計画に関する一考察
日本水道C 正 堤原 良夫 夫
" " " " 秋高 高 橋 邦 夫
- (II-278) 河川汚濁制御のための面的下水道計画に関する 2, 3 の考察
日本水道C 正 堤原 良夫 夫
" " " " 秋高 高 橋 邦 夫
- (II-279) 汚泥の地域分布について
京大 正 末盛 石岡 富太郎 通行
" " " " 高橋 橋 美 行
- (II-280) 廃棄物の流動を指標とした環境計画V
京大 正 末盛 石岡 富太郎 通行
" " " " 高橋 橋 美 行
- (II-281) 廃棄物収集・処理システムの計画
京大 正 岡内 正勝 美紀子
" " " " 内藤 藤 美 紀 子

第 III 部門 (土質工学・基礎工学・岩盤力学など)

▶工学部講義室 電子第1 (3 F) 10月1日 (月)

総括報告 (透水 1)
13:00~14:00

- (III-1) (欠 番)
 - (III-2) 有限要素法による地下水位低下の影響量の推定
京 大 正 松 尾 新一郎
" " " " 〇河 野 伊一郎
 - (III-3) 土の有効間げき率と貯留係数
岐 阜 大 正 宇 野 尚 雄
岐 阜 大 正 〇奥 田 邦 夫
 - (III-4) 土の透油性に関する実験的研究
岐 阜 大 正 宇 野 尚 雄
川 崎 製 鉄 " " 〇藤 本 智 幸
- (休憩 10 分)

個人発表 (透水 2)
14:10~14:40

- (III-5) 透水理論の体系について
岐 阜 大 正 宇 野 尚 雄
- (III-6) 鉛直上昇流による砂の浸透破壊
東 大 生 研 学 〇齋 藤 孝 夫
" " 正 三 木 五 三 郎

▶工学部講義室 電子第1 (3 F) 10月2日 (火)

総括報告 (粘土の変形・強度 1)
9:00~10:15

- (III-7) 練り返し粘土の力学特性
金 沢 大 正 〇八 木 則 男
" " " " 〇西 田 義 親
" " " " 〇大 島 理 喜 夫
 - (III-8) 正規圧密粘土の力学諸定数について
神 戸 大 正 〇輕 部 大 蔵
" " 学 苗 村 康 造
" " " 玉 井 達 郎
 - (III-9) 粘性土の応力~ひずみ関係について
京 大 防 災 研 正 村 山 朔 郎
" " 学 〇北 村 元 介
 - (III-10) 締固め土の三軸圧縮時における変形挙動について
富 山 技 短 大 正 山 野 隆 康
 - (III-11) 粘土の流動機構に関する研究
大 阪 大 正 〇伊 藤 富 雄
" " 学 〇松 井 瀬 恵 一 郎
- (休憩 10 分)

個人発表 (粘土の変形・強度 2)
10:25~11:25

- (III-12) 飽和粘土の振動特性と構成方程式
京 大 正 赤 井 浩 一
" " " " 〇足 立 紀 信
建 設 省 " " 藤 井 尚 夫
 - (III-13) 平面ヒズミ試験機の試作と二, 三の実験結果
北 大 正 北 郷 繁 一
" " " " 〇三 田 利 清
電 発 " " 〇三 浦 清 一
 - (III-14) 粘土の摩擦角に関する一考察
金 沢 大 正 西 田 義 親
鹿 島 建 設 " " 〇松 村 夏 樹
金 沢 大 " " 八 木 則 男
 - (III-15) 土の等方硬化塑性理論一負荷関数について一
九 大 農 正 橋 口 公 一
- (休憩 95 分)

総括報告 (粘土の変形・強度 3)
13:00~14:00

- (III-16) クリープ履歴をもつ秩父産粘土の応力・ひずみ特性に関する一実験
鹿 島 技 研 正 鈴 木 音 彦
" " " " 〇田 中 益 弘
 - (III-17) 土のクリープ破壊について (2)
鹿 兒 島 大 農 正 下 川 悦 郎
 - (III-18) 一面せん断試験における試験方法の問題点
大 阪 市 立 大 正 三 笠 田 正 直 良
兵 庫 県 " " 〇高 田 中 人 俊 和
 - (III-19) ベーンせん断試験における間げき水圧の分布について
大 阪 大 正 伊 藤 富 雄
" " 学 〇折 井 立 和 保 男
- (休憩 10 分)

個人発表 (粘土の変形・強度 4)
14:10~15:10

- (III-20) (欠 番)
- (III-21) 粘土の応力-変形-時間挙動に関する考察
京 大 学 関 口 秀 雄
- (III-22) 飽和粘土の応力緩和と動的降伏曲面について
京 建 設 大 正 足 立 紀 信
京 京 大 学 〇田 中 利 天 雄
- (III-23) 不飽和土の初期状態と圧縮性の関連
信 州 大 正 川 上 浩 史
" " " " 〇阿 部 広

▶工学部講義室 電子第1 (3 F) 10月3日 (水)

総括報告 (圧密 1)
9:00~10:00

- (III-24) (欠 番)
 - (III-25) 圧密試験におけるスケール・エフェクトについて
広 島 大 正 〇網 千 寿 夫
広 島 県 " " 〇二 井 岡 均 夫
 - (III-26) 除荷, 再負荷時の粘土の圧密特性について
東 工 大 正 〇山 口 柏 樹
" " 学 〇村 上 幸 利
鹿 島 建 設 " " 竹 前 幸 栄
 - (III-27) 地盤の全沈下に関する統計的一考察
名 京 大 正 松 尾 稔 頭 彦
日 本 港 灣 C 大 学 〇浅 伊 岡 吹 憲
- (休憩 10 分)

個人発表 (圧密 2)
10:10~11:25

- (III-28) 圧密現象の一考察
広 島 大 正 吉 国 洋
- (III-29) 粘弾性モデルによる圧密沈下の解析
北 海 道 開 発 局 正 〇田 口 哲 明
東 北 大 " " 〇佐 武 正 雄
- (III-30) カオリン粘土の圧密と締固め試料の微視的構造の対比
埼 玉 大 正 〇風 間 秀 彦
" " " " 〇吉 中 竜 之 進

(III-31)◎ タンク基礎地盤の変形挙動
秋田大正 ○赤木部知之誠

(III-32) (欠番)
(休憩 95分)

総括報告(砂の変形・強度 1)
13:00~14:15

(III-33)◎ 砂の強度特性の微視的考察
埼玉大正 小田匡寛

(III-34)◎ 粒状体のせん断にともなう粒子間伝達力の変化について
信州大正 小西純一

(III-35)◎ 砂の降伏条件についての一考察
東北大学 諸戸靖史

(III-36)◎ 土の弾性係数, ボアソン比の一推定法
京大防災研 正 松岡本野安
大阪土質試 〇菅野安
京大防災研 〇菅野安

(III-37) 砂の変形特性に関する実験的研究
北 大 正 ○奈土良憲昭介
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
(休憩 10分)

総括報告(砂の変形・強度 2)
14:25~15:55

(III-38) 砂の強度と応力履歴について
長崎大正 ○落合英俊
九 大 〇山内豊聡

(III-39)◎ 土のストレスブループレテストについて
神戸大 〇苗達郎

(III-40) 一面せん断試験機を用いた粒状体のせん断特性について
九 大 正 内田一郎
フジ工業 〇酒見徳行

(III-41) 飽和砂の非排水せん断強度特性
日本鋼管 正 ○石神公一
東亜港湾 〇有馬正宏憲

(III-42) 膠結および解膠状態における粒状物質のせん断特性について
大阪工大 正 岡 巖

(III-43)◎ ロック材の工学的性質について
フジ工業 正 樫村博雄
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
藤原橋 東俊郎

個人発表(砂の変形・強度 3)
15:55~16:55

(III-44)◎ 不飽和土の間げき空気圧について
京 大 正 足立紀尚
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

(III-45)◎ 土のせん断特性を評価するパラメーターについて
京大防災研 正 松岡元

(III-46)◎ 粒状体の形状測定と分類の一方法について
東北大 正 佐武雄貴
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

(III-47)◎ 粒状体の降伏条件に関する一提案
東北大 正 佐武雄

▶工学部講義室 電子第2(3F) 10月1日(月)

総括報告(試験法・調査法 1)
13:00~14:15

(III-48) 電気抵抗により土の含水量を測定する方法について

武蔵工大 正 神山光男
(III-49) フォールコーン法における先端角度, 落下重量の影響
函館高専 正 ○佐野信房
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

(III-50) フォールコーン法による液性塑性両限界の同時測定
北見工大 正 鈴木輝之

(III-51)◎ 土質工学的指標としてのpF値の有用性に関する実験的考察
金沢大 正 西田義親
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
西松建設 〇深見新

(III-52)◎ 砂の移動, 混合, 拡散の測定方法の開発
鹿島技研 正 有泉昌史
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

(III-53) 粘性土における三軸強度と一軸強度の比較について
北見工大 正 ○山田洋右
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

(III-54)◎ 不飽和土の土質諸係数に関する統計的一考察
名 大 正 松尾勝彦
京 大 〇黒田卓
日本港湾C 〇黒田卓

(III-55)◎ マイクロフォン付コーンペネトロメータによる調査例(その2)
東海大 正 森田定市
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

(III-56) (欠番)

個人発表(試験法・調査法 3)
15:20~15:50

(III-57)◎ 静電容量式土中ひずみ計の試作について
京 大 正 赤井浩一
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

(III-58)◎ 空気圧制御方式による三軸試験装置の試作とその土質, 岩質材料への適用
京 大 正 赤井浩一
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

▶工学部講義室 電子第2(3F) 10月2日(火)

総括報告(地盤の動的性質 1)
9:00~10:00

(III-59) 地盤震動についての一考察(とくに長周期帯域の問題)
東北工大 正 浅田秋江

(III-60) 応答スペクトルの正規化に関する2, 3の考察
武蔵工大 正 星谷勝
首都公団 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
長大橋設計 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

(III-61)◎ 走行車両による地盤の振動特性について
立命館大 正 〇島山川直隆
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

(III-62)◎ 走行する衝撃的振動源による地盤の振動
立命館大 正 〇島山川直隆
〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

(III-63)◎ インパルス音波による砂中の音波減衰特性の測定
千葉工大 正 〇本岡誠良
東工大 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

(III-63)◎ インパルス音波による砂中の音波減衰特性の測定
千葉工大 正 〇本岡誠良
東工大 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

個人発表(地盤の動的性質 2)
10:10~11:10

(III-63)◎ インパルス音波による砂中の音波減衰特性の測定
千葉工大 正 〇本岡誠良
東工大 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

- (III-64)Ⓢ 地盤と盛土の地震応答
 建土研正 ○川島一彦
 " " " " 木本月 正高 則晴
- (III-65)Ⓢ バイブラインの地震時応力検討について
 日本鋼管正 ○平島 徹
 " " " " " " 石井 治
- (III-66)Ⓢ フィルダムの地震時応力について
 電力中研正 渡辺啓行
 (休憩 110分)

総括報告(地盤の動的性質 3)
 13:00~14:00

- (III-67) 層状土の周期載荷平板試験について
 神戸大正 ○西村 勝久
 建設技研 " " 金中 泰潤
 神戸大学 " " 藤二郎
 " " " " 齋木 董男
 " " " " 小出 忠
- (III-68)Ⓢ 杭打工事に伴う地盤振動および間ゲキ水圧
 の挙動に関する一測定例
 大林組技研正 齋藤二
 " " " " 小出 忠
- (III-69)Ⓢ 大阪地盤の液状化の推定
 京大防災研正 ○柴田 徹
 大阪土質試 " " 岩崎 好規
- (III-70)Ⓢ 非線形力学特性を有するアースダムの動的
 解析
 徳島大正 ○小田 一弘
 " " " " 徳島大 " " 山 上 拓男
- (休憩 10分)

個人発表(地盤の動的性質 4)
 14:10~15:10

- (III-71) ロックフィルダムの地震時挙動に対する谷
 の形状の影響について
 電力中研正 林正夫
 " " " " ○駒田 正広
 " " " " 藤原 義一
- (III-72) フィルダムの上下流方向振動に与える谷の
 形状の影響
 電力中研正 ○国生 剛
 " " " " " 高橋 治忠
- (III-73)Ⓢ ロックフィルダムの地震時の挙動について
 新日本技術C正 ○国井 彦
 電力中研 " " 高橋 忠
- (III-74) ロックフィルダムの弾性波速度分布
 電力中研正 ○沢田 義博
 関電 " " 高橋 忠夫
 " " " " 原田 次

個人発表(土の動的性質 1)
 15:10~15:40

- (III-75) Shock-tube を用いた土中の波動伝播実験
 (第3報) 京大正 赤井 一
 " " " " 堀井 浩一
 建設省正 ○籍上 正生
- (III-76) 凍結-融解を受けた土の動的性質
 新潟大正 ○川正 二
 " " " " " 青山 清

▶工学部講義室 電子第2(3F) 10月3日(水)

総括報告(土の動的性質 2)
 9:00~10:30

- (III-77) 単純セン断試験による埋立砂の液状化試験
 日本鋼管正 齋藤 彰
 " " " " ○米山 利治
 東亜港湾 " " 半沢 秀郎
- (III-78) 繰返しねじり三軸試験によるシラスの液状
 化について

- 九 大 正 山 内 豊 聡
 " " 学 一 瀬 久 光
 (III-79)Ⓢ 直接せん断試験による飽和砂の動的性質
 新潟大正 ○小志 二
 住宅公団 " " 志田 雄一
 道路公団 " " 鈴木 俊
- (III-80)Ⓢ 地震時における地盤の液状化解析
 東大正 石原 研
 " " " " 学 平 尾 寿 而
 " " " " ○大 正 学 而
- (III-81)Ⓢ 地震時に発生する動的間隙水圧
 東大正 石原 研
 " " " " 学 正 原 田 進
 パシフィックC " " ○石 安 川 畑 豊
- (III-82)Ⓢ 不完全液化砂の地中構造物に及ぼす影響
 北海道開発局正 藤野 純
 東大震研 " " 佐藤 安元 一郎
 " " " " ○藤 野 彦
- (休憩 10分)

総括報告(土の動的性質 3)
 10:40~11:55

- (III-83) 粘性土の動的セン断特性について(第2報)
 大林組技研正 ○藤 郎
 " " " " 平 間 邦 興
- (III-84)Ⓢ 振動時の粒状体のセン断強さに関する一考
 察
 東北大正 柳沢 栄
 " " " " 司
- (III-85) 繰返し応力を受ける乾燥砂の強度に関す
 る実験
 北大正 ○土岐 祥
 鴻池組 " " 北 郷 介
 " " " " 千 葉 繁 俊
- (III-86)Ⓢ 単純せん断振動による砂の体積変化特性に
 ついて(その3)
 東大正 福岡 正
 " " " " 学 高 橋 俊
 銭高組 " " 岡 正
 " " " " 田 廣
- (III-87)Ⓢ 電気衝撃工法施工時における過剰間ゲキ水
 圧の測定と密度変化について
 鹿島技研正 保山 光
 " " " " ○菅 国 敏
 " " " " 田 好 功 徳

▶工学部講義室 電子第3(3F) 10月1日(月)

総括報告(斜面・支持力 1)
 13:00~14:15

- (III-88) 平面ひずみモデルによる砂地盤の支持力と
 内部変形について(その2)
 鹿島建設正 ○飛田 研
 銭高組 " " 藤原 正 一郎
- (III-89) 遠心力装置を利用した粘性土の斜面安定実
 験(第2報)
 大阪市大正 三笠 正
 " " " " 学 中 塚 秋 太
 " " " " ○望 月 人
 " " " " 中 塚 太 利 一
- (III-90)Ⓢ かけ崩れ土塊の運動に関する模型実験
 東大正 福岡 正
 " " " " 学 南 部 正
 " " " " ○南 部 喜 隆 忠 秋
- (III-91)Ⓢ 地すべり防止ぐいの水平支持力測定につい
 て
 西日本工大正 ○玉田 文
 " " " " " 谷 崎 光
 九州工大 " " 加藤 九州 男
- (III-92)Ⓢ 泥岩の吸水膨張に関する一考察
 京大防災研正 村山 朔
 " " " " 学 関 井 秀 郎
 " " " " ○鳥 井 原 雄 誠
- (休憩 5分)

個人発表(斜面・支持力 2)
14:20~15:50

- (III-93)◎ 複合地盤の支持力に関する基礎的研究
名 大 正 松 尾 稔
京 大 学 ○ 税 岡 所 頭 朗
- (III-94)◎ 深礎基礎による斜面地盤の模型破壊実験に
ついて 名 大 正 川 本 桃
名 城 大 正 ○ 清 水 本 泰
八千代エンジ ” ” 〇 浜 幸 万 弘 雄
- (III-95) 偏載荷重を受ける軟弱地盤上の構造物の側
方移動 建 土 研 正 駒 田 敬 一
” ” ” ” 〇 盛 井 幸 武
- (III-96)◎ 載荷による砂質盛土の斜面崩壊に関する実
験的研究 九 大 正 内 田 一 郎
” ” ” ” 〇 平 田 登 基 男
- (III-97)◎ 円弧すべり面の生起確率に関する一考察
名 大 正 松 尾 稔
清 水 建 設 ” ” 〇 脇 田 英 治 治
- (III-98) 斜面の破壊と土質特性について
山 梨 大 正 箭 内 寛 治

▶工学部講義室 電子第3(3F) 10月2日(火)

個人発表(杭・矢板 1)
9:00~10:00

- (III-99) くい頭部の応力伝達について
建 土 研 正 駒 田 敬 一
” ” ” ” 〇 足 龜 立 甲 義 勝 雄 信
- (III-100) コンクリートブロックを支持する鋼管くい
の振動 国 鉄 構 設 正 田 村 浩 一
国 鉄 三 工 局 ” ” 〇 鬼 頭 村 昭 誠 彦
国 鉄 構 設 ” ” 〇 西 村 昭 彦
- (III-101)◎ 橋梁基礎グイの動的特性について
北 開 土 試 正 〇 加 賀 屋 誠 秀 一 俊
達 坂
- (III-102) 鋼管矢板井筒基礎の水平抵抗について
日 本 鋼 管 正 吉 田 常 松
” ” ” ” 〇 小 間 口 憲 靖 彦 紀

(休憩 10 分)

個人発表(杭・矢板 2)
10:10~11:55

- (III-103) くい貫入による粘土地盤の塑性域
名 城 大 正 柴 田 道 生
- (III-104)◎ くい周辺の土の変形挙動について(第2報)
日 大 理 工 正 山 田 清 臣
- (III-105) くい先端部の閉塞効果について
建 土 研 正 駒 田 敬 一
” ” ” ” 〇 山 川 朝 生
- (III-106)◎ 杭先の角度に注目した支持力について
鳥 取 大 正 〇 勝 見 雅
- (III-107) 円錐角をもつ杭の支持力(その2)
名 城 大 正 柴 田 道 生
” ” ” ” 〇 阿 河 武 志
- (III-108) マトリックス法による杭の非線形解析
法 政 大 正 山 門 明 雄
” ” ” ” 〇 牟 地 田 羊 三 弘
親
- (III-109)◎ 波動方程式をもとにしたくい頭打撃応力の
算定式 間 組 正 〇 藤 田 圭 一 淡
古 賀 哲

(休憩 65 分)

個人発表(杭・矢板 3)
13:00~14:45

- (III-110) R C山留壁の挙動と周辺地盤の測定結果
錢 高 組 正 大 藤 楠 昌 良
” ” ” ” 〇 藤 山 原 正 隆 明 昭
山 崎 山 崎 崎 隆
- (III-111) 連続地中壁を用いた版状基礎の基礎的研究
首 都 公 団 正 〇 榎 本 守 平
千 代 田 C ” ” 〇 大 野 平 仁
近 藤 光
- (III-112) 二重鋼矢板構造の力学的挙動について
川 崎 製 鉄 正 近 藤 伸 治
” ” ” ” 〇 中 三 好 弘 宏 夫
川 崎 製 鉄 ” ” 〇 中 三 好 弘 宏 夫
- (III-113) 鋼管矢板井筒基礎の水平載荷試験
日 本 鋼 管 正 木 寺 謙 爾
” ” ” ” 〇 鷹 取 木 健 健 三
青 木 健
- (III-114)◎ 仮締切兼用鋼管矢板井筒に関する一実験
川 崎 製 鉄 正 〇 嶋 友 文 雄
” ” ” ” 〇 行 井 上 末 浩 富
- (III-115) 浮遊型海洋構造物の沈設アンカーの引抜き
抵抗 中 央 大 正 服 部 昌 太 郎
- (III-116) アンカー基礎の安定性について
中 部 地 建 正 多 田 浩 彦
本 四 公 団 ” ” 〇 山 根 根 智 章
東 洋 技 研 C ” ” 〇 山 根 智 章

(休憩 10 分)

個人発表(土質改良 1)
14:55~15:40

- (III-117)◎ 合成樹脂製ドレーン材を用いた真空圧密
大 阪 市 正 〇 佐 々 木 伸 喜
バ ン ド ー 化 学 ” ” 〇 山 田 邦 邦 彰
山 谷 山 谷
- (III-118) 石灰系材料による関東ロームの安定処理
(II) 生石灰添加による混合度と強度
日 大 生 産 工 正 今 野 誠
- (III-119) 石灰安定処理による土の一軸圧縮特性
中 部 工 大 正 山 田 公 夫

▶工学部講義室 電子第3(3F) 10月3日(水)

総括報告(土質改良 2)
9:00~10:15

- (III-120) サンドドレーンに関する実験
東 海 大 正 〇 稲 田 倍 穂
” ” ” ” 〇 赤 石 勝 穂
- (III-121) コンポーザーによる軟弱地盤改良の観測例
について 中 国 電 力 正 〇 松 岡 敏 彦
” ” ” ” 〇 塚 井 田 直 樹
不 動 建 設 ” ” 〇 塚 井 田 直 樹 邦 彦 雄
- (III-122) 浄水場発生汚泥の土的地盤改良処理
大 林 組 技 研 正 齋 藤 林 二 郎
” ” ” ” 〇 西 藤 清 茂 之
松 尾 龍 之
- (III-123) 水平方向の繰返し載荷による圧密の促進に
ついて 九 大 正 山 内 豊 聡
- (III-124) 電気泳動を用いたシラスの安定処理につい
て 九 大 正 山 内 豊 聡
” ” ” ” 〇 松 田 豊 聡 滋

(休憩 10 分)

総括報告(土質改良 3)
10:25~11:55

- (III-125)◎ セメント安定処理土のひずみエネルギー解
放率について 福 岡 大 正 〇 吉 田 信 夫
” ” ” ” 〇 陶 山 山 明 夫

- ◀(III-126) 粘性土に対する衝撃を加えたセメント注入
広島工大 正 鈴木 健夫
- ◀(III-127) 発泡性グラウトによる軟弱地盤の改良に関する研究
大林組技研 正 齋藤 二 郎章
" " " 岡内 藤 和純
" " " 〇岡内 藤 和純
- ◀(III-128) 地盤注入の新しい薬液と施工法に関する二、三の中規模比較試験
東大生研 正 〇佐藤 剛 司
" " " 三木 五三郎
ライト工業 " 酒井 文 雄
- ◀(III-129) 多価カチオンによる軟弱粘土の土質安定
京大 " 〇嘉松 新一郎
" " " 嘉門 雅 史
- ◀(III-130) 蛍光X線による薬液注入効果の測定
広島工大 正 鈴木 健夫
" " " 〇島 重 章
(休憩 65 分)

総括報告 (土性・特殊土 1)
13:00~14:45

- ◀(III-131) 三軸圧縮試験における砂粒子の破砕特性
山口大 正 三浦 哲 彦
" " " 〇山本 哲 彦
- ◀(III-132) CBR 値と土質材料の相関性について
名城大 正 柴田 道 生
" " " 〇岡田 富士夫
" " " 深谷 美 夫
- ◀(III-133) マサ土の締固め特性に与える粒子破砕の影響
立命館大 正 福本 武 明
- ◀(III-134) 札幌周辺の火山灰土の土質工学的性質 (第3報)
北大 " 〇北郷 繁 彦
" " " 〇神谷 光 彦
- ◀(III-135) 土のサクシオン圧と強さに関する研究
鳥取大 正 〇藤村 尚 一
" " " 久保田 敬 一
- ◀(III-136) "北見粘土" の土質工学的研究 (第1報)
北見工大 正 笹木 敏 夫
- ◀(III-137) 有機質粘土の膨潤特性について
九大 正 〇山内 豊 聡
西日本工大 " 〇安石 原 丸 謙 次
" " 学 石 丸 謙 次
(休憩 10 分)

個人発表 (土性・特殊土 2)
14:55~16:40

- ◀(III-138) 泥炭地盤の工学的性質の均一性に関する一考察
北開土試 正 佐々木 晴 美
- ◀(III-139) 硬質ビニル管周辺に用いる埋戻し材料 (碎石ダスト, 真砂土, シラス等) の検討について
電電公社 正 小野 文 朗
" " " 〇蛇川 哲 彦
" " " 木原 恒 彦
- ◀(III-140) マサ土の粒度分布特性による破砕性の検討
京大 正 〇松尾 新一郎
明石高専 " 〇沢 孝 平
- ◀(III-141) 火成岩系風化砂質土の圧縮特性について
京大 正 〇松尾 新一郎
関西大 " 〇西田 新一郎
大阪工大 " 〇福田 新一郎
- ◀(III-142) 火成岩系風化砂質土の浸水沈下性状に関する研究
京大 正 〇松尾 新一郎
大阪工大 " 〇福田 重 一
鴻池組 " 〇中 沢 重 一
- ◀(III-143) 膨張性粘土鉱物モンモリロナイトを含む土の工学的性質に及ぼす活性鉄の影響
大林組技研 正 喜田 大 三和
" " " 〇辻 博 三和
- ◀(III-144) カオリンを含む混合土および複層土の実験的研究
九大 正 〇内村 一 郎
" " " 〇帆 田 重 郎
" " 学 帆 田 重 郎
" " 〇帆 田 重 郎
(休憩 10 分)

▶工学部講義室 R 31 (3F) — 10月1日 (月)

総括報告 (岩盤 1)
13:00~14:00

- ◀(III-145) 大谷石微震音の発生特性について
労産業安全研 正 〇前 郁 夫
" " " 鈴木 木 芳 美
- ◀(III-146) ひずみ制御のもとでの岩質材料の変形挙動について
東海大 正 〇齋藤 敏 明
名工大 " 〇石川 川 兼 治
" " " 〇石川 川 兼 治
" " " 〇石川 川 兼 治
- ◀(III-147) 岩石の非整形試料の試験法について
日大理工 正 酒井 佐 武
大林組技研 " 〇芳 藤 藤 郎
" " " 〇芳 藤 藤 郎
- ◀(III-148) 異方性岩盤の初期応力測定法に関する研究
山梨大 正 〇平 島 健 一
奥村組 " 〇古 賀 賀 一 明
(休憩 10 分)

総括報告 (岩盤 2)
14:10~15:10

- ◀(III-149) Griffith の脆性破壊理論に関する二、三の拡張
山梨大 正 〇平島 健 一
前田建設 " 〇甲斐 正 晴
- ◀(III-150) 弾性波伝播に及ぼす亀裂の影響
熊本大 正 〇井上 康 人
" " " 〇井上 康 人
- ◀(III-151) 地盤内応力解析におけるジョイント要素の適用について
名大 正 〇川本 桃 万
関電 " 〇岩永 永 夫
" " " 〇岩永 永 夫
- ◀(III-152) 風化花こう岩の岩石工学的性質 (その1)
埼玉大 正 〇小野寺 透
" " " 〇小野寺 透
" " " 〇小野寺 透
(休憩 10 分)

個人発表 (岩盤 3)
15:10~15:40

- ◀(III-153) 風化花こう岩の岩石工学的性質 (その2)
一衝撃強度試験の適用性一
埼玉大 正 〇吉中 竜之進
前田建設 " 〇齋 間 竜之進
- ◀(III-154) 風化花こう岩の岩石工学的性質 (その3)
一せん断強度特性一
埼玉大 正 〇吉中 竜之進
サンコーC " 〇佐々木 勝 雄
山形県 " 〇五十嵐 政 雄

▶工学部講義室 R 31 (3F) — 10月2日 (火)

総括報告 (施工 1)
9:00~10:15

- ◀(III-155) 土の粒度による締固め特性の変化
神戸大 正 〇谷本 喜 一
" " " 〇野田 平 八郎
大阪土試 " 〇洪 谷 平 八郎
- ◀(III-156) 砂地盤の一締固め工法について
川崎製鉄 正 越後 勇 吉
" " " 〇橋本 正 吉
不動建設 " 〇水 野 正 吉
- ◀(III-157) 締固め中に発生する地中応力と土性
京大 正 〇沢田 敏 男
岡山大 " 〇渡辺 弘 忠
" " " 〇藤井 弘 忠
- ◀(III-158) 装軌式車両の沈下による走行抵抗について
防衛大 正 〇大平 至 徳
" " " 〇木 暮 徳 二
- ◀(III-159) 硬質地盤の回転掘削機による削孔特性 (第2報)
大林組技研 正 齋藤 藤 郎
" " " 〇芳 藤 藤 郎
" " " 〇松 尾 藤 郎
(休憩 10 分)

総括報告 (施工 2)
10:25~11:40

- (III-160) 泥水工法におけるベントナイト泥水の作用について(その1) - 泥水中における砂分の沈降変化率に関する実験 -
武蔵工大 正 成 山 元 一章
東京 都 " " ○三 沢 博
- (III-161) 基礎工事で発生する廃泥水の処理システムに関する研究(その4)
鴻池組 正 服部 博太郎
" " " 工 藤 光一
" " " " ○河 松 勝一
- (III-162) 70kl LNG 地下貯蔵タンク実験結果について(その1)(周辺地盤の凍土の発達)
大林組技研 正 斎 藤 二 郎
大林組 " " 河 野 彰
大林組技研 " " ○上 野 孝 之
- (III-163) 70kl LNG 地下貯蔵タンク実験結果について(その2)(タンク躯体の応力)
大林組 正 河 野 彰
" " " 高 野 邦
" " " ○三 浦 昭 爾
- (III-164) 70kl LNG 地下貯蔵タンク実験結果について(その3)(周辺地盤の凍結膨脹圧と変位)
精研冷機 正 高 志 勤
大林組技研 " " 野 藤 和 章
" " " " ○内 藤 和 章
- (休憩 80 分)

個人発表 (施工 3)
13:00~14:45

- (III-165) 水中における土砂の掘削機構について
京 大 正 ○梶 昭治郎
" " " " 金 子 義 信
- (III-166) 土工機械足回り部品の摩耗と土岩特性との相関性について
京 大 正 ○梶 昭治郎
福 井 大 " 室 達 朗
- (III-167) TBM の掘削性と地質との関係について
奥村組技研 正 小 林 義 美
" " " " 北 角 哲 三
" " " " ○芳 賀 憲 三
- (III-168) 圧気シールド工事に伴う酸素欠乏(酸欠)空気および地中有毒ガスの調査について
鹿島技研 正 木 島 詩 郎
" " " " ○藤 村 正
- (III-169) 土の凍結膨脹率に対する有効応力と凍結速度の影響
精研冷機 正 ○高 志 勤
" " " " 益 田 本 英 夫
" " " " 山 本 英 夫
- (III-170) 強化土構造体の摩擦特性
武蔵工大 正 星 谷 勝
強化土エンジ " " 島 田 俊 利
武蔵工大 " " ○千 葉 利 晃
- (III-171) ソイルブロック工法の研究 (13 報)
千葉工大 正 清 水 英 治
" " " " ○渡 辺 勉 勉

▶工学部講義室 R 31 (3 F) — 10月3日(木)

総括報告 (トンネル・土圧 1)
9:00~10:00

- (III-172) 浸水した砂の振動土圧
名 大 正 市 原 松 平
" " " " ○松 沢 宏
" " " " 西 村 恵 司
- (III-173) 光弾性ゲージを用いた砂質土中の応力測定に関する二、三の考察
山 梨 大 正 平 島 健 一
国 鉄 " " ○清 水 努

- (III-174) 軽量体利用による擁壁裏込土圧低減工法
港湾技研 正 中 瀬 明 男
開発機構 " " ○波 大 守
積 水 化 成 " " 高 橋 幸 雄
- (III-175) 受働荷重を考慮したトンネル覆工の応力解析
信 州 大 正 学 長 林 真 尚
" " " " ○小 林 真 和
- (休憩 10 分)

個人発表 (トンネル・土圧 2)
10:10~11:10

- (III-176) 脹張性地山トンネルにおける強大地圧の原因について
清水建設 正 竹 林 亜 夫
" " " " " 林 亜 夫
- (III-177) 模型実験による周辺掘削のトンネルへの影響
国鉄鉄研 正 白 井 慶 治
" " " " " 井 慶 治
- (III-178) 吹付コンクリート土の機能と効果について
国鉄鉄研 正 高 橋 彦 治
" " " " " 高 橋 彦 治
- (III-179) 圧気立坑内でのブラインド式シールド実験について
間 組 正 ○五 味 道 康
" " " " " 小 林 康 夫
- (休憩 110 分)

個人発表 (トンネル・土圧 3)
13:00~14:30

- (III-180) 積分方程式による粘弾性地盤内の応力解析
京 大 正 丹 羽 義 次
" " " " 小 林 昭 雄
" " " " ○福 井 卓 一
- (III-181) 地震時受働土圧装置
名 大 正 ○市 原 松 平
" " " " 松 水 宏 進
" " " " 水 谷 宏 進
- (III-182) 地中構造物に働く外力としての土圧について
防衛大 正 佐 藤 紘 志
" " " " " 佐 藤 紘 志
- (III-183) トンネル周辺応力と変形について
熊谷組 正 大 塚 本 夫
" " " " ○上 野 正 高
- (III-184) 傾斜面下に開削した双設トンネルの応力解析について
神戸大学 正 ○久 武 勝 保
山 梨 大 学 正 平 島 健 一
" " " " " 久 武 勝 保
- (III-185) 地下鉄シールド駅における基本形状の選定について
交通営団 正 渡 辺 健 健
- (休憩 10 分)

個人発表 (トンネル・土圧 4)
14:40~16:10

- (III-186) 両側を拘束された軟弱地盤のシールド推進による地表面への影響について
電電公社 正 ○種 谷 正 昭
" " " " 笹 本 正 昭
- (III-187) ブラインド式シールド工事における地表面への影響について
電電公社 正 ○島 田 承 男
" " " " 水 沢 三 代 夫
" " " " 柿 沼 一 夫
- (III-188) 回転ドラム型メカニカルシールド機の粘性土掘削特性について
電電公社 正 ○有 岡 良 祐
" " " " 倉 石 里 美
" " " " " 倉 石 里 美
- (III-189) 泥水加圧シールド工法における循環システムについて
電電公社 正 ○有 吉 利 幸
" " " " 伊 藤 和 五
" " " " 花 田 登 登
- (III-190) 泥水加圧シールド工法におけるベントナイト泥水の基礎実験について
電電公社 正 ○小 田 切 武 郎
" " " " 志 村 博 正
" " " " ○三 村 玉 彦
" " " " " 三 村 玉 彦
- (III-191) 機械掘削式ヒューム管推進工事について
電電公社 正 ○今 村 宏 司
" " " " 渡 辺 高 司

第 IV 部門 (道路工学・鉄道工学・交通計画・都市計画・地域計画・測量など)

▶工学部講義室 C 11 ——— 10月1日(月)

個人発表(計画論)
13:00~13:30

- (IV-1)⑤ 産業立地にもとづく地域間貨物流動分析
北 大 正 山 村 悦 夫
- (IV-2) 街路構成からみた計画単位
福 井 大 正 本 多 義 明

個人発表(パーソントリップ 1)
13:30~14:30

- (IV-3) 輸送手段選択の要因分析に関する一考察
建 士 研 正 小 野 和 日 児
札 幌 市 " 〇 斎 藤 雅 美
長大橋設計 " 〇 堀 江 清 一
- (IV-4) 交通機関選択性向に関する考察
建 建 研 正 中 川 三 朗
- (IV-5)⑤ パーソントリップのモダルスプリットについて
金 沢 大 正 松 浦 義 満
" " 〇 米 田 秀 男
- (IV-6)⑤ 道央都市圏におけるモードパターンの解析について
札 幌 市 正 森 宮 清 雄
" " 〇 高 村 英 俊 臣
(休憩 10 分)

個人発表(パーソントリップ 2)
14:40~15:55

- (IV-7) (欠 番)
- (IV-8)⑤ パーソントリップ調査における層別拡大法について
北 大 正 〇 山 形 耕 一
札 幌 市 " 鈴 木 二
" " 紙 谷 治
- (IV-9) オポチュニティモデルの改良に関する考察
計 画 科 学 研 正 市 川 準
- (IV-10) パーソントリップの交通手段別分担率の影響要因に関する分析
名 大 正 河 上 省 吾
" " 〇 広 木 康 裕
" " 〇 梅 木 勇 二
- (IV-11)⑤ パーソントリップの交通手段別分担率に関する一考察
名 大 正 河 上 省 吾
愛 知 県 " 〇 岩 本 基 広

▶工学部講義室 C 11 ——— 10月2日(火)

個人発表(港湾計画)
9:00~10:30

- (IV-12) 船舶・埠頭の属性を考慮した滞船現象に関する一考察
港 湾 技 研 正 工 藤 和 男
" " 〇 笹 嶋 博
" " 中 井 典 倫 子
- (IV-13) 横浜港におけるはしけの挙動に関する調査
港 湾 技 研 正 工 藤 和 男
" " 〇 金 渡 子 影 子
" " 〇 渡 辺 松 子
- (IV-14) Q.S.S.P(キューイング・システム・シミュレーション・プログラム)について
運 港 湾 局 正 〇 黒 田 秀 彦
港 湾 技 研 " 〇 佐 々 木 寛
- (IV-15) 雑貨埠頭の上屋・倉庫のシステム設計(第1報)
港 湾 技 研 正 工 藤 和 男
" " 〇 早 藤 能 伸

- (IV-16) M/G/S タイプ待ち合せモデルの近似解法について
港 湾 技 研 正 工 藤 和 男
- (IV-17)⑤ 漁港整備の地域開発効果の測定
東 工 大 学 〇 稲 村 肇 隆
建 設 省 " 〇 中 村 藤 隆 地 親
- (休憩 10 分)

個人発表(交通網計画)
10:40~12:10

- (IV-18) 道路網探索に関する一考察
北 " 大 正 〇 榎 谷 有 三
" " " 加 来 照 俊
- (IV-19)⑤ 都市内大量輸送機関路線網の計画手法に関する研究
東 工 大 正 菅 原 地 操
" " 学 〇 岩 井 茂 三
- (IV-20)⑤ 都市内道路網計画手法に関する研究
東 工 大 正 〇 森 出 倉 正 和
東 京 都 " 〇 出 倉 正 和
- (IV-21) 住宅地における街路網の構成に関する研究
明 星 大 正 広 瀬 盛 行
- (IV-22) (欠 番)
- (IV-23) 環状路線システム
東 大 正 松 本 嘉 司
(休憩 50 分)

個人発表(都市交通 1)
13:00~14:15

- (IV-24) 通勤・通学機関別分担率推計の一考察(その2)
日 大 理 工 正 榎 沢 芳 雄
" " 〇 高 橋 代 透 人
東 京 都 正 〇 高 橋 真 人
- (IV-25)⑤ バス輸送システムの配車計画について(その2)
セ ン トラ ル C 正 〇 谷 藤 正 三
日 大 理 工 " 〇 榎 藤 村 雄 次
戸 田 道 路 " 〇 藤 村 洋 次
- (IV-26) 大量輸送機関の運転路線系統および配車の決定について
金 沢 大 正 飯 田 恭 敬
福 井 工 大 " 〇 吉 田 豊 徳
- (IV-27) 都市と交通体系に関する研究(その3)
日 大 生 産 正 岡 木 但 夫
" " " 岡 本 田 量 静
" " " 〇 徐 木 田 哲 淵
- (IV-28)⑤ PRT の適用性に関する研究
東 工 大 正 〇 菅 原 地 操
" " " 森 地 茂
- (休憩 10 分)

個人発表(都市交通 2)
14:25~15:40

- (IV-29)⑤ 大阪都心部における業務交通対策への一試案
大 阪 市 正 〇 塩 谷 康 護
" " " 細 川 康 男
" " " 〇 岩 川 康 男
- (IV-30) 福井市における通勤交通の階層的解析
大 阪 大 学 〇 嶋 津 吉 秀
福 井 大 正 〇 本 多 義 明
- (IV-31) パーク・アンド・ライド方式による通勤交通体系に関する一考察
大 阪 工 大 正 〇 金 丸 次 男
中 央 復 建 C " 〇 丸 尾 哲 也

▶工学部講義室 B 12 ——— 10月2日(火)

個人発表(需要予測 1)
9:00~10:30

- (IV-67)◎ 交通需要予測モデルのシステム化について
北海道庁 正 伊藤 昌俊 勝臣裕
札幌市 " " 高谷 小
北港道ビジネス " " 〇小
- (IV-68) 交通需要予測の誤差分析
東大 正 太田 勝 敏
- (IV-69)◎ 観光交通需要の予測方法に関する研究
金沢大 正 松浦 義明 満文
富山県 " " 〇小森
- (IV-70)◎ RAS方式による地域間貨物輸送需要推定に関する研究
北大 正 小川 博悦 三夫貴
" " " 〇高山 木
北海道開発局 " " 〇高
- (IV-71) RAS方式による地域間貨物流動動態分析
北大 正 小川 博悦 三夫勉
" " " 〇中山 野
運輸省 " " 〇中
- (IV-72) 都市内物資流動と事業所に関する若干の考察
東大 正 新谷 川洋 二仁沈
" " " 〇山 川
建建研 " " 〇黒

(休憩 10分)

個人発表(需要予測 2)
10:40~12:10

- (IV-73)◎ 交通計画において使用するゾーン間時間距離の推計方法
金沢大 正 松浦 義明 満文
" " 学 〇谷 口 正
- (IV-74)◎ 交通手段選好における快適性要因の考察
東工大 正 菅原 正精 操通治
" " 学 〇宮川 葉
神奈川水事団 正 稲
- (IV-75)◎ ノードの影響をうけた2リンク輸送系の最適設計について
京大 正 長尾 義通 三彦幸
" " 学 〇則武 谷 博
戸田建設 正 長
- (IV-76)◎ 自動車の分布交通量に関する考察
金沢大 正 松浦 義明 満啓
愛知県 " " 〇加藤 文
- (IV-77)◎ 大都市交通の将来(システムダイナミクスによるアプローチ)
東大 正 〇中村 英夫 夫治
" " 学 〇大 村 田 哲 耕
宮城県 " " 〇大 横
- (IV-78) 新交通システムの導入に関する一考察
京大 正 近藤 勝直 一
" " 学 〇北 村 隆

(休憩 50分)

個人発表(需要予測・駐車場)
13:00~14:15

- (IV-79) 住区内歩行者交通の分布モデルについて
名大 正 竹内 伝 史
- (IV-80)◎ 介入機会モデルに関する2,3の考察
名大 正 河上 省 吾 樹
" " 学 〇鈴 村 英 夫
- (IV-81) 駐車場整備地区設定方法に関する一考察
北見工大 正 塩田 衍
- (IV-82)◎ 大規模団地における路上駐車実態と駐車場配置に関する研究
大 大 正 〇渡辺 千賀 恵 正 光
" " 学 〇英 比 利 正 光

(IV-83)◎ 大阪都心部における駐車場整備水準に関する一考察

大阪大学 〇伊藤 幸雄 光二
" " 〇藤 利本
R & A 総合研 " " 〇松 隆

(休憩 10分)

個人発表(交通事故)
14:25~15:40

- (IV-84) 交通事故発生危険性評価に関する研究(Ⅱ)
室蘭工大 正 斎藤 和夫 一
" " " 〇石 井 意
- (IV-85) 道路ネットワークにおける危険な区間の確認システムについて
室蘭工大 正 斎藤 和夫
- (IV-86) 首都高速道路の分合流部の事故について
首都公団 正 藤井 敏 雄
- (IV-87)◎ 踏切設備の許容的限界(暴進事故の場合)
大阪産大 正 堀川 健 六
- (IV-88) 地区別交通事故の推移に関する一考察
名大 〇近藤 保 則 明 弘
" " 学 〇大 藤 多 野
福井大 正 本 欽
豊田高専 " " 〇大 欽

▶工学部講義室 B 12 ——— 10月3日(水)

個人発表(交通公害)
9:00~10:45

- (IV-89)◎ 交通政策と大気汚染の関連についての研究
東工大 正 菅原 操起
" " 学 〇西田 寿
- (IV-90) (欠番)
- (IV-91)◎ 土による大気中一酸化炭素の浄化作用について
大阪市大 正 三瀬 貞優
" " " 〇山 田
- (IV-92) 車頭間隔が指数分布する交通流からの騒音レベルの変動に関する考察
京大 正 〇高木 興一 平夫
" " 学 〇大 橋 本 和 剛
京都大 正 橋 本 剛
- (IV-93)◎ 地域環境騒音指標の提言
東工大 正 〇中内 村山 英夫 夫雄 登
" " 学 〇肥田 野 久 久
A I T " " 〇肥田 野
- (IV-94) 高架に生ずる騒音について
東大 正 松本 嘉孝 司 二 則
" " 学 〇渡 本 嶋 義 夫
" " 学 〇渡 本 嶋 義 夫
- (IV-95) 幹線街路周辺の騒音被害に関する要因分析
名大 正 〇青島 次郎 省 吾
" " 学 〇青 島 上

(休憩 10分)

個人発表(交通規制・制御 1)
10:55~12:10

- (IV-96) 対向車線を用いた事故時の交通制御
信州大 正 奥谷 巖 人
" " 学 〇中 誤 昭
- (IV-97) 交通発生の抑制制御とその効果
信州大 正 奥谷 巖 人
- (IV-98) 道路網容量からみた交通制御の考え方について
大阪市大 正 西村 昂
- (IV-99) 交通信号のスプリット制御手法の比較検討
東大生研 正 越 子 毅 豊 正
" " 学 〇金 本 健 二 郎
オリエンタルC " " 〇金 本 健 二 郎
- (IV-100) 交通信号のオフセット制御手法の比較検討
東大生研 正 〇越富 毅 次 郎
" " 学 〇富 沢 本 健 二 郎
首都公団 正 富 沢 本 健 二 郎
オリエンタルC 正 富 沢 本 健 二 郎

(休憩 50分)

個人発表 (舗装構造・路面 1)
13:00~14:15

- (VI-132) コンクリート舗装の応力計算法に関する一考察
東北 大正 福田 正夫
首都公団 " 〇山崎 和
- (IV-133) 輪荷重と接地圧, 接地半径
東京 都正 〇秋山 政昌
" " " 〇細田 昌男
- (IV-134) ⑤ 圧裂マーシャル型くりかえし試験の特性について
中央 大正 梶本 和勝
千葉工大 " 〇榎本 歳
- (IV-135) 砂質土の CBR 試験に関する一考察
中央 大正 茨木 龍雄
" " " 〇斎藤 邦夫
- (IV-136) 路床・路盤材料の CVT 試験による変形係数について
九 大正 山内 豊聡
" " " 〇巻内 勝彦

(休憩 10 分)

個人発表 (舗装構造・路面 2)
14:25~15:40

- (IV-137) ⑤ 層構造の沈下に関する室内および現場実験
日本舗道 正 桃井 徹
- (IV-138) 路面のすべり抵抗と事故の関係
建土研 正 〇市原 英薫
" " " 〇荒牧 城之
" " " 〇小野 光
- (IV-139) ⑤ 新形式のラフネスメータと路面凹凸について
建土研 正 〇池村 信之司
- (IV-140) ⑤ 路面に設けたでこぼこにより走行自動車に生ずる振動の測定および解析
金沢 大正 〇小野 一良
建土研 " 〇市原 薫
- (IV-141) アスファルト混合物の曲げに関する研究
大成道路 正 〇星野 出佳
日大生産工 " " 〇星野 久造
" " " 〇栗谷川 裕

▶工学部講義室 C 12 ——— 10月3日(水)

個人発表 (測量)
9:00~10:30

- (IV-142) ⑤ 平板測量における前方交会法の誤差について (II)
名城 大正 榎田 祐次
" " " 〇前田 都喜春
- (IV-143) 布テープによる距離測定の精度について (II)
日大理工 正 〇岡積 満昭
" " " 〇亀田 和
- (IV-144) ⑤ 2層写真測量における種々の標定法の比較検討
京 大正 森 忠次
" " " 〇岡本 厚
- (IV-145) 流体測定用ステレオカメラの試作について
中央 大正 〇春日屋 昌夫
" " " 〇佐藤 敏
- (IV-146) 航空写真を利用した河川流域の解析について
日大生産工 正 堺川 毅生
" " " 〇藤井 寿生
- (IV-147) ⑤ コンターラインを利用した表面求積法 (第2報)
大阪工大 正 松井 啓之輔

(休憩 10 分)

個人発表 (幾何設計)
10:40~12:10

- (IV-148) ⑤ 防風柵および横風を受ける高速自動車の走行安定性について
金沢 大正 柳場 重正
" " " 〇小森 光
" " " 〇高組 明
- (IV-149) ⑤ 住居地区における交差点改良計画について
徳島 大正 藤目 夫
- (IV-150) 道路のサーヴィス水準の一考察
日大生産工 正 岡本 夫
" " " 〇岡本 哲人
" " " 〇宮島 正
- (IV-151) ⑤ 住民の反応を考慮した高速道路の路線選定
東工大 正 村 肇
" " " 〇稲村 肇
- (IV-152) ⑤ 高速道路における車線の評価に関する研究
東工大 正 中内 英夫
" " " 〇井村 久雅
" " " 〇山口 雅
- (IV-153) (欠 番)

(休憩 50 分)

個人発表 (鉄道線路・軌道)
13:00~15:00

- (IV-154) ⑤ 新有道床構造に関する試験結果
国 鉄 正 〇佐藤 吉彦
" " " 〇三浦 重
- (IV-155) ⑤ 新幹線用新有道床軌道構造
国 鉄 正 佐藤 吉彦
- (IV-156) ⑤ 砂利道床軌道が受ける衝撃の測定および解析
金沢 大正 〇小野 良男
石川高専 " 〇伊藤 義
- (IV-157) ⑤ 振動する軌道上の車輛運動 (続報)
東 大 正 八十島 義之助
" " " 〇松本 嘉孝
" " " 〇大嶋 孝二
- (IV-158) ⑤ 鉄道路線網計画手法に関する研究
東工大 正 菅原 操浩
計量計画研 " 〇杉 浩
- (IV-159) 分岐線高速用分岐装置 (新幹線) の試作設計
国鉄構設 正 〇北藤 治三
" " " 〇方沢 憲
- (IV-160) ⑤ ヤード設備と機能に関する研究
国鉄鉄研 正 金子 慶一
- (IV-161) 軌道衝撃の伝達吸収に関する一考察
岐阜高専 正 〇渡部 卓郎
" " " 〇渡鎌 田相互

(休憩 10 分)

個人発表 (都市災害)
15:10~16:40

- (IV-162) 大都市におけるビルディング間連絡橋構想 (その2)
日大生産工 正 岡本 夫
" " " 〇村尾 康
- (IV-163) 大都市防災の研究 (その2)
日大生産工 正 岡本 夫
- (IV-164) 東京都防災計画についての考察
東大 大正 〇宮村 忠二
芝浦工大 " " 〇石井 忠二
- (IV-165) ⑤ 災害資料の蓄積の標準化について
名 大正 島田 静雄
- (IV-166) トンネル工事における労働災害の分析
労産業安全研 正 〇前花 夫
" " " 〇花鈴 安郎
" " " 〇鈴木 美
- (IV-167) ⑤ 地震時の出火機構について
名 大 学 水野 弘之

- (V-31)◎ コンクリート構造物の補修について
首都公団 正 柳田 和 朗
- (V-32)◎ 補強コンクリートの支圧強度計算式について
神戸大 正 藤井 幹 学夫
大成建設 " ○鍋野 幹

▶工学部議義室 B 31 10月3日(水)

個人発表(コンクリート部材の設計 3)
9:00~10:30

- (V-33)◎ 鉛直な人工ひびわれを持つ鉄筋コンクリート梁の破壊実験
日大理工 正 北田 勇 輔勝
日大工 " ○原 忠
- (V-34) P C梁のせん断強さに関する実験研究
広島大 正 船越 稔晴
道路公団 " 本 光 清
- (V-35)◎ 鉄筋および鉄骨鉄筋コンクリート部材のせん断実験
首都公団 正 西山 啓 伸明春
" " " ○正 木 満 義
- (V-36) ねじりをうける鉄筋コンクリート部材の補強方法について
早大 正 松島 博
- (V-37)◎ 鉄筋で補強したプレストレストコンクリート矩形はりのねじりについて
立命館大 正 児島 孝 之
- (V-38)◎ ねじりを受ける軽量P C部材の挙動
首都公団 正 津野 和 男明二
" " " ○泉 杉 浦 征
- (休憩 10分)

個人発表(コンクリート部材の設計 4)
10:40~11:55

- (V-39) 軟弱地盤の盛土中のボックスカルバートの設計と応力測定
国鉄構設 正 ○森 重 龍 馬輝
国鉄下工 " 根 橋
- (V-40)◎ 鉄筋コンクリート部材のクリープ解析に関する一考察
京大 正 平沢 征 夫
- (V-41)◎ 鉄筋コンクリートのクリープについて
日大理工 正 関 慎 吾和
電発土試 " ○横 山 英
- (V-42)◎ コンクリート構造門形ラーメンのクリープによる不静定力的一般式について
函館高専 正 外崎 忍
- (V-43)◎ コンクリート合成材の遅れ変形応力特性
北大 正 ○奈良 久
" " " 角 田 与史雄
- (休憩 65分)

個人発表(太径鉄筋・付着)
13:00~14:30

- (V-44)◎ 太径異形鉄筋(D51)の付着性状に関する基礎研究
電力中研 正 田 辺 忠 顕雄
" " " ○岡 沢 孝
- (V-45)◎ 太径鉄筋の炭酸ガスアーク溶接に関する実験的研究(その1)
大成建設 正 田村 三 郎
- (V-46)◎ D51 鉄筋の疲労強度におよぼす曲げ加工法の影響
住友金属 正 菅野 孝 夫秀潔
" " " ○白 川

- (V-47)◎ 太径鉄筋(D51)を用いた柱のねじり強さに関する実験(第2報)
首都公団 正 玉置 久 脩九二
" " " ○一 和 樹 田 紘
オリエンタルC " " 和 田 正 直高
- (V-48)◎ 押抜き試験における付着応力の分布について
栗木組 正 ○伝 田 正
信州大 " " 長
- (V-49)◎ コンクリートの内部ひび割れを考慮した鉄筋の応力伝達について
都立大 正 池田 尚 治
- (休憩 10分)

個人発表(付着・その他)
14:40~15:55

- (V-50)◎ フーチング中における柱主鉄筋の定着に関する実験的研究
首都公団 正 玉置 泰 脩輔雄
" " " ○秋 元 溝 幸
オリエンタルC " " 横 溝 幸
- (V-51)◎ アルミ合金とコンクリートとの付着に関する実験的研究
近畿大 正 ○玉 井 元 治幸良
" " " 矢 寺 本 正 政
神戸製鋼 正 梶 本 正
- (V-52) 周囲に鉄筋を有する正方形断面がその対称軸外に偏心荷重を受け、しかも中立軸が断面の中心を通るときの断面応力度について
大阪産大 正 武田 英 吉
- (V-53)◎ 太径異形鉄筋の付着性についての研究
東北大 正 後藤 幸 正雄司
川崎製鉄 " " 嶋 藤 幸 文浩
東北大 " " ○大 塚 塚 浩
- (V-54)◎ 打継目における新旧コンクリートの複合機構について
東北工大 正 外 門 正 直成
東北大 " " 学 ○菊 池 一

▶工学部議義室 106 10月1日(月)

個人発表(セメント・その他)
13:00~14:30

- (V-55)◎ 膨脹材を用いたコンクリートの初期膨脹特性
日本セメント 正 ○江 浦 寛 遊司唱
" " " 山 浦 司 唱
" " " 門 司 唱
- (V-56)◎ 各種膨脹性セメント混和材の膨脹特性について
東工大 正 長 濱 重 義司幸
" " " ○後 藤 博 祐 博
京浜外貿公団 " " 新行内
- (V-57)◎ 膨脹性混和剤のマッシュなコンクリート構造物への利用に関する基礎研究
鹿島技研 正 中 原 康 弘章
" " " ○万 木 正 喜
" " " 中 木 矢
- (V-58)◎ 比較的部材厚の厚い壁体構造物への膨脹性混和剤の応用現場実験
鹿島技研 正 中 原 康 弘章
" " " ○中 万 木 正 喜
" " " 中 木 矢
- (V-59) アルミナセメントに対するヘドロ公害の影響度
日大生産工 正 柳 内 睦 人
- (V-60)◎ ジェットセメントを使用した製品用コンクリートの硬化後の諸性質
徳島大 正 荒 木 謙 一 清生
" " " 河 野 川 孝
大林組 " " ○野 川 孝
- (休憩 10分)

個人発表 (鉄筋コンクリートスラブ)
14:40~15:40

- (V-61) 鉄筋コンクリートスラブの押抜きせん断耐力に関する研究
北 大 正 ○角 田 与 史 雄
北 開 土 試 大 島 嘉 夫
北 大 藤 田 嘉 夫
- (V-62) 2主桁版橋の設計
首 都 公 団 正 ○椎 泰 敏
大 団 正 飯 村 耕 作
- (V-63) 鉄筋コンクリート床版載荷実験
舞 鶴 高 専 正 岡 本 寛 昭
- (V-64) 高速載荷を受ける鉄筋コンクリート部材の変形と破壊
防 衛 大 正 藤 本 一 男 文 彦
大 学 ○下 田 義 敏
菅 谷 敏 彦

▶工学部議義室 106 10月2日(火)

個人発表 (フレッシュコンクリート 1)
9:00~10:30

- (V-65) フレッシュモルタルのレオロジー的性質に関する研究—細骨材粒度と化学混和剤の影響—
鳥 取 大 正 ○木 山 英 郎 蔵 次
大 正 西 林 新 憲
建 築 総 合 試 大 阪 田 憲 次
- (V-66) フレッシュモルタルのレオロジー的性質に関する研究—配合と化学混和剤の影響—
鳥 取 大 正 西 林 新 蔵 郎 守
大 正 木 山 英 郎
大 正 藤 村 憲 次
- (V-67) フレッシュモルタルの配合と塑性粘度および降伏値との関係
德 島 大 正 ○水 口 裕 之 三
西 松 建 設 大 安 永 正
- (V-68) パルス波によるフレッシュモルタルの物性測定に関する一実験
立 命 館 大 正 明 石 外 世 樹 忍
明 石 高 専 正 ○角 田 憲 次
- (V-69) コンクリート用回転粘度計について
都 立 大 正 村 田 二 郎
- (V-70) 富配合コンクリートのコンシステンシーに関する測定について
大 阪 産 大 正 山 路 文 夫
(休憩 10 分)

個人発表 (フレッシュコンクリート 2)
10:40~11:55

- (V-71) 高性能減水剤を用いた注入モルタルの流動性に関する基礎研究
東 工 大 正 長 滝 重 義 英 深
韓 国 漢 陽 大 正 ○文 唐 沢 翰
東 工 大 唐 沢 翰
- (V-72) 膨張性注入モルタルの諸性状
東 工 大 正 長 滝 重 義 敏 実
首 都 公 団 正 小 村 井 敏 実
清 水 建 設 大 団 正 今 井 敏 実
- (V-73) 高強度コンクリートに関する基礎的研究
九 州 工 大 正 渡 辺 俊 明 一 光
大 正 ○高 山 海 章
大 学 内 海 章
- (V-74) 沈埋トンネルコンクリートの配合と比重管理について
首 都 公 団 正 ○岡 田 郁 生 雄 輝
大 団 正 松 本 弘 輝
大 正 岡 田 郁 生 雄 輝
大 正 岡 田 郁 生 雄 輝
- (V-75) ベントナイト・セメントゲルの物性に関する予備的研究
大 林 組 技 研 正 喜 田 大 三 武 司
大 正 喜 田 大 三 武 司
大 正 喜 田 大 三 武 司
(休憩 65 分)

個人発表 (硬化コンクリート 1)
13:00~14:30

- (V-76) 水で飽和されたコンクリートの強度と破壊に関する基礎的研究
名 大 学 田 政 範 一 徳
大 学 田 政 範 一 徳
大 学 田 政 範 一 徳
大 学 田 政 範 一 徳
- (V-77) コンクリートの非均質性と異方性に関する要因分析
名 境 球 大 正 小 和 阪 義 夫 夫 謙 雄
境 球 大 正 小 和 阪 義 夫 夫 謙 雄
境 球 大 正 小 和 阪 義 夫 夫 謙 雄
- (V-78) 多軸圧縮応力下におけるコンクリートの強度およびひずみ性状
鹿 島 技 研 正 ○小 谷 一 三 彦 一
東 大 学 阿 丸 部 山 保 久
東 大 学 阿 丸 部 山 保 久
- (V-79) 高強度コンクリートの2,3の性状
都 立 大 正 村 田 二 郎 郎 雄
都 立 大 正 村 田 二 郎 郎 雄
都 立 大 正 村 田 二 郎 郎 雄
- (V-80) コンクリートの熱による強度変化について
福 岡 大 正 大 和 竹 史 雄
福 岡 大 正 大 和 竹 史 雄
福 岡 大 正 大 和 竹 史 雄
- (V-81) コンクリートの熱拡散率に及ぼす配合諸条件の影響
秋 田 大 正 ○庄 谷 征 美 弘
秋 田 大 正 ○庄 谷 征 美 弘
秋 田 大 正 ○庄 谷 征 美 弘
(休憩 10 分)

個人発表 (硬化コンクリート 2)
14:40~15:55

- (V-82) くり返し荷重をうけるソイルセメントの疲労について
金 沢 大 正 柳 場 重 正 紀 隆
大 正 柳 場 重 正 紀 隆
大 正 柳 場 重 正 紀 隆
- (V-83) 高荷重履歴とコンクリートの破壊
京 大 正 小 柳 治 哲 哲 斗
京 大 正 小 柳 治 哲 哲 斗
京 大 正 小 柳 治 哲 哲 斗
- (V-84) コンクリート(モルタル)の時間依存の強度特性
九 大 正 学 德 光 善 治 郎
九 大 正 学 德 光 善 治 郎
九 大 正 学 德 光 善 治 郎
- (V-85) コンクリートのグリースの内部機構に関する一考察
建 築 総 合 試 正 ○阪 田 憲 次 郎 蔵
鳥 取 大 正 西 林 新 憲 次 郎 蔵
鳥 取 大 正 西 林 新 憲 次 郎 蔵
- (V-86) 乾燥にともないコンクリート表面部に発生する内部応力について
岩 手 大 正 藤 原 忠 司

▶工学部議義室 106 10月3日(水)

個人発表 (コンクリートの耐久性)
9:00~10:30

- (V-87) コンクリート構造物の凍害調査
北 開 土 試 正 前 川 静 男 隆
北 開 土 試 正 前 川 静 男 隆
北 開 土 試 正 前 川 静 男 隆
- (V-88) 凍結融解をうけたコンクリートの劣化指標について
北 見 工 大 正 鮎 田 耕 一
北 見 工 大 正 鮎 田 耕 一
北 見 工 大 正 鮎 田 耕 一
- (V-89) 各種コンクリートの室内凍結融解試験結果について
福 岡 大 正 ○大 和 竹 史 明 雄
福 岡 大 正 ○大 和 竹 史 明 雄
福 岡 大 正 ○大 和 竹 史 明 雄
- (V-90) コンクリートの凍害についての一考察
岩 手 大 正 石 田 宏
岩 手 大 正 石 田 宏
岩 手 大 正 石 田 宏
- (V-91) 海岸における鉄筋コンクリートげたの暴露試験
北 海 道 土 試 正 ○前 川 静 男 宏
北 海 道 土 試 正 ○前 川 静 男 宏
北 海 道 土 試 正 ○前 川 静 男 宏

- (V-121)◎ 供用中の舗装におけるアスファルトの老化について
東 亜 道 路 正 ○笠 原 靖
" " " 植 村 正 彦
" " " 鳥 居 敏
- (V-122)◎ ホットストレージによるアスファルトの劣化の研究(5)
東 亜 道 路 正 ○笠 原 靖
" " " 雜 賀 夫
- (V-123)◎ 湿潤時作業可能な舗装補修材料について
日 大 正 阿 部 頼 政
- (V-124)◎ 道路用スラグに関する実験的研究
九 州 工 大 正 学 ○岡 林 隆
" " " 十 河 巧 幸
- (休憩 10 分)

個人発表(施工一般・その他)
10:40~11:55

- (V-125) 安定処理ヘドロの養生効果について
熊 本 大 正 ○梶 原 光 久
西 浦 組 " 中 西 克
熊 本 大 正 ○丸 山 繁
- (V-126) 安定処理土の遮水効果について
熊 本 大 正 ○梶 原 光 久
西 浦 組 " 中 西 克
熊 本 大 正 ○丸 山 繁
- (V-127) (欠 番)
- (V-128)◎ 宅地造成における運土計画シミュレーション
東 大 生 研 正 村 井 俊 治
" " " ○大 林 成 行
- (V-129)◎ シールド工事における遠隔監視システムについて
電 電 公 社 正 前 田 喜 和
" " " ○木 村 幸 夫
" " " 桜 井 隆 雄
- (休憩 65 分)

個人発表(施工一般 1)
13:00~14:30

- (V-130)◎ 排水孔切断工事に使用した「火焰ジェットカッター・システム」について
東 大 正 大 村 昭 士
- (V-131)◎ 住友式火焰ジェット・カッターによる排水口切断工事
住 友 建 設 正 中 島 奈 一
" " " ○高 橋 猛 春
" " " 菅 正
- (V-132)◎ 鋼管の発破による水中切断法
川 崎 製 鉄 正 石 渡 正 夫
" " " ○斎 藤 藤 恂
" " " 中 国 化 工 沖 野 嘉 一
- (V-133)◎ ウォータージェットによる地下埋設物等の切削について
電 電 公 社 正 田 中 邦 男
" " " ○倉 石 里 美
" " " 中 山 重 典
- (V-134) 管路埋設に伴う非火薬を使用した主要道路岩盤地帯の掘削について
電 電 公 社 正 金 井 恵 太 郎
- (V-135)◎ ケーシングオーガ方式によるさく進機
電 電 公 社 正 ○鶴 田 秀 典
" " " 正 長 尾 次 郎
" " " 佐 藤 史 郎 雄
- (休憩 10 分)

個人発表(施工一般 2)
14:40~15:55

- (V-136) P Cパイルのねじり貫入工法に関する基礎実験
九 州 産 大 正 宮 川 邦 彦
- (V-137)◎ P Cくい体内の衝撃応力波の挙動に関する基礎的研究
立 命 館 大 正 ○尼 崎 省 二
" " " 明 石 外 世 衛
- (V-138) 鋼管矢板井筒基礎の施工
間 組 正 藤 田 圭 一
日 本 鋼 管 " 島 岡 敏 久
" " " ○島 岡 敏 久
- (V-139) 鋼殻を用いた沈埋エレメントの製作について
日 本 鋼 管 正 齋 藤 彰 世
" " " ○蝦 谷 名 一
" " " 藤 口 英 淳
- (V-140)◎ クライミングロッドの座屈について(コンクリートの品質、及拘束条件を変化させた場合)
武 蔵 工 大 正 小 玉 克 己
飛 鳥 建 設 " 小 連 沼 喜 久 男
" " " ○小 林 清 三

▶工学部議義室 107 10月3日(水)

個人発表(施工一般・その他)
9:00~10:30

- (V-141) 爆破工事に於ける集中装薬法と棒状装薬法との比較およびその特性の利用
中 島 組 正 中 島 靖 二
- (V-142)◎ 移動吊支保工によるP C桁の施工
首 都 公 団 正 椎 村 敏 三
住 友 建 設 " 飯 村 耕 弘
- (V-143) (欠 番)
- (V-144) 地下鉄工事における河川横断特殊工事(泥水壁圧気工法)
交 通 営 団 正 ○守 屋 一 光
" 錢 高 組 " 青 木 賢 一
- (V-145)◎ オールウェザー化のエアテント仮設実験について
東 北 地 建 正 赤 津 武 男
- (V-146)◎ 大容量モルタルミキサの分散効果に関する研究
清 水 建 設 正 北 山 昇
- (休憩 10 分)

個人発表(コンクリート部材の設計 5)
10:40~11:55

- (V-147)◎ 極低温の影響を受けるコンクリート基礎の温度およびひずみ変化の実測
フジタ工業 正 鎌 田 正 孝
" " " 石 井 武 美
" " " ○青 柳 景 昌
- (V-148)◎ アンカープレートをもったアンカーボルト定着部の引き抜き耐力に関する実験的検討
電 力 中 研 正 ○青 柳 征 夫
" " " 五 味 雄 義
- (V-149)◎ 温度勾配を与えたプレストレストコンクリートはりのクリープ性状に関する研究
電 力 中 研 正 青 柳 征 夫
" " " ○川 崎 道 夫
- (V-150)◎ 原子力発電所格納容器アンカー部の引抜耐力に関する大型二次元模型実験
電 力 中 研 正 阿 部 博 俊
" " " ○田 辺 忠 顕
- (V-151)◎ コンクリート製圧力容器の熱クリープ解析に関する研究
電 力 中 研 正 阿 部 博 俊
" " " ○大 田 辺 忠 顕
" " " 沼 博 志
- (休憩 65 分)

個人発表(骨材・混和材料)
13:00~14:30

- (V-152) 高炉スラグの利用に関する一実験
日大生産工 正 堺 竹内 十三 毅男
" " " " " 河合 紘 三 紘
- (V-153) シリカ質混和材を用いたコンクリートの諸性質について
九電総研 正 是 石 俊 文
" " " " " 杉 田 英 明
" " " " " 清 國 三 三 朗
- (V-154) 減水剤を添加したコンクリートの凝結におよぼすせっこう形態の影響
中国電力 正 藤 木 洋 一
- (V-155) 即時脱型コンクリートに対する人工軽量骨材および混和剤の使用について
徳島大 正 学 〇河 野 清
" " " " " 藤 藤 崎 茂
" " " " " 津 津 康 賀
- (V-156) 軽量粗骨材の加圧吸水に関する基礎研究
広島大 正 〇船 越 育
" " " " " 米 倉 越 武
" " " " " 倉 倉 夫

- (V-157) 海砂中の貝殻片のコンクリートに与える影響
佐賀大 正 〇石 川 夫
九 大 " " 松 下 通
三菱鉱業セメ " " 葛 城 三 三
- (休憩 10分)

個人発表(施工一般・その他)
14:40~15:40

- (V-158) 巨大支承下部充てん工法について
京阪神公団 大 正 岡 田 清
ポリス物産 " " " 松 村 駿 一郎
" " " " " 青 木 亮 司
- (V-159) けたシュー据付工法(樹脂注入による)国鉄構設 正 〇宮 坂 慶 男
" " " " " 浅 石 野 旗
" " " " " 井 井 勇
- (V-160) (欠番)
- (V-161) JIS R 5201 に関する豊浦標準砂について
名城大 正 〇加 藤 正 育
" " " " " 飯 坂 武 武

下水汚泥の処理・処分および利用に関する研究

新刊●昭和46年度報告書 B5・322頁 実費 2000円(〒170円)

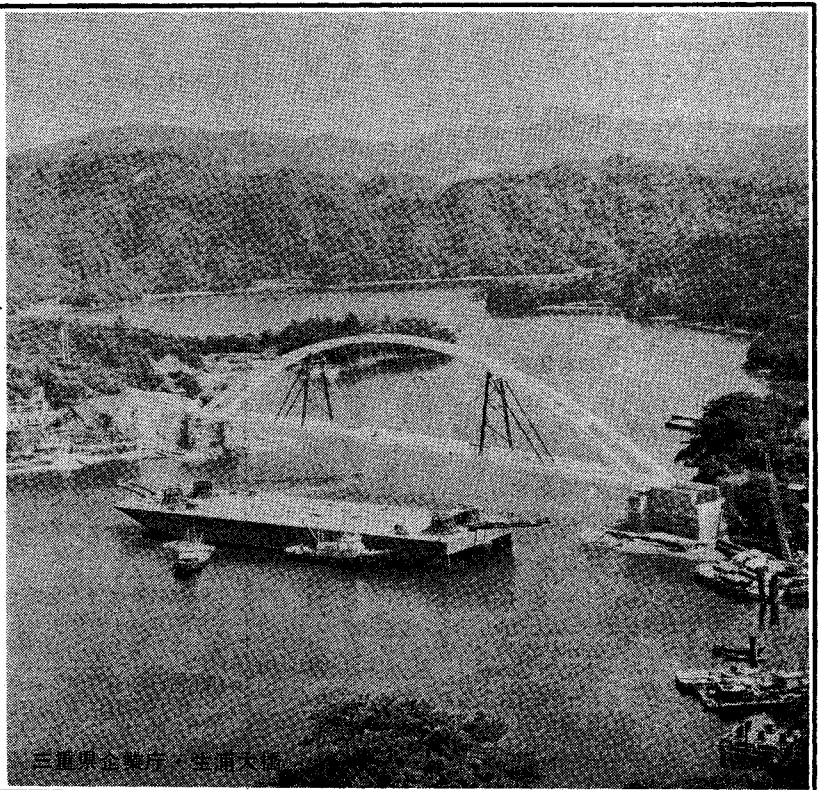
- 既刊●昭和43年度報告書 B5・232ページ 1200円(〒140円) 4冊合計
- 既刊●昭和44年度報告書 B5・160ページ 1300円(〒140円) 6000円
- 既刊●昭和45年度報告書 B5・200ページ 1500円(〒140円) (〒230円)



株式会社
宮地鉄工所

橋梁・鉄骨

本社 東京都江東区新砂2-1-2 電話 645-1141(大代表)
支社 大阪 工場 東京・松本 営業所 名古屋・札幌・福岡・沖縄



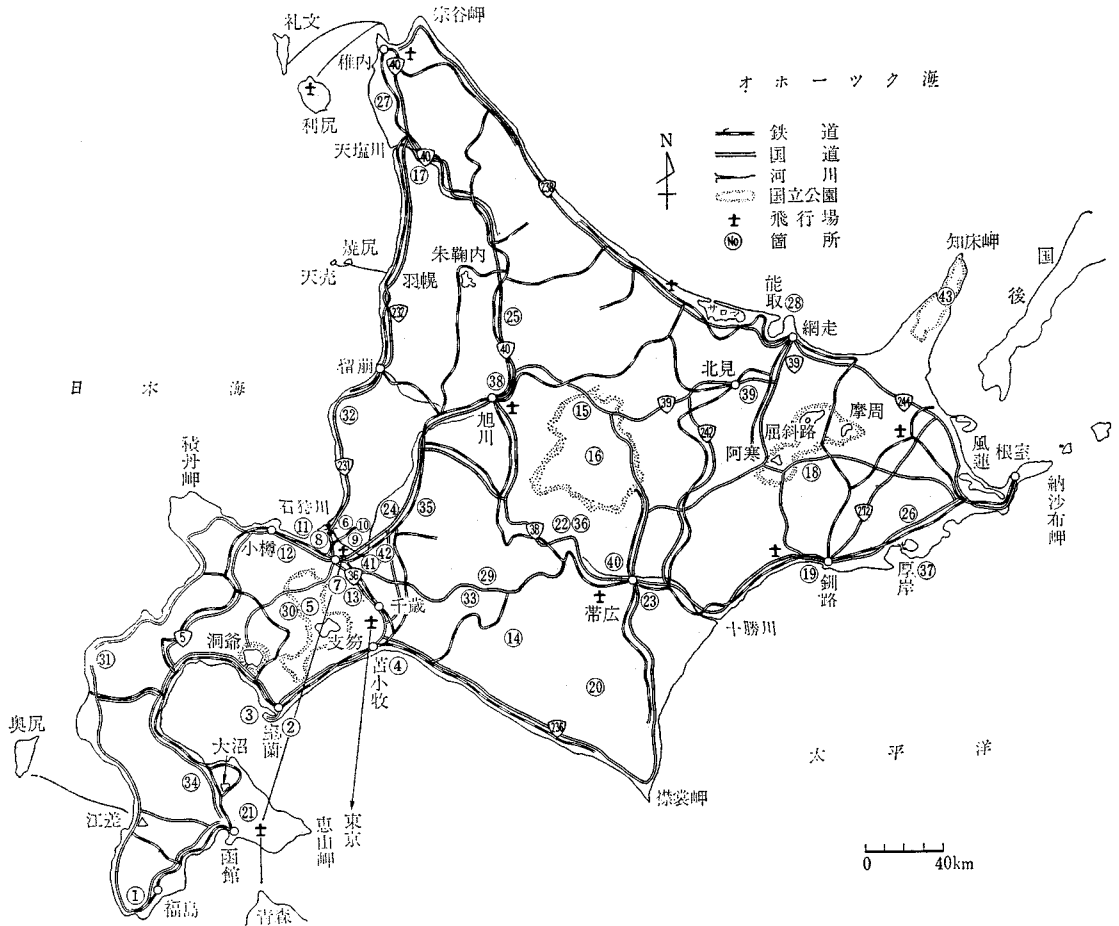
三重県企業庁・生瀬大橋

11 第 28 回年次学術講演会・教室，講演時間一覧表(1)

会場：北海道大学工学部

		10月1日(月)		10月2日(火)				10月3日(水)																				
		午後		午前		午後		午前		午後																		
第I部 門	講義室 108	項目	構造解析		構造解析		構造解析		有限要素法		有限要素法																	
		司会者	後藤茂夫	井藤昭夫	夏目正太郎	岡村宏一	小林昭一	林有一郎	佐武正雄	川本眺万	吉田裕																	
		総括報告者	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人																	
		番号	1~5	6~11	12~17	18~22	23~27	28~33	34~37	38~42	43~48																	
		時間	13:00~14:15	14:25~15:55	9:00~10:30	10:40~11:55	13:00~14:15	14:25~15:55	9:30~10:30	10:40~11:55	13:00~14:30																	
		講義室 C14	項目	応力測定		座屈		座屈		耐荷力		耐荷力																
		司会者	丹羽義次	菊池洋一	福本勝士	西野文雄	高橋龍夫	波多野昭吾	米沢博	前田幸雄																		
		総括報告者	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人																		
		番号	49~53	54~58	59~62	63~67	68~72	73~77	78~81	82~86																		
		時間	13:00~14:15	14:25~15:40	9:30~10:30	10:40~11:55	13:00~14:15	14:25~15:40	9:30~10:30	10:40~11:55																		
	講義室 C17	項目	桁橋		最適設計		合成桁		施工		設計法	接合																
	司会者	外崎忍	堀井健一郎	長尚	大久保禎二	赤尾親助	石井亮二	青木弘	西村昭	山本稔	新山惇																	
	総括報告者	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人																	
	番号	87~91	92~96	97~100	101~105	106~110	111~115	116~119	120~124	125~128	129~132																	
	時間	13:00~14:15	14:25~15:40	9:30~10:30	10:40~11:55	13:00~14:15	14:25~15:40	9:30~10:30	10:40~11:55	13:00~14:00	14:10~15:10																	
	講義室 151	項目	疲勞		板		板		薄肉構造		曲線桁																	
	司会者	波田凱夫	秋山成興	芳村仁	樗木武	大村裕	能町純雄	小松定夫	深沢泰晴	渡辺昇																		
	総括報告者	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人																		
	番号	133~137	138~142	143~146	147~151	152~156	157~161	162~166	167~171	172~177																		
	時間	13:00~14:15	14:25~15:40	9:30~10:30	10:40~11:55	13:00~14:15	14:25~15:40	9:15~10:30	10:40~11:50	13:00~14:30																		
	講義室 C19	項目	吊橋		耐風		耐風		振動		振動																	
	司会者	松本嘉司	長谷川鏑一	色部誠	白石成人	岡内功	伊藤学	小堀為雄	西脇威夫	平井一男																		
	総括報告者	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人																		
	番号	178~181	182~186	187~190	191~195	196~200	201~205	206~209	210~214	215~221																		
	時間	13:00~14:00	14:10~15:25	9:30~10:30	10:40~11:55	13:00~14:15	14:25~15:40	9:30~10:30	10:40~11:55	13:00~14:45																		
	講義室 B32	項目	振動・波動		耐震		耐震		耐震		耐震																	
	司会者	伯野元彦	島田静雄	栗林栄一	土岐憲三	片山恒雄	大久保忠良	山田善一	田村重四郎	岩崎敏男																		
	総括報告者	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人																		
	番号	222~226	227~231	232~235	236~240	241~245	246~250	251~254	255~259	260~263																		
	時間	13:00~14:15	14:25~15:40	9:30~10:30	10:40~11:55	13:00~14:15	14:25~15:40	9:30~10:30	10:40~11:55	13:00~14:00																		
第II部 門	講義室 C15	項目	波動		波動		波力		消波工		その他・打上・越波・河口	海浜変形	海浜変形															
		司会者	岩垣雄一		室田明		堀川清司		岩崎敏夫		尾崎晃																	
		総括報告者	玉井信行	日野幹雄	佐伯浩	個人	個人	服部昌太郎	合田良実	個人	三浦晃	近藤俊郎	個人	土屋義人	個人	野田英明												
		番号	1~3	4~7	8~11	12~13	14	15~18	19~22	23~24	25~28	29~33	34~40	41~44	45~46	47~52												
		時間	13:00~13:45	13:45~14:45	14:55~15:55	9:00~9:30	9:30~9:45	9:45~10:45	10:55~11:55	13:00~13:30	13:30~14:30	14:40~15:55	9:00~10:45	10:55~11:55	13:00~13:30	13:30~15:00												
		講義室 C16	項目	水文統計		流出		流出		計画・災害特性		計画	計測・模型実験	乱れ	移流拡散													
		司会者	角屋陸		石原安雄		山岡勲		高橋裕		高橋裕		須賀堯三		板倉忠興		村岡浩爾											
		総括報告者	木下武雄	藤田睦博	個人	金丸昭治	長尾正志	山口甲	高木不折	山口高志	宮村忠	個人	高棹球馬	須賀堯三	板倉忠興	村岡浩爾												
		番号	53~57	58~61	62~63	64~68	69~72	73~74	75~78	79~81	82~85	86~88	89~92	93~95	96~100	101~104												
		時間	13:00~14:15	14:15~15:15	15:25~15:55	9:00~10:15	10:25~11:25	11:25~11:55	13:00~14:00	14:00~14:45	14:55~15:55	9:00~9:45	9:45~10:45	10:55~11:40	13:00~14:15	14:25~15:25												
	講義室 B11	項目	橋脚流		彎曲流		不定流		振動		定流		移動床流		流路形態		掃流砂		浮遊砂		山地崩壊		固定床粗度					
	司会者	西畑勇夫		丸山勇夫		足立昭平		林泰造		高瀬信忠		木村喜代治		土屋昭彦		河村三郎		個人		今本博健								
	総括報告者	箕原亮	村本嘉雄	個人	是枝忍	荻原能男	個人	大同淳之	高瀬信忠	木村喜代治	土屋昭彦	河村三郎	個人	今本博健														
	番号	105~110	111~115	116~120	121~123	124~127	128~133	134~138	139~144	145~149	150~154	155~158	159~162															
	時間	13:00~14:30	14:40~15:55	9:00~10:15	10:15~11:00	11:10~12:10	13:00~14:30	14:40~15:55	9:00~10:30	10:40~11:55	13:00~14:15	14:15~15:15	15:25~16:25															
	講義室 101	項目	沈殿		濁質除去		高度・高次処理		酸素移動		活性汚泥法		接触酸化		廃水処理		下水処理システム		水質指標		汚濁水理		水源		水質汚濁		混合	大気染
	司会者	佐藤敦久		南都祥一		丹保憲仁		松尾友矩		柏谷衛		寺島重雄		高松武一郎		個人		住友恒		個人		個人		個人		井上力太		
	総括報告者	栗谷陽一	個人	個人	個人	丹保憲仁	松尾友矩	個人	神山桂一	個人	高松武一郎	個人	住友恒	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	個人	井上力太	
	番号	190~194	195~200	201~205	206~209	210~213	214~218	219~221	222~224	225~228	229~230	231~236	237	238~241	242~244	245	246~248											
	時間	13:00~14:15	14:25~15:55	8:45~10:00	10:00~11:00	11:10~12:10	13:00~14:15	14:25~15:10	15:10~15:55	9:00~10:00	10:00~10:30	10:40~12:10	15:00~18:15	18:15~14:15	14:25~15:10	15:10~15:25	15:35~16:20											
	講義室 102	項目	放射能管理		焼却		埋立		汚泥処理		施設計画		下水流出		環境計画		密度流		密度流		地下密度流		地下水					
	司会者	岩井重久		石橋多聞		川島普		末石富太郎		和田明		柏村正和		上田年比古		安田禎輔		崎山正常										
	総括報告者	筒井天孝	個人	平岡正勝	個人	川島普	個人	個人	石黒政儀	個人	和田明	柏村正和	上田年比古	安田禎輔	崎山正常													
	番号	249~252	253~254	255~258	259~262	263~266	267~270	271~272	273~275	276~281	163~167	168~174	175~180	181~185	186~189													
	時間	13:00~14:00	14:00~14:30	14:40~15:40	9:00~10:00	10:00~11:00	11:10~12:10	13:00~13:30	13:30~14:15	14:25~15:55	9:00~10:15	10:25~12:10	13:00~14:30	14:40~15:55	15:55~16:55													

資料・北海道地方の主要土木工事一覧—北海道支部—



北海道地方の主要土木工事一覧表

図面 対照 番号	工事名	事業主体	事業費 (億円)	工期 (昭和・年)	工事概要	特 徴
①	青函トンネル	日本鉄道建設	3250.0	46~54	延長 53.85 km (うち海底部 23.3 km) 新幹線複線断面, 最急勾配 12%	竜飛と吉岡を結ぶ世界最長の海底トンネル
②	室蘭新道	北海道開発局	11.2	46~51	延長 8.3 km (うち橋梁 2.1 km, トンネル 0.6 km), 4~6車線	市街部を通過するバイパスのため平面, 縦断線が複雑. 構造物基礎は無振動・無騒音工法に限定
③	室蘭港	北海道開発局 室蘭市	85.7	46~50	本航路 (-16.5 m) 埠頭の建設, 岸壁 (-12 m, -10 m) 4バース	10 万トン級船舶対象の航路整備
④	苫小牧港	北海道開発局 苫小牧市管理組合	443.0	46~50	本航路 (-14.5 m) の整備, 岸壁 (-10 m, -12 m, -7.5 m), 7バース	内陸掘込式
⑤	支笏洞爺国立公園	火山活動によって形成された大きな火山科学博物館の観を呈し, 世界でも珍しい昭和火山, 静かな環境に恵まれた支笏湖をはじめ, 洞爺湖湖畔・登別・定山溪・カルルス等有名な温泉あり, またオリンピック滑降競技の行なわれた恵庭岳も公園内にある				
⑥	石狩河口橋	北海道開発局	26.0	42~50	延長 1412.7 m (うち第 1 期完成分 664 m), 幅員 10 m, 支間割 2 @ 61.9+64.0+160.0+64.0+4 × 4 @ 62.2+3 × 4 @ 62.2, 3 径間連続斜張橋	プレストレスしない連続合成桁は, わが国で最長支間である. また橋脚基礎の鋼管矢板セル型ウエルの開発採用
⑦	高速電車東西線	札幌市	480.0	49~50	延長 10.7 km, 零似~白石間全線地下, オープンカット工法, 河川部分ケーソン工法	ゴムタイヤ案内軌条方式, 自動改札機付, ATO 採用

図面 対照 番号	工 事 名	事業主体	事業費 (億円)	工 期 (昭和・年)	工 事 概 要	特 徴
⑧	札幌新道	北海道開発局	283.8	43~51	延長 21.1 km (うち橋梁 3.8 km) 4車線, 設計速度 60~80 km/h	市街地における低盛土で軟弱地盤工法にケミコパイル採用
⑨	石狩川下流都市 河川環境整備	北海道開発局	19.0	46~51	高水敷整地 54 万 m ³ , 低水路護岸 8 500 m ² , 芝張 390 万 m ²	河川景観の美化をはかり, 緑地, 遊園地, 運動場等施設の整備
⑩	石狩放水路	北海道開発局	36.0	47~51	延長 2 000 m, 水路幅 50 m, 掘削 220 万 m ³ , 浚渫 97.3 万 m ³ , 護岸 4 400 m	低地帯の整備
⑪	石狩湾新港	北海道開発局 北海道庁	49.0	46~50	都市型流通港湾の整備	内陸掘込式
⑫	札幌自動車道	日本道路公団	285.0	44~49	延長 24 km (札幌~小樽) (うち橋梁 1 684 m: 16 橋, トンネル 1 803 m: 3 か所, 高架橋 1 473 m: 7 橋), 切盛土量 327 万 m ³ , 4車線, 設計速度 80 km/h	昭和 46 年オリンピック道路として 2車線開通, 地質が複雑, 長大橋トンネルが多く, のり面保護工を多く施工
⑬	道央自動車道	日本道路公団	160.0	45~47	延長 24 km (札幌~千歳) (うち橋梁 1 961 m: 10 橋, 切盛土量 280 万 m ³ , 4車線, 設計速度 120 km/h	支笏湖火山地の安定した地質部分は切盛が容易であった
⑭	新冠水力発電所	北海道電力 株式会社	158.0	45~50	堤頂長 326.0 m, 高さ 102.8 m, 体積 306 万 m ³ , 地下式発電所 (最大使用水量 234 m ³ /sec, 有効落差 75 m, 放水路延長 1 966 m)	既設の下新冠調整池を下池とする揚水式発電所, 最大出力 20 万 kW, ロックフィルダム
⑮	大雪ダム	北海道開発局	147.0	43~49	堤頂長 440 m, 高さ 86.5 m, 堤体積 386 万 m ³ , 貯水量 6 600 万 m ³	中央コア型ロックフィルダム, 天端標高 812 m, 国立公園内であることより周辺の緑化に気を配っている
⑯	大雪発電所	北海道電力 株式会社	27.2	48~50	発電所最大使用水量 31.2 m ³ /sec, 有効落差 75 m, 放水路延長 1 966 m	
⑰	大雪山国立公園	わが国最大の面積を有する高山植物, さらに層雲峡・天人峡・然別湖畔等の温泉あり。また夏の登山, 冬のスキーに利用され, とくに十勝岳はスキーヤーのあこがれの地である			山岳公園で, 大雪・十勝の火山群を包含し, 山腹に広がる大原始林の偉容, 変化に富んだ溪谷, 本邦屈指の	
⑱	天塩川下流 水路	北海道開発局	23.6	46~51	延長 1 900 m, 水路幅 100 m, 浚渫 3 810 万 m ³ , 護岸 3 330 m, 橋梁 1	
⑲	阿寒国立公園	原始林におおわれた 3 大火山湖と雄阿寒岳・雄阿寒岳が配する原始の大景観および川湯・弟子屈・阿寒湖畔の温泉, とくに美幌峠からの屈斜路湖の大観, 神秘的摩周湖, アイス伝説を秘めた阿寒湖のマリモは有名である				
⑳	釧路港	北海道開発局 市	166.0	46~50	西港区の整備, 1号埠頭, 岸壁 (-9 m, -10 m, -7.5 m) 6 バース完成	
㉑	糠似ダム	北海道庁	16.0	45~49	治水ダム, 堤頂長 150 m, 高さ 44 m, 容積 8.4 万 m ³ , 貯水量 620 万 m ³ , 重力式	基礎地盤きわめて良好
㉒	矢別ダム	北海道庁	9.6	46~49	治水ダム, 堤頂長 86 m, 高さ 34.5 m, 容積 2.3 万 m ³ , 貯水量 260 万 m ³ , 重力式	道路の補償工費費が大きく占める
㉓	十勝ダム	北海道開発局	168.0	48~53	堤頂長 380 m, 高さ 81 m, 堤体積 340 万 m ³ , 貯水量 1 億 1 200 万 m ³	中央コア型ロックフィルダム, 治水・発電ダム
㉔	北帯広掘削工事	北海道開発局	21.5	47~52	築堤 13.2 万 m ³ , 掘削 143.4 万 m ³ , 護岸 1 900 m, 水制工 4 か所, 排水機場 1 か所	帯広市周辺の洪水疎通能力の増大を図るため, 水中掘削機を使用
㉕	国営かんがい排水 美唄地区	北海道開発局	141.7	32~49	用水路 19 か所, 延長 159 km, 頭首工 4 か所, 揚水機場 3 か所	石狩川流域総合開発事業の一部として設け地帯のかんがい排水施設を整備する
㉖	国営かんがい排水 天塩川上流地区	北海道開発局	160.8	42~52	用水路 6 か所, 延長 102 km, 排水路 3 か所, 延長 15 km, 頭首工 6 か所	大規模かんがい排水事業
㉗	国営総合農地開発 事業 茶内地区	北海道開発局	96.0	43~52	道路 43 本: 192.5 km (うち舗装 8 本: 62.5 km), 排水路 37 本: 85 km, 給水 392 戸	道東の厚岸町茶内地区に 5 600 ha の農地造成と既耕地 6 200 ha の基盤整備を総合的に実施し, 酪農の振興をはかる
㉘	国営農地開発事業 勇知地区	北海道開発局	30.9	45~52	道路 68 km, 明きよ 11 本: 12 km, 客土 37 ha, 暗きよ 1 133 ha	稚内市勇知地区のササの密生地に 2 450 ha の酪農用地を造成する
㉙	能取漁港	北海道開発局	21.9	45~48	西防砂堤, 西護岸, 西防波堤, 東防砂堤, 東防波堤, 岸壁 (-6 m, -4 m)	オホーツク海に面した能取湖口を 150 m 切開き湖の奥に漁港施設を作る
㉚	石勝線	日本鉄道 建設公団	387.0	38~50	延長 108 km, 主要幹線 2 線, トンネル 23 か所, 41.9 km (新登川 5 648 m; 登川 5 700 m, 新十勝 5 648 m, その他) 夕張川橋梁 363 m, 第 1 トマム川橋梁 232 m, ほか	一部の既設線と合せて石狩と十勝を結ぶ新線で山岳地帯を通る。道南道東間は 2 時間短縮される
㉛	豊平峡ダム	北海道開発局 札幌市	84.5	42~47	堤頂長 305 m, 高さ 102.5 m, 堤体積 29.8 万 m ³ , 貯水量 4 710 万 m ³	治水・発電・上水の多目的ダム, アーチ式コンクリートダム (非対称, 不均衡物線)
㉜	豊平峡発電所	北海道電力 株式会社	67.7	42~47	豊平峡発電所 (最大使用水量 26.4 m ³ /sec, 有効落差 221 m) 砥山発電所 (最大使用水量 21.5 m ³ /sec, 有効落差 54.7 m)	最大出力 5 万 kW 最大出力 1 万 kW
㉝	国道 229 号 線 改	北海道開発局	49.8	44~49	北松山~鳥牧間, 延長 6.6 km, 幅員 6.0 m+2 @ 1.25 m (トンネル 6 か所: 3.8 km, 橋梁 2 橋)	道分ソーランラインとも呼ばれ, 故事と景勝に富む海岸線である。不通区間の開削, 茂津田トンネル 1 920 m
㉞	国道 231 号 線 改	北海道開発局	74.3	47~52	浜益~増毛間, 延長 11.7 km, 幅員 6.0 m+2 @ 1.25 m (トンネル 7 か所: 5.3 km, 橋梁 2 橋)	日本海岸の急峻な国道不通区間の開削

図面 対照 番号	工 事 名	事業主体	事業費 (億円)	工 期 (昭和・年)	工 事 概 要	特 徴
⑳	国道 274 号 線 改	北海道開発局	97.8	47~52	穂別~日高間, 延長 20.5 km, 幅員 6.0 m+2 @ 1.25 m (トンネル 3 か所: 3.9 km, 橋梁 11 橋: 1571 m)	日高の山地を横断する道路を開削し, 道央と道東を短絡する, 地質の複雑な地帯を通過する
㉑	森 バイパス	北海道開発局	4.6	45~47	延長 3.6 km (うち橋梁 0.1 km), 幅員 6.5 m+2 @ 1.25 m, 設計速度 60 km/h	普通コンクリート舗装版厚さ 23 cm, 幅員 7.5 m, 延長 160 m (ワイヤーメッシュ 3 kg/m ²), 連続鉄筋コンクリート舗装版厚さ 20 cm, 幅員 7.5 m, 延長 1000 m (鉄筋量 16 kg/m ²), プレテンPCコンクリート舗装版厚さ 15 cm, 幅員 7.5 m, 延長 487 m (PC鋼材 4.4 kg/m ²)
㉒	美 唄 ダム	北海道庁	28.0	48~51	堤頂長 228.0 m, 堤高 35.2 m, 堤体積 7 万 5000 m ³ , 貯水量 150 万 m ³	上水・工業水多目的ダム, コンクリート重力式
㉓	佐 幌 ダム	北海道庁	32.0	48~52	堤頂長 250.0 m, 堤高 45.0 m, 堤体積 16 万 m ³ , 貯水量 1040 万 m ³	治水ダム, コンクリート重力式
㉔	厚 岸 大 橋	北海道庁	13.5	43~47	橋長 456.5 m 幅員 7.0 m+2 @ 1.5 m, ゲルバ一連続ワーレントラス (5 径間)	大正 9 年より渡船によっていた海上橋, 杭打船による大口径鋼管杭基礎
㉕	宗 谷 道 本 高 線 架 (旭 川 市)	北海道庁 日本国有鉄道	23.6	45~48	延長 2660 m (うち複線鉄道高架 1208 m・ラーメン式コンクリート橋脚・上部 PC 桁), 跨線橋 1	10 踏切除却, 20 道路が立体化された
㉖	石 北 道 本 高 線 架 (北 見 市)	北海道庁 日本国有鉄道	38.0	48~51	延長 3240 m (うちトンネル 2100 m・オープンカット方式), 単線	地下方式, 跨線橋 2, スロープ式人道橋 1
㉗	帯 広 の 森	帯 広 市	88.0	48~57	面積 686 ha, 陸上・野球・サッカー・弓場等施設の整備, 森林整備, 記念林整備	
㉘	北 広 島 団 地	北海道庁	130.0	45~49	面積 441 ha, 計画人口 3 万 1000 人, 建設戸数 8000 戸	人口密度 70 人/ha 程度, 48 ha の自然林を生じた公園を有する
㉙	厚別下水処理場	札幌 市	20.8	46~49	処理人口 50 万人, 計画面積 4646 ha (うち第 1 期として 10 万人: 762 ha), 活性汚泥法, 札幌市の東部地区を分担する	分流式では北海道で最大規模, 積雪寒冷のため全池に土屋を設置する
㉚	知床国立公園	北海道の東端に数少ない貴重な大自然, 原始のままの自然がひっそりと存在している。知床の山々, 切り立った断崖, 垂直に落下する滝, 原始林の中による五湖, 冬季には山頂を青氷でおおい, アルピニストの魅惑となってオホーツク海の激浪に洗われている。また, 陸の孤島, 秘境ともいわれる多くの人々から踏査されてきたが, いまだその全容は明らかにされず大吉のままの大樹, 半島一帯に棲息する動物, 植物など学術的にも貴重な資源であり多くの謎を秘めて横たわっている				

水工学に関する夏期研修会講義集・在庫一覧 あとは絶版となりました

●1965 B. コース

B 5・180・1500 円 (〒 140)

12. 波浪の推定に関する最近の研究/井島 13. 波浪スペクトル論とその応用/浜田 14. 漂砂論/堀川 15. 漂砂測定法/福島 16. 波圧論/光易 17. 消波構造論/尾崎 18. 北海道における海岸および港湾の諸問題/穴釜 19. 海岸保全計画論/久保島 20. 河口密度流論/柏村 21. 津波理論/室田

●1968 A. コース

B 5・206・1300 円 (〒 140)

1. 土木技術者の教育について/松尾 2. 波浪の数値予測/井島 3. 海岸計測論/光易 4. 沿岸潮汐の予知について/宮崎 5. 海岸保全/豊島 6. 特殊防波堤論/伊藤 7. 沿岸環境問題/和田 8. 河口安定論/吉高

●1971 A. コース

B 5・244・2400 円 (〒 140)

1. 流出系モデルとその解析/高樟 2. 都市化による流出変化/金丸 3. 水理システムとシミュレーション/岩佐 4. 構造物周辺の流れ/中川 5. 移動床の抵抗法則/松尾 6. 自流水の水質/小林 7. 水質汚濁の現状/湯沢 8. 地下水 (密度流的諸問題)/嶋 9. 中国地方の河川開発計画/山本 10. 流水中における物質の移流と拡散 (特別講義)/林

●1971 B. コース

B 5・284・2900 円 (〒 170)

1. 最近の波浪理論における境界値問題の解法とその応用/井島 2. 波浪に対する構造物の動的応答/岩垣 3. 瀬戸内海の海水交換/前川 4. 波の変形 (とくに長期波の進入による港域水面の振動について)/室田 5. 海浜過程/野田 6. シーバースの設計と施工/島田・内野 7. 瀬戸内海周辺の港湾整備計画/北村 8. 波浪観測とその解析/土屋 9. 工場排煙の大気拡散理論と応用/井出 10. 津波特論 (特別講義)/岩崎

●1972 A. コース

B 5・184・2300 円 (〒 140)

1. ダムの水理/安芸 2. 各種流出モデルの比較/木下 3. 水理学水文学におけるシステム解析/日野 4. 河道平面計画/木下 (良) 5. 治水史的にみた利根川の特長/高橋 6. 河口問題と現地調査/須賀 7. 土石流調査/奥田 8. 広域利水調査/中沢 9. 移動床流水における粗度/岸 10. 移動床流水の河床形態/芦田

●1972 B. コース

B 5・206・2500 円 (〒 170)

1. 非線型の波動問題/椎員 2. 越波とはい上がり/橋本 3. 日本の高潮/宇野木 4. 最近の漂砂対策工法/佐藤 5. 沿岸海岸における拡散予測/和田 6. 沿岸付近の流れ/堀川 7. 海洋性リゾートのデザイン序説/酒匂 8. 海岸構造物の諸問題/伊藤 9. 沿岸海洋に関する水理模型実験/樋口 10. クノイド波理論の実用化 (特別講義)/岩垣

祝 土木学会昭和48年度全国大会



株式会社 大林組

取締役社長 大林 芳郎

東京本社 東京都千代田区神田司町2ノ3 TEL東京(292)1111(大代表)
本店 大阪市東区京橋3ノ37 TEL大阪(943)1131(大代表)
支店 札幌・仙台・横浜・名古屋・神戸・岡山・広島・福岡・高松



鹿島建設株式会社

取締役会長 鹿島 守之助

取締役社長 渥 美健夫

本社 東京都港区元赤坂1丁目2番7号 電話東京(404)大代3311
支店 札幌・仙台・横浜・名古屋・大阪・広島・四国・九州

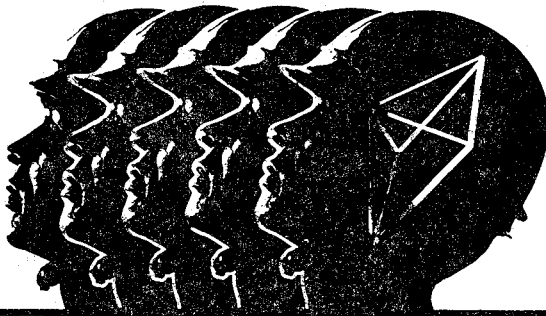


清水建設

社長 野地 紀一

本社 東京都中央区宝町2-1-1 〒104
TEL. 東京(535)4111

支店 名古屋・大阪・広島・高松・福岡
金沢・仙台・札幌



「科学」と「人の和」で
建設する

大成建設

取締役社長=南 幸治

〒104 東京都中央区銀座2-5-11
電話=(03)567-1511(大代表)

明るく豊かな未来を築く

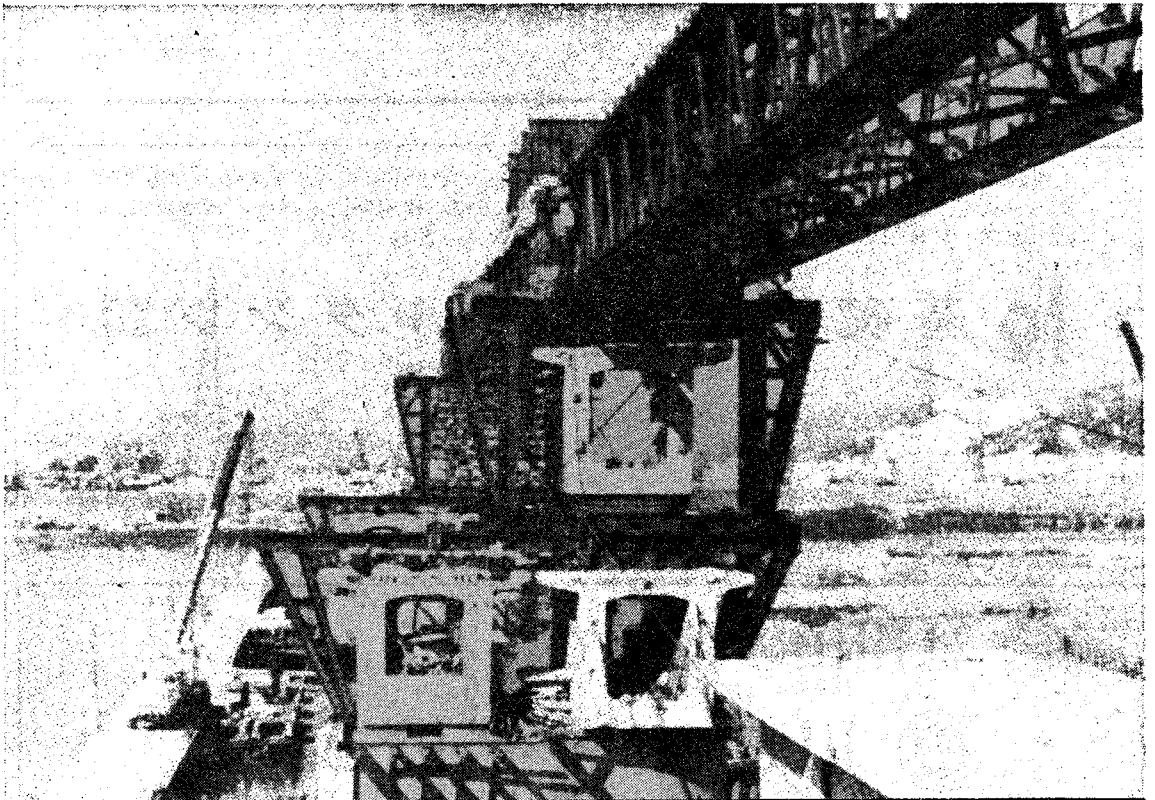


総合建設業
不動産業

東鉄工業株式会社 取締役社長 根来 幸次郎

本店 東京都新宿区市谷砂土原町2丁目7番地 電話 東京(268)4211(代表)
支店 東京・横浜・千葉・水戸・宇都宮・高崎・仙台・建築
営業所 静岡・埼玉・長野・新潟

住みよい国造りに活躍する 建設七社



熊谷組



佐藤工業



鉄建建設



飛島建設



西松建設

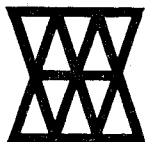


間組



前田建設

祝 土木学会昭和48年度全国大会



● 取扱業務 = 上水道・下水道・工業用水道・工業廃水処理・農業水利その他利水工事の調査・事業計画・実施設計・工事監督

日本上下水道設計株式会社

社長 工博 西堀 清六

東京都港区新橋3丁目11番8号 電話(432)4321代

大阪事務所 大阪市北区神山町40番地 電話(06)312-2031
 北九州事務所 北九州市八幡区黒崎3-1-3 電話(093)631-3165
 名古屋出張所 名古屋市東区松山町2番地 電話(052)962-2421
 札幌出張所 札幌市中央区大通西4丁目 電話(011)231-0944
 広島出張所 広島市東千田町1-3-12 電話(0822)41-3158
 仙台出張所 仙台市中央3-2-21 電話(022)66-2821

土質調査, 土質試験及び土質力学解析, 地表地質踏査, 弾性波探査, 電気探査, プレシオメータ測定, 振動測定, その他各種計測, 構造物, 基礎, 道路, 滑走路, 堰提等の調査及設計, 施工管理, PSアンカー工法等土と基礎に関する総合コンサルタンツ



基礎地盤コンサルタンツ株式会社

代表取締役 森 博

本社 東京都千代田区飯田橋2丁目4番5号(増田ビル) 電話(263)3611(代)
 大阪支社 大阪市西区靱2丁目10 電話(443)4951(代)
 福岡支社 福岡市西区大字原750~3 電話(83)2511(代)
 札幌支社 札幌市白石区菊水東町7~18 電話(822)4171(代)
 出張所・事務所 釧路・青森・仙台・千葉・名古屋・広島・長崎・宮崎・鹿児島・沖縄

“橋”は川田の技術で



川田工業株式会社

取締役社長 川田 忠雄

本社 富山・福野・4610 TEL 2101
 東京支社 文京・本駒込・3-29-7 TEL (942)0161
 大阪支社 西・土佐堀船・15 TEL (443)6051
 工場 富山・栃木・四国

OX JACKS リース

油圧各種ジャッキ電動、手動式・PC鋼線棒引張ジャッキ・土圧計・
 載荷試験及嵩上工事設計施工 都知事登録(わ)40994

オックス ジャッキ コンサルタント株式会社

東京都中央区新富1-2-10 電話 東京 (553)3501(代表)

祝 土木学会昭和48年度全国大会



株式会社 日本構造橋梁研究所

取締役社長 工学博士 田原保二
 取締役副社長 工学博士 猪股俊司
 取締役副社長 工学博士 久保義光

所在地 東京都港区南青山5の12-4号(全葉連ビル)

TEL (400) 9101~5

主要営業種目

橋梁・道路・建築
 コンサルタント
 試験研究
 設計
 調査
 測量
 施工管理

電気防蝕法

流電陽極方式
 アラノード

高濃度亜鉛塗料
 ゼッタール



鋼杭をさびから守る

建築基礎・橋梁基礎・棧橋等
 調査—設計—施工

日本防蝕工業株式会社

本社 東京都千代田区丸の内1-6-4(交通公社ビル) 電話東京(211) 5641代表
 蒲田事務所 東京都大田区南蒲田1丁目1番25号(蒲田常盤ビル) 電話東京(732) 3831代表
 大阪事務所 大阪市西区江戸堀北通2-22 電話大阪(443) 9271-5
 出張所 名古屋・四日市・広島・福岡・長崎・福山・札幌・仙台・千葉・高松

——橋づくりで社会に貢献する——



日本橋梁株式会社

本社・工場 ☎531 大阪市淀川区長柄浜通1-1-13 TEL 06-358-1271(代)
 東京支店 ☎103 東京都中央区日本橋3-5-12 TEL 03-272-3671(代)
 九州営業所 ☎810 福岡市中央区天神1-9-17 TEL 092-74-5088(代)
 札幌営業所 ☎060 札幌市中央区北三条西4-1 TEL 011-241-8457
 名古屋営業所 ☎460 名古屋市中区新栄町7-3 TEL 052-935-6068
 広島営業所 ☎730 広島市鉄砲町8-11 TEL 0822-27-1221

建設コンサルタント

橋梁、道路等建設工事の調査、設計施工管理
 構造解析、試験研究、電子計算プログラミング
 測量及地質調査業務

大日本コンサルタント株式会社

取締役社長 老田 務

本社 東京都千代田区神田佐久間町3-38(第五東ビル) 電話 03(862)9634
 技術部 埼玉県越谷市七左町5-1 電話0489(66)5621
 支(社)所 大阪・名古屋・富山・仙台・九州・沖縄

道路・水路・堤防・貯水池・各種舗装施工



世紀建設株式会社

取締役社長 大島 秀信

本社 東京都港区芝公園2丁目9番3号 電話 東京(434) 3251(大代表)
 支店 札幌・仙台・新潟・東京・名古屋・大阪・広島・福岡
 営業所 盛岡・上越・長野・北関東・千葉・横浜・岡山・熊本
 技術研究所 相模原市鹿沼台2-17-14 電話 0427(52)1219

祝 土木学会昭和48年度全国大会

消波根固ブロック協会

会長 山内 耕助

東京都港区芝琴平町1番地 虎門琴平会館ビル4階

協会会員 (五十音順)

- | | |
|---------------------------------------|---|
| 株) アジア建設研究所
ガンマー・エルブロック | 代表取締役 徳 永 一 視
本社 中央区日本橋人形町2-5-4 昭和ワニスビル7階 〒103 ☎03-668-9503 |
| 飯 田 建 設 (株)
亀 甲 ブ ロ ッ ク | 代表取締役 飯 田 敏 弘
本社 福岡市博多区東比恵2-15-25 〒812 ☎092-44-3811 |
| 技 研 興 業 (株)
六 脚 ブ ロ ッ ク | 取締役社長 角 田 式 美
本社 新宿区西新宿2-11-11 河野ビル 〒160 ☎03-342-6351 |
| 協 成 工 業 (株)
W・V ブ ロ ッ ク | 取締役社長 藤 野 淳 介
本社 千代田区有楽町1-5 有楽町ビル5階519 〒100 ☎03-212-2685 |
| 共同コンクリート工業(株)
四方錐(X)ブロック | 取締役社長 長 井 謙 介
本社 和歌山市小松原通3-3 〒640 ☎0734-23-7161 |
| 三 基 ブ ロ ッ ク (株)
三 基 ブ ロ ッ ク | 代表取締役 村 上 喜 千 雄
本社 港区芝5-26-24 〒108 ☎03-453-2031 |
| 三 省 建 設 (株)
ワ ー ロ ッ ク | 代表取締役 三 重 野 官 平
本社 北九州市小倉区浅野2-7-12 〒802 ☎093-521-5401 |
| シ ョ ー ク 工 業 (株)
シ ョ ー ク | 代表取締役 高 森 康 夫
本社 神戸市葺合区浜辺通5-2-1神戸商工貿易センタービル708号 〒651 ☎078-251-4155 |
| 治 水 工 業 (株)
中空三角ブロック | 取締役社長 新 井 敬 三
本社 大阪市北区太融寺町33 大阪合同ビル 〒530 ☎06-312-1878 |
| 中央アステロッド(株)
ア ス テ ロ ッ ド | 代表取締役 保 土 塚 満
本社 渋谷区代々木3-46-13 キクビリイツジ3-A 〒151 ☎03-379-1635 |
| 東 亜 港 湾 工 業 (株)
ベ ン タ コ ン | 代表取締役 岡 部 三 郎
本社 千代田区四番町5 東亜ビル 〒102 ☎03-262-5101 |
| 東洋建設(株)ブロック部
合 掌 ブ ロ ッ ク | 取締役社長 藤 井 八 郎
本社 千代田区神田錦町3-7-1 〒101 ☎03-291-5461 |
| 日 建 工 学 (株)
三 連 ブ ロ ッ ク | 取締役社長 行 本 昌 司
本社 新宿区西新宿1-18-2 新建ビル 〒160 ☎03-343-7231 |
| 日 本 ア ク モ ン (株)
ア ク モ ン | 取締役社長 金 下 修 三
本社 京都市中京区丸太町烏丸西入 金下ビル 〒604 ☎075-211-8414 |
| 日 本 コ ー ケ ン (株)
コ ー ケ ン | 取締役社長 鈴 木 文 行
本社 港区西新橋3-19-14 千代田会館 〒105 ☎03-434-3057 |
| 日本テトラポッド(株)
テ ト ラ ポ ッ ド | 取締役社長 江 口 辰 五 郎
本社 港区新橋2-1-3 新橋富士ビル 〒105 ☎03-501-7681 |
| 三 井 不 動 産 (株)
三 柱 ブ ロ ッ ク | 取締役社長 江 戸 英 雄
本社 中央区日本橋室町2-1-1 三井ビル 〒103 ☎03-241-2251 |
| 菱和コンクリート工業(株)
ホ ロ ー ス ケ ヤ ー | 取締役社長 山 内 耕 助
本社 千代田区外神田4-5-4 亀松ビル 〒101 ☎03-255-5711 |